

地所ヲ抵押ニ取りタル者カ眞實所有者ヨリ書入登記取消ノ訴追ヲ受ケタルトキハ第三者即チ名義上ノ所有者ノ權利ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得

名義上ノ所有者ヨリ地所ヲ抵押ニ取りタル者ニ對シ其抵押ノ無效ヲ主張スル眞實ノ所有者ハ先ツ名義上ノ所有者ノ權原ニ瑕疵アルコトヲ立證セサルヘカラス

鐵道採掘權ヲ金圓貸借ノ抵押ト爲シ債務不履行ノトキハ直ニ該採掘權ヲ引渡スヘシトノ特約ヲ付シアル場合ト雖モ其抵押物ノ處分ハ明治六年第三百六號布告ニ準據スヘキモノニシテ特約ニ依リ直ニ抵押鐵道區ノ引渡ヲ得ントノ要求ハ不當ナリ

期限到來ノ一事ニ因リ直ニ抵押附貸借ヲ變更シテ賣買ト爲ス合意即チ抵押直流ト爲ス合意ハ條理上許スヘカラサルモノナルニ依リ之ヲ適法ト認メタル裁判ハ抵押ノ原理ニ違背スル不法アリ

〔第三百六十九條〕

○抵押權設定者ハ同時ニ債務者若クハ保證人タル場合ヲ除ク外抵押權ヲ以テ擔保スル債務ヲ躬親ラ負擔スヘキ者ニ非サルカ故ニ其抵押權ノ實行ヲ免レンカ爲メニ債務ヲ辨濟スル權利ハ之ヲ有スレトモ抵押權者ハ之ニ對シテ唯抵押權ノ實行ヲ爲ス權利アルノミニ止マリ債務ノ辨濟ヲ強要スル權利ナキハ民法施行ノ前後ヲ問ハス是認スヘキ法理ナリトス

○遺贈ノ不動產ニ付キ遺贈者カ生前債權者ノ爲メニ抵押權ヲ設定シタルトキハ受遺者ニ於テ之ヲ他ニ賣渡スト否トニ拘ハラズ債權者ハ其目的

三〇	三〇	三〇	三〇
四	四	四	四
三	三	三	三
三六	三六	三六	三六

三	三
六	六
一五	一五

〔第三百七十條〕

物ニ追隨シテ自己ノ權利ヲ行使シ得ルカ故ニ受遺者カ賣却ヲ爲シタル爲メ抵押權者ニ損害ヲ生スヘキモノニ非ス從テ抵押權者ハ詐害行爲取消ノ訴權ヲ有セサルモノトス

○抵押權ノ目的タル地所若クハ建物ニ附加シテ之ト一體ヲ爲シ不動產ト目スヘキモノハ縱令特ニ之ヲ登記スルコトナシト雖モ尙ホ抵押權ノ及フヘキモノトス

○立木カ抵押權ノ目的タルハ土地ニ生立スル間ニ限ルモノニシテ一タヒ伐採セラレタルトキハ不動產タル性質ヲ失ヒ動產ト爲ルカ故ニ抵押權者ハ之ニ對シ抵押權ノ直接ノ目的トシテ其權利ヲ行フコトヲ得ス

○動產ハ不動產ニ附加シテ其一部分ヲ成ス場合ニ在ラサレハ之ヲ以テ抵押權ノ目的物トスルヲ得ス

○動產カ不動產ニ附加シテ抵押權ノ目的物ト爲リタルヤ否ヤヲ定ムルニハ該動產カ抵押物タル不動產ニ附加シテ之ト一體ヲ成スヤ否ヤヲ以テ標準ト爲ササルヘカラス

○民法第三百七十條ハ抵押權カ抵當地ノ上ニ存スル建物ヲ除ク外其目的タル不動產ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ニ及フコトヲ規定シタル

〔第三百七十條〕

三	三	三	三
八	八	八	八
一	一	一	一
七五	七五	七五	七五
八〇	八〇	八〇	八〇

モノナレハ之ト一體ヲ成スモノニ非サル法定果實ニ對シテハ抵當權ノ效力ヲ及ホスコトヲ得ス

(第三百七十一條)

『第三百七十一條』

○民法第三百七十一條ニ所謂果實ハ天然果實ノミノ謂ニシテ法定果實ヲ包含セス

(第三百七十二條)

『第三百七十二條』

○抵當權者ハ民法第三百六十九條ノ規定スル權利ノ外尙ホ同法第三百四條所定ノ權利ヲ有スルモノナレハ前條ノ規定ヲ以テ論スヘキ事項ニ付テハ後條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス

○債務者カ或擔保ヲ供シテ債務ヲ負擔シタルトキハ債權者ハ其債務ノ履行ヲ受ケタル後ニ非サレハ擔保ヲ解クコトヲ要セス故ニ債務者ヨリ債權者ニ對シテ其擔保ヲ解カシムル請求權ハ債務履行ノ後ニ非サレハ發生セサルモノトス

(同主旨)

債務者カ或擔保ヲ供シテ債務ヲ負擔シタル場合ニ於テ債務ノ履行ヲ爲スト債權者カ其擔保ヲ解クコトトハ同時ニ之ヲ履行スヘキモノニ非ス債務者カ其債務ヲ履行スルマテハ債權者ハ擔保ヲ解クコトヲ要セサルカ故ニ債務者ノ爲メニハ其債務ヲ履行シタル上ニ非サレハ擔保ヲ解クコトニ付テノ請求權發生セサルモノトス

三六

三七

三七

二

二

二八三

二五八

五五九

四六一

四六一

○抵當權ハ性質上不可分ナルカ故ニ債權者ノ承諾アルカ又ハ民法第三百七十七條同第三百七十八條ノ如ク明文ヲ以テ例外ヲ設ケタル場合ヲ除ク外縱令債權ノ一部ニ變更ヲ生スルモ其全部ノ辨濟アルニ非サレハ依然トシテ存立スルモノトス

三九

一〇五三

○抵當不動産ノ第三取得者カ民法第五百四條ニ依リ抵當債權ノ一部ニ對シ辨濟ノ責ヲ免レ得ル場合ト雖モ抵當權ノ消滅セサルハ勿論毫モ其變更ヲ生スヘキ理ナケレハ抵當登記ノ變更ヲ許シ得ヘキモノニ非ス

三九

一〇五三

○民法第三百七十二條ニ依リ同第三百四條ノ規定ヲ抵當權ニ準用スル場合ニ於テハ同條ノ所謂債務者トハ抵當權ノ目的タル不動産上ノ權利者ヲ指稱スルモノトス

四〇

二六五

○遭難船舶カ抵當權ノ目的タルトキハ抵當權者ハ船長又ハ船舶所有者カ受クヘキ公賣代金ノ殘餘ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ヘシ

四〇

六八五

○採掘權ヲ抵當トシテ金圓ヲ貸付シタル者ハ債權一部ノ辨濟ヲ受クルモ登録抹消又ハ變更ヲ爲スヘキ義務ナシ

四二

七三

○抵當權者カ如上債務者ノ受クヘキ不足額ノ債權ヲ差押ヘタルトキハ抵當權ハ直接ニ其不足額ニ及フモノナルヲ以テ差押抵當權者ハ自己ノ權利トシテ前競落人ニ對シ右不足額ノ支拂ヲ請求スル權利ヲ有スルモノトス

(同主旨)

民事訴訟法第六百八十八條ニ依ル不動産再競賣ノ場合ニ於テ前競落人ノ負擔スヘキ不足額ハ再度ノ競落代價ニ附加シテ共ニ不動産ノ代價ヲ成スモノトス從テ抵當權者ハ該不足額ニ對シ優先權ヲ行フコトヲ得ルモ先ツ其拂渡前ニ差押ヲ爲ササルヘカラス

第二節 抵當權ノ效力

○抵當權ヲ設定シタル債務者ハ抵當不動産ヲ他ニ讓渡シタル後ト雖モ讓受人ニ對シテハ之ヲ負擔ナキ狀態ニ至ラシムル責アル者ナレハ登記取消ノ請求ヲ爲スニ付テ正當ノ利益ヲ有スルモノトス

○當事者カ當座預金貸越契約ノ期間滿了後引續キ同種ノ契約ヲ以テ取引ヲ爲シ其計算ニ前契約ノ貸越ニ屬スル殘額ヲ組入レ更ニ差引計算ヲ遂クルコトヲ約シタルトキハ前契約ノ貸越殘額ハ之ヲ擔保スル抵當權存在ノ儘後契約ノ計算ニ組入レタルモノトス故ニ後契約ノ計算ニ於テ貸越ニ屬スル殘額ヲ生シタル以上ハ前契約ノ貸越殘額ヲ超過セサル金額

二	七二三
三九	三四四
三五	五

ニ對シ其抵當權ヲ行フコトヲ得

○抵當權者カ抵當權ノ實行ニ著手シ競賣申立ノ登記ヲ爲シタルトキハ不動産所有者ハ其不動産上ニ地上權其他ノ物權ノ設定登記ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論縱令競賣申立ノ登記前ニ成立シタル貸借契約ト雖モ之ヲ登記シテ競賣後ニ存續セシムルヲ得ス

【第二百七十三條】

(第三百七十三條)

○二番抵當權設定後ニ至リ一番抵當ノ債權額ヲ増加シタルトキハ二番抵當權者ハ抵當權ノ優劣ニ關スル權利關係ヲ速ニ確定スル利益アリ

○一箇ノ地所ニ對シ二箇以上ノ抵當權ヲ設定スルモ其抵當權ハ有效ニシテ此場合ニハ登記ノ前後ニ依リ其順位ヲ定ムヘキモノトス

○根抵當ハ之ヲ登記スルトキハ其登記ノ日ヲ以テ債權者ノ順位ヲ定ムルモノトス

○抵當權者カ同一ノ抵當物ニ對シ他ノ抵當權者ト順位ヲ爭フ場合ニハ抵當物所有者タル債務者ヲ措キ獨リ他ノ抵當權者ニノミ對シテ其請求ヲ爲スヘキモノニ非ス必スヤ債務者ト他ノ抵當權者トニ對シテ同一ニ其關係ヲ確定セサルヘカラス

○後位ノ抵當權者ノ申請ニ依リ競賣法ニ從ヒ抵當不動産ヲ競賣ニ付シタ

四	九九七
二	二
三三	二〇七
三三	二二五
三五	七二
三七	四六九

ル場合ト雖モ先位ノ抵當權者ハ其抵當權ヲ行使シテ競賣代金ニ付キ後位ノ抵當權者ニ先チ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ喪失スルモノニ非ス

(參照)

同一ノ地所ニ對シニ箇同等ノ書入權並存スヘキ道理アラス故ニ其日附ノ後ナル證書ハ無論無効ニ屬スルモノトス而シテニ番抵當ハ當初ヨリ其證書ニ其事ヲ記載セサルニ於テハニ番抵當タルノ效力ヲ有セス

第三百七十四條

『第三百七十四條』

○民法第三百七十四條ニアル利息トハ單ニ定期金ノ性質ヲ有スル利息ノミヲ指シタルモノニシテ元金支拂期限後ノ利息即チ所謂遲延利息ヲ包含セス

(同主旨)

民法第三百七十四條ニ所謂利息トハ單ニ定期金ノ性質ヲ有スル元金支拂期限前ノ約定利息ノミヲ指シタルモノニシテ元金支拂期限後ノ遲延利息ヲ包含スルモノニ非ス
遲延利息ナルモノハ民法第四百十九條ニ所謂金錢ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ因テ生スル損害賠償ニ外ナラサルカ故ニ同法第三百七十四條ニ所謂抵當權ノ利息中ニハ遲延利息ヲ包含セサルモノトス

○民法施行前ニ於テハ元金支拂期限前ノ利息ヲ指シ遲延利息ハ其内ニ包含セス
○民法施行前ニ於テハ抵當權ハ當ニ債權ノ元本ニ優先權ヲ付與シタルノ

ミナラス元本ニ對スル契約上ノ利息ハ勿論遲滯ニ因ル損害賠償ニモ亦其效力ヲ及ホシタルモノトス

(同主旨)

民法施行前ニ於テハ元金支拂期限前ノ利息ト期限後ノ遲延利息トニ區別ナク共ニ優先權ヲ付與シタルモノトス

○民法第三百七十四條ニ所謂利息其他ノ定期金ニハ遲滯利息ヲ包含セス
從テ民法施行前ノ設定ニ係ル抵當權ト雖モ其施行以後ニ發生シタル遲延利息ニ付テハ明治三十四年法律第三十六號ノ規定ニ該當セサル限ハ當然其效力ヲ及ホスヘキモノニ非ス

○重利ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル延滯利息ハ既ニ元本ニ組入レラレ其一部ヲ成スモノト解スヘキヲ以テ民法第三百七十四條ノ抵當權ノ行使上元本トシテ論スヘキモノニシテ利息トシテ之ヲ見ルヲ得ス故ニ抵當權設定ノ登記ニ重利ノ契約ヲモ併セ登記スルモ右法條ノ規定ニ抵觸スルモノニ非ス

○明治三十四年法律第三十六號ハ民法第三百七十四條第一項ノ法意ヲ明カニシタル解釋法規ニ外ナラサレハ同法施行以前ニ設定セル抵當權ノ實行ニ關シテモ亦適用アルモノトス

三七
五九

二五
五
二〇

三四
一
一六

三三
五
一

三三
九
一〇七

三六
二〇四

三三
九
一〇七

三六
二〇四

二
四六

二
七六

(第三百七十六條)

『第三百七十六條』

○民法第三百七十六條ハ抵當權ノ處分ヲ以テ對抗セラルル者ヲ制限的ニ列舉シタル旨趣ナレハ同條ニ主タル債務者ノ外保證人アルヲ援用シテ同第四百六十七條第二項ノ債務者以外ノ第三者中ニ保證人ヲ包含スルモノト論斷スルヲ得ス

元

二二四

(第三百八十一條)

『第三百八十一條』

○抵當權者カ抵當不動産ヲ競賣ニ付スルハ其競賣法ニ依ル競賣ナルト將タ民事訴訟法ニ依ル強制競賣ナルトヲ問ハス苟モ該不動産ニ付キ優先ノ辨濟ヲ受クル爲メナル以上ハ等シク抵當權ノ實行ニ外ナラス
○抵當權者カ抵當權ヲ實行セント欲スルトキハ第三取得者ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス而シテ此通知後法定ノ期間内ニ第三取得者ヨリ辨濟又ハ滌除ノ通知ヲ受ケサルトキ茲ニ始メテ抵當物ノ競賣ヲ請求スルノ權利ヲ生ス

三七

六五七

三七

六五七

○公正證書ニ消費貸借及ヒ抵當權ヲ設定セシ旨ノ記載アルモ實際證書作成ノ後登記ヲ經テ貸借ノ目的物ヲ授受シタルトキハ該證書ハ民事訴訟法第五百五十九條ニ規定スル強制執行ノ債務名義ト爲スヲ得スト雖モ其消費貸借及ヒ抵當權設定ハ必スシモ無効ニ非サルノミナラス判決ヲ

(第三百八十二條)

『第三百八十二條』

○民法第三百八十二條ノ一个月ノ期間ハ第三取得者ヨリ抵當權者ニ對シテ同法第三百八十三條ノ送達ヲ爲スニ付キ定メタルモノニシテ抵當權者カ抵當權ヲ實行スルニハ其通知後一个月ヲ經過セサルヘカラサルノ旨趣ニ非ス

四三

六八四

(第三百八十四條)

『第三百八十四條』

○民法第三百八十四條ニ所謂擔保ノ提供ナルモノハ少ナクモ增價競賣ノ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ競賣ノ申立ト同時ニ現實ニ之ヲ爲スヘキモノトス

三六

二九五

二

八五

(第三百八十七條)

『第三百八十七條』

○他人ノ土地ヲ冒認シテ之ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テハ抵當權設定ノ無効ナルハ勿論縱令抵當權者カ抵當物件ヲ競賣ニ付シ競落代金ヲ受領スルモ其競賣ニ因リテ所有權移轉ノ效力ヲ生スヘキ筋合ナク從テ眞ノ所有者ニ損失ナケレハ眞ノ所有者ト抵當權者トノ關係ハ不當利得ノ規定ニ該當セス

三六

九三

○實體上抵當權ヲ有セサル者カ抵當權者ナリトシテ不動産ヲ競賣ニ付ス

ルハ其不動産所有者ノ權利ヲ侵害スルモノニ外ナラサルヲ以テ所有者ノ請求ニ因リ競賣ノ申立ヲ取下ケ競賣手續ノ取消ヲ爲シテ其不動産ヲ原狀ニ復スルノ義務アルモノトス

〔第三百八十八條〕

○民法第三百八十八條ハ土地及ヒ建物カ同一ノ所有者ニ屬シタル場合ニ於テ土地若クハ建物ノミニ付キ抵當權ヲ設定シ其目的物競賣セラレルトキハ建物ハ建物トシテ存在シ得サルコトト爲ルカ故ニ主トシテ其競落人ヲ保護センカ爲メニ設ケラレタルモノトス從テ抵當權設定ノ當時土地及ヒ建物カ各所有者ヲ異ニスルトキハ同條ヲ適用スヘキモノニ非ス

○所有者カ土地及ヒ建物ヲ併セテ抵當ト爲シタル場合ト雖モ競賣ノ際其土地ト建物トカ各競落人ヲ異ニスルトキハ民法第三百八十八條ニ依リ其建物ノ爲メニ當然地上權ノ設定アルモノトス

○所有者カ土地及ヒ其上ニ存スル建物ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ競賣ノ結果土地建物共ニ一旦同一ノ人ニ競落シタルモ爾後建物ノ競落取消サレタルトキハ民法第三百八十八條ニ依リ其建物ノ爲メニ當然地上權ノ設定アルモノトス

元	八三
三九	二二〇
三六	二一九
三三	二〇三

○民法第三百八十八條ノ規定ニ依リ地上權ヲ取得セル建物ノ所有者ハ地上權ヲ設定シタル土地ノ所有者及ヒ該土地ノ競落人ニ對シテハ登記ナクシテ其權利ヲ對抗シ得ルモノトス

○同一ノ所有者ニ屬スル土地及ヒ建物ノ一方又ハ雙方カ抵當權ノ目的ト爲リタル場合ニ於テ其一カ任意ニ賣買セラレ所有者ヲ異ニシタル後他ノ一ノ競賣アルトキハ民法第三百八十八條ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

○土地及ヒ其上ニ存スル數箇ノ建物ヲ所有スル者カ其土地ト數箇ノ建物中ノ或建物トヲ抵當ト爲シ其他ノ建物ヲ抵當ト爲ササリシトキハ抵當權者カ抵當權設定ノ當時抵當ト爲ラサリシ建物ノ存在ヲ知リタルト否トヲ問ハス民法第三百八十八條ヲ適用スヘキモノナリ

○民法第三百八十八條ニ所謂建物トハ必スシモ單ニ主タル建物ノミヲ指稱セルモノニ非ス從タル建物ト雖モ主タル建物ヲ目的トシタル抵當權之ニ及ハサル場合ニ於テハ同條ノ適用ヲ妨ケサルモノトス

○民法第三百八十八條ノ規定ハ公益上ノ理由ニ基キ法律ヲ以テ地上權ノ設定ヲ強制スルモノナレハ縱令抵當權設定ノ當事者間ニ於テ抵當地ニ付キ地上權ヲ設定セサル特約ヲ爲スモ之カ爲メニ同條ノ適用ヲ妨クルモノニ非ス

三九	三九二
四〇	二五
四一	六七
四二	六七
四二	六七

○民法第三百八十八條ノ規定ハ抵當不動産競賣ノ時ニ地上權ノ設定アリタルモノト看做スヲ以テ其地上權ハ恰モ抵當權設定者ト競落人トノ間ニ於テ之ヲ設定シタルト同一視セルモノトス故ニ抵當地ノ上ニ存スル建物カ民法施行前ヨリ抵當權設定者ノ所有ニ屬スル場合ニ於テ同條ノ規定ニ依リ地上權ノ設定アリタルモノト看做サルトキハ抵當權設定者カ其建物ヲ所有スル事實ニ付キ抵當地ノ競落人ハ明治十九年法律第一號登記法第六條ノ所謂第三者ニ非ス

○同一ノ所有者ニ屬スル土地及ヒ建物ヲ併セテ抵當ト爲シタル場合ニ於テモ競賣ノ際單ニ其土地又ハ建物ノミ競落セラレタルトキハ民法第三百八十八條ヲ適用スヘキモノトス

○民法第三百八十八條ニ依リ發生シタル地上權ハ存續期間ノ定ナキモノナレハ同第二百六十八條第二項ノ規定ニ從ヒ當事者ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ其期間ヲ定ムヘキモノナレトモ此規定モ亦當事者ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ禁スルモノニ非ス

○民法第三百八十八條但書ノ規定ハ當事者カ其協議ヲ以テ地代ヲ定メタルトキハ該協定ニ依ルヘク又其協議調ハサルニ於テハ裁判所ニ請求シテ之ヲ定ムルノ法意ナリトス

四	四	四	四
二	二	二	六
三	三	三	七

(第三百九十條)

『第三百九十條』

○抵當權設定ノ後抵當不動産ノ所有權ヲ取得シテ共有者ト爲リタルモノハ其競賣ノ場合ニ第三取得者トシテ競買人ト爲ルコトヲ得

(第三百九十二條)

『第三百九十二條』

○民法第三百九十二條ハ數人ノ抵當權者間ニ適用スヘキ規定ニシテ數人ノ抵當不動産ノ所有者間ニ適用スヘキ規定ニ非ス

○民法第三百九十二條第二項ハ抵當權者カ或不動産ノ代價ヲ以テ債權ノ一部ノ辨濟ヲ受ケタル場合ト雖モ次ノ順位ニ在ル抵當權者ハ之ニ代位シテ他ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ行フコトヲ許シタルモノニ非ス

○民法第三百九十二條第二項ニ於ケル次順位抵當權者ノ代位權ハ其抵當權ノ設定ト同時ニ發生スルモノニ非スシテ先順位ノ抵當權者カ或不動産ノ代價ノミニ付キ債權全部ノ辨濟ヲ受ケタル場合ニ始メテ發生スルモノトス

(第三百九十五條)

『第三百九十五條』

○民法上裁判所カ權利者ノ請求ニ因リ或關係ノ解除ヲ命スルコトヲ得ヘキ規定ノ設アル場合ハ實體上ノ法律關係ヲ解除セシムル法意ニ出テ其請求ハ訴ノ形式ニ依ルヲ常トス

三	四	四	四
二	二	二	六
三	三	三	七

○貨貸借ニシテ民法第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エ且抵當權登記ノ後ニ登記セラレタルモノハ抵當權者ニ對シ其效力ヲ生セサルカ故ニ抵當權者カ其權利ヲ實行スルニ當テハ貨貸借ナキモノトシテ目的タル不動產ヲ競賣スルコトヲ得ヘク從テ競落人モ亦貨貸借ナキ不動產ノ所有權ヲ取得スヘシ

○民法第六百二條ノ規定ニ違背セル契約ニ依リ抵當地所ヲ貸借スルモ其貸借權ハ無効ニシテ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ス故ニ其抵當權ノ實行トシテ抵當地所ヲ競賣ニ付スルトキハ競落人ハ完全ナル所有權ヲ取得スルモノニシテ貸借人ハ其競落ノ通知ヲ受クルト同時ニ惡意ノ占有者ト爲ルモノトス

○民法第三百九十五條ハ專ラ抵當權者ト貸借人トノ關係ヲ規定シタルモノトス故ニ抵當權者カ其權利ヲ實行シテ競賣不動產ノ競落人ト爲リタル場合ニハ同條ヲ適用スヘキモノニ非ス

○民法第六百二條ニ定メタル貨貸借ノ期間ハ同第三百九十五條ノ場合ニ於テモ亦之ヲ更新スルコトヲ妨ケス

○登記簿上第一次ニ貸借權設定ノ登記第二次ニ其權利移轉ノ登記アリテ抵當權者カ民法第三百九十五條但書ノ規定ニ從ヒ第一次ノ登記原因タ

三

七九

三

四

三

一四七六

四〇

九七

ル貨貸借ノ解除ヲ請求スル場合ニ於テ第二次ノ登記原因タル貸借權ノ移轉カ假裝ニ出テタル無効ノ行爲ナルトキハ其第一次及ヒ第二次ノ登記ハ孰レモ之ヲ抹消スルノ必要アルモノトス

○民法第三百九十五條ハ不動產ノ所有者カ未タ其行爲ノ制限ヲ受ケサル通常ノ場合ヲ規定セルモノニシテ競賣ノ申立ニ依リ其行爲ヲ制限セラレタル場合ヲ包含セス

第三節 抵當權ノ消滅

○抵當地所ヲ債權者カ買受ケタルトキハ其所有權ノ移轉ト共ニ抵當權ハ消滅スルモノナリ故ニ縱令公簿上該地所ノ所有權カ債權者ノ名義ト爲ラサルモ債權者ノ承繼人ハ事情ヲ知ラサル第三者ナリト云フコトヲ得ス

第二編 債權

○無盡講又ハ賴母子講ノ當籤ニ基ク權刑關係ハ會主若クハ世話人ト債務者タル當籤者トノ間ニ直接ニ成立シ會主又ハ世話人自己ノ債權トシテ之ヲ請求シ得ルヤ將タ債務者タル當籤者ト未當籤者タル他ノ講員トノ間ニ成立スヘキヤハ一ニ各講會ノ契約如何ニ依リテ之ヲ判定スヘキモ

四

九三三

二

二

三

五

四九

ノニシテ法律上一定ノ條規アルコトナシ
 ○行政處分ニ依リ公有ニ屬スル堤防敷地使用ノ權ヲ得タル者ハ使用命令ノ旨趣ニ從ヒ其範圍内ニ於テ該敷地ヲ自己ノ私用ニ供シ之ヲ使用シ得ルニ過キサレハ其權利ハ私權ニシテ而モ一種ノ財產權タルニ止マリ之ヲ以テ一種ノ物權又ハ債權ナリト云フヲ得ス

第一章 總則

○損害賠償ノ請求權モ亦債權ナリ

第一節 債權ノ目的

〔第四百一條〕

○民法第四百一條ハ同一種類ノ物品中或物ヲ以テ債權ノ目的物ト爲シタルニ止マリ其物件ヲ特定セサル場合ニ債務者ハ如何ナル品質ヲ有スル物ヲ給付スヘキヤヲ定メタルモノニシテ當事者カ其目的物ノ種類ヲ指示セサル場合ニ關スル規定ニ非ス

○當事者カ孟買棉ヲ以テ賣買ノ目的物ト爲シタル場合ハ即チ債權ノ目的物ヲ指示スルニ種類ノミヲ以テシタルモノニ該當ス從テ其種類中ノ細別種屬ヲ知了シ能ハサルモ之カ爲メニ法律上不履行ニ因ル損害額ヲ算

三七 三〇三

三七 一五二

三九 九四

三九 三四七

定スヘキ標準ナシト云フヲ得ス

〔第四百四條〕

（參照）

判決執行ニ至ル迄ノ利子ニ付テハ債權者ハ未來ノモノト雖モ訴權ヲ有ス故ニ之ヲ辨濟スヘシトノ判決ハ不法ニ非ス
 利子ヲ附スヘキ義務アルトキハ元金辨濟ノ日ニ至ル迄ノ利子ヲ附スヘキハ當然ナルニ依リ判決執行ニ至ル迄ノ利子ヲ支拂フヘシトノ裁判ハ相當ナリ

〔第四百六條〕

○選擇債務ニ在リテモ當事者間ニ於テ始ヨリ選擇權ヲ債權者ニ付與スル特約ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二節 債權ノ效力

○或債權ト株式トノ交換ニ因リ損失ヲ被フリタル事實ヲ理由トシテ損害賠償ヲ請求スル場合ニ於テハ株式ノ價格ハ特別ノ事情存セサル限時價ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス

〔第四百十二條〕

○遲延利息ハ性質上民法ノ所謂損害賠償ニ外ナラス

（同註）

金錢ノ貸借ニ於テ辨濟期限後ノ利息ハ損害賠償ノ性質ヲ有スルハ固ヨリ論ヲ俟タサレトモ又

三九 一六八七

三〇 八三

三一 三〇

四一 二五五

四二 九五九

三四 一四二

ニテハ法律上履行ノ不能ト看做シ得ヘカラサルモノトス
○債務不履行ノ爲メ損害ヲ被フリタルトキハ債權者ハ契約ヲ解除セスシテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

(同主旨)

債務不履行ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スル場合ニ於テ債權者ハ必スシモ之ト同時ニ契約解除ノ請求ヲ爲スコトヲ要セス

○債權者ハ債權ノ目的物カ滅失シテ履行ノ不能ニ歸シタル場合ニ限り損害賠償ノ權利ヲ有スルモノニ非ス債務者カ債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲ササルトキ又ハ其責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキニモ亦此權利ヲ有ス

○民法施行前ニ於テハ預金返還ノ方法ヲ定メタル契約カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ全ク履行スルコト能ハサルニ至リタルトキハ債權者ハ直ニ預金ノ返還ヲ請求シ得タルモノトス

○賣買契約ノ不履行ヲ原因トスル損害賠償請求ノ訴ニ於テ損害ノ數額ヲ算定スルニハ必スシモ契約履行地ニ於ケル目的物ノ價格ヲ以テ標準ト爲ササルヘカラサルモノニ非ス

○債務者カ契約ノ履行ヲ怠リタル以上ハ爾後其責ニ歸スヘカラサル事由

ニ因リテ履行不能ト爲ルモ其履行ニ關シテ責任ヲ免ルルコトヲ得ス
○債務者ハ履行不能又ハ不可抗力ノ場合ヲ除ク外過失ノ有無ニ拘ハラス其不履行ノ責ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

(同主旨)

債務不履行ノ事實アルニ於テハ其債務者ノ故意又ハ過失ニ基因スルト否トヲ問ハス債權者ハ民法第四百十五條ニ依リ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

○商人カ營業ノ目的トシテ或物品ヲ買受ケタルモ賣主カ契約ヲ履行セサル場合ニ於テ其履行期限後ニ至リ目的物ノ價格騰貴シタルトキハ縱令買主ニ於テ實際之ヲ他ニ賣却セサルモ賣主ニ對シテ其騰貴シタル差額ノ賠償ヲ請求シ得ルモノトス

(同主旨)

賣買ノ後其目的物ノ價格カ經濟上ノ趨勢ニ因リ自然ニ騰貴シタル場合ニ於テ賣主カ契約ヲ履行セサルトキハ買主ハ買受ケタルト同一ノ代價ヲ以テ他人ニ其目的物ヲ賣渡シタルト否トニ拘ハラス賣主ニ對シテ騰貴額ノ賠償ヲ請求シ得ルモノトス

○無盡講ノ世話人ニシテ約定期日ニ開會ノ手續ヲ爲シ講員ヨリ掛金ヲ徵集シ之ヲ當籤者ニ交付スルノ義務ヲ負フ者カ其義務ニ違背シ該期日ニ開會ヲ爲ササル爲メ未當籤者タル講員ニ於テ掛込金及ヒ利金ノ辨償ヲ請求スルハ即チ債務ノ不履行ニ基ク損害ノ賠償ヲ要ムルモノニ外ナラ

三九	四一	四〇	四二	三九
一三五六	一〇一	一〇六七	二九〇	一六〇七

三四	三四	三三	三六	三六	三三	三六
三	三	九	八五	一九	九九	九三
四一	九三	九九	八五	一九	九九	九三

○不動産ノ受寄者カ擅ニ其目的物ヲ他人ニ賣渡シテ登記ヲ爲シ買戻其他ノ方法ニ依リテ之ヲ自己ノ手裡ニ回復シ得サル場合ニ於テハ既ニ寄託者ニ對シテ返還ノ義務ヲ履行スルコト能ハサルモノナレハ理論上其不動産ヲ買戻シ得ルノ一事ニ依リ寄託者ハ先ツ物ノ返還ヲ要求シ其不履行アリタルトキ始メテ損害賠償ヲ請求セサルヘカラサルモノニ非ス

○主タル債務ノ不履行ニ因リ相手方ニ損害ヲ生セシメタルトキハ主債務者ハ既ニ契約ノ解除アリタルト否トニ論ナク其損害ヲ賠償スル責ニ任セサルヘカラス從テ主タル債務ヲ擔保セル保證債務モ亦特別ノ事情ナキ限ハ其損害賠償ノ責任ヲ包含スルモノトス

○債務者カ自己ノ債務ヲ履行スヘキ日ニ其履行ヲ怠リタルトキハ債權者ハ之カ爲メニ同日ヨリ損害ヲ被フルモノナレハ債務者ニ於テ其日ヨリノ損害ヲ賠償スルヲ當然トス

○當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ所有權移轉ノ登記手續ヲ爲スヘキ義務ヲ負ヒタル場合ニ在テハ其義務履行ノ當時其目的物ニ付キ所有權ヲ有セサル一事ハ義務履行ノ絶對的不能ノ原因ト爲ラサルヲ以テ法律上爲シ能フ限ハ其義務ヲ履行スルニ必要ナル行爲ヲ爲スヘキヲ當然ノ法則

四二

九六二

四二

二〇六

四三

三五

四三

九五九

ナリトス

○契約上ノ義務履行ニ付キ特約ニ因リ責任ノ程度ヲ輕重スルコトハ故意ノ責ヲ負ハサル旨ノ特約ヲ除ク外公ノ秩序ニ反スル所ナク又法律ノ禁止スル所ニモ非サルヲ以テ賃借人カ重大ナル過失ナキモ失火ノ責ニ任スヘキ旨ノ特約ハ有效ナリトス

○家屋ノ賃借人カ失火ニ因リ其家屋ヲ燒失セシメ因テ之カ返還義務ヲ履行セサルトキハ一面ニ於テ不法行爲タルト同時ニ他ノ一面ニ於テハ債務ノ不履行ナリトス從テ民法第七百九條ノ責任ナキ場合ト雖モ同第四百十五條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

○買主カ契約ニ違背シテ目的物ヲ引取ラサルモ賣買契約ノ解除セラレサル限り賣主ハ約定ノ代金ヲ請求スルコトヲ得ルヲ以テ其目的物ノ低落シタルカ爲メ賣主ハ右約定代金ト低落シタル時價トノ差額ヲ損害賠償トシテ請求スルヲ得ス

○請負工事ノ履行不能カ請負人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ原因シタルトキハ注文者ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモ請負人ノ既ニ爲シタル工事ノ部分ニ對シ報酬ノ幾部ニ相當スル金額ノ支拂ヲ免ルルコトヲ得ス

○民法第四百十五條同第五百四十三條ニ所謂履行不能ハ必スシモ物理的

四四

三七二

四五

二八四

四五

三二五

元

一〇二五

元

一〇六六

命スヘキ場合ト毎年又ハ毎月支拂ヲ命スヘキ場合トハ其總額ニ於テ多少ノ差異アルヘキコトニ留意シ他方ニ於テ被害者ノ得ヘカリシ收入額中ヨリ其生活ノ爲メニ費消スヘカリシ金額ヲ控除スヘキモノトシテ斟酌セサルヘカラス

○不當ノ假處分ニ因リ賣買契約ヲ解除シ手附金倍還シノ損害ヲ被フリシコトニ付テハ假處分申請者ニ於テ其當時手附金ノ關係ヲ豫見シ又ハ豫見シ得ヘカリシ事實アリヤ否ヤヲ確定シ以テ賠償責任ノ有無ヲ判定セサルヘカラス

○債權者カ民法第四百十六條第二項ノ規定ニ基キ特別ノ事實ヲ主張シテ損害賠償ヲ請求スル場合ニ於テ反對ノ意思表示アラサル限り其請求ハ同條第一項ノ通常生スヘキ損害ノ賠償ヲ請求スル旨趣ヲ包含スルモノトス

○賣主カ契約ノ目的物タル架橋用石材ヲ期限内ニ引渡ササル爲メ買主ニ於テ其石材ノ供給ヲ約シタル第三者ニ對シ義務ヲ履行スルコト能ハサルニ至リタルヨリ一時履行ノ猶豫ヲ求メ假橋架設ノ用材ヲ供與シタルトキハ其出捐ハ民法第四百十六條第二項ノ所謂特別ノ事情ニ因リテ生シタル損害ニ外ナラス

二	九二〇
三七	一七九
四	四七七
四	一〇七三

(參照)

或場合ニ於ケル利子ノ請求ハ損害賠償ニ異ナラスト雖モ其損害タルヤ未確定ノモノニ非ス必然發生スヘキモノニシテ唯其日數ノ未定ナルカ爲メ起訴ノ當時ニ於テ其金高ヲ明カニ計算シ能ハサルニ過キサルモノナレハ損害ノ有無判然セサル場合ト同一ニ論スルヲ得ス
出訴後ノ利子ハ必然發生スヘキモノナルヲ以テ起訴ノ當時ニ於テ請求權ノ發生セサルモノト云フヲ得ス

(第四百十七條)

『第四百十七條』

○民法第四百十七條ニ所謂金錢トハ内國通用ノ法定貨幣ノミヲ指稱セルモノトス從テ被害者カ單ニ加害者ノ不法行爲ヲ原因ト爲シ其損害賠償トシテ外國通用貨幣ノ給付ヲ要メタルハ不合法ナリ

(第四百十九條)

『第四百十九條』

(刑) ○不法行爲ニ因ル賠償ノ遲延ヨリ生スル損害賠償額ハ法定利率ニ依リ之ヲ算定スヘキモノニシテ法定利率ハ年五分ナリトス
○消費貸借ノ場合ニ於テ借主カ遲滞ニ付セラレタルトキハ貸主ハ利息ニ關スル約定ノ有無ニ拘ハラズ法定利率ニ依ル損害ノ賠償ヲ請求スルノ權利アリ

○金錢ヲ目的トスル債務ヲ負擔シタル者カ履行ヲ爲ササル爲メ債權者ヨリ損害ノ賠償ヲ要メタル場合ニ若シ當事者間約定ノ利率アリテ其額カ

二八	一〇六
二九	七三
三九	二三六
三七	三八九
三元	一六

法定利率ニ超過スルトキハ裁判所ハ民法第四百十九條第一項但書及ヒ利息制限法ニ依リ其制限ヲ超ヘサル程度ニ於テ賠償額ヲ量定セサルヘカラス

○金錢ヲ目的トスル債務ヲ履行セサル者カ其不履行ニ因ル損害トシテ約定利率ニ相當スル金額ヲ賠償スルノ責ニ任スヘキコトハ民法施行前ニ於テモ是認セラレタル法則ナリ

○民法第四百十九條ノ規定ハ債權者カ債務者ニ對シテ有スル權利ノ範圍ヲ定メタルニ過キサレハ金錢カ債務者ノ手ニ在ル間ニ生シタル利益ノ存否多少ヲ定ムル場合ニ當然適用スヘキモノニ非ス

○金錢債權ノ債務者カ履行ヲ遅延シタルトキニ於テ民法第四百十九條ニ依リ損害賠償トシテ支拂フ金額ハ所謂遅延利息ニシテ利息タル性質ヲ具有スルモノトス

○買主ノ代金不支拂ニ因ル損害賠償ノ額ハ民法第四百十九條第一項ノ規定ノ利率ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノニシテ賣主ハ實際ノ損害如何ニ拘ハラズ右利率ニ相當スル賠償額ノ外請求スルコトヲ得サルモノトス

(參照)

出訴以後ノ利子ハ別段ノ申立ナキモ附從義務ノ性質トシテ義務盡了即チ執行當日迄主タル貸

三九	四〇	四一	四二	四三
六五	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
六七五	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四

金ニ隨伴スヘキハ當然ノ法理ナリ
遲滞ノ利息トシテ法律上ノ利息ヲ請求スルハ契約ヲ以テ利息ノ割合ヲ定メサル場合ニ限ルモノトス
法律上ノ利子ハ金錢ヲ目的トスル義務ノ遅延ノ損害賠償ナリ故ニ物件ヲ目的トスル義務ニ付テハ之ヲ請求スルヲ得ス

(第四百二十條)

『第四百二十條』

○民法實施前後ヲ問ハス當事者ハ賣買ノ違約ヨリ生スル損害額ヲ豫定スルコトヲ得裁判所ハ濫ニ其豫定額ヲ増減スルコトヲ得ス

○當事者カ契約不履行ノ際違約者ノ支拂フヘキ金額ヲ豫定セル場合ニハ反對ノ契約ナキ以上ハ損害ノ有無又ハ多少ヲ問ハス違約者ヨリ其豫定金額ヲ支拂フヘキモノトス

(參照)

過意約款ニ定ムル所ノ損害ニ付テハ裁判所ハ之ニ立入り其生否及ヒ多少ヲ審査スルヲ得サルヲ以テ原則トス
組合規定ヲ以テ或行爲ニ過料若クハ沒收ノ制裁ヲ附スル契約ハ過意約款ヲ附シタルニ過キス

(第四百二十三條)

『第四百二十三條』

○民法第四百二十三條舊商法第七百六十五條同第四百條及ヒ民法第四百七十條ハ約束手形ノ讓受人カ讓渡人ヲ強迫シ裏書讓渡ヲ爲サシメタル

二六	二九	四〇	三一	三〇	二九	二六
一	四	九	九	四	一	一
七三	六四	二八	二〇	二六	一三	三六

ヲ原因トシテ而カモ其手形ノ振出人ヨリ讓渡人ト讓受人トニ對シ讓受
渡ノ取消ヲ求ムル場合ニ適用スヘキ法條ニ非ス

○民法第四百二十三條第一項ノ規定ハ債權者カ自己ノ利益ノ爲メニ第三
債務者ヲシテ債務者ニ辨濟ヲ爲サシメ以テ債務者ノ財産ノ減少ヲ防ク
コトヲ許シタルニ過キスシテ直接ニ第三債務者ヨリ辨濟ヲ受クルコト
ヲ許シタルモノニ非ス

(同主旨)

民法第四百二十三條第一項ハ債權者カ債務者ニ代リテ債務者ノ權利ヲ行フコトヲ得ルトノ法
意ナリトス

民法第四百二十三條ニ債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行フコト
ヲ得トアルハ債務者ニ於テ第三債務者ニ對シ或權利ヲ有スル場合ニ債權者カ債務者ニ代リ其
地位ニ立テ第三債務者ニ係リ債務者ノ有スル權利ヲ行フニ過キサルモノトス

民法第四百二十三條第一項ニ該當スル場合ニ於テハ債權者ハ間接ニ債務者ニ屬スル訴權ヲ行
フコトヲ得ルモノニシテ其訴追ノ結果判決確定ノ後第三債務者ヨリ債務ノ取立ヲ爲スノ權ア
リト雖モ自己ノ債權ニ對シ直接ノ辨濟ヲ請求スヘキモノニ非ス

○債權者ハ債務者ノ辨濟資力不十分ナル場合ニ在ラサレハ代位訴權ヲ行
フコトヲ得ス從テ債務者カ爲シタル行爲ノ無効ヲ確認セシムルニハ其
資力ノ不足ト爲リタルコトヲ立證セサルヘカラス

三	七	二六
三九	四二	四一
三六	二	一〇一
三六	八四	
三六	三八	
三九	三七	

○債權者ハ民法第四百二十三條同第四百二十四條等ノ場合ヲ除ク外其債
權ニ關シ第三者ニ對シテ請求權ヲ有セサルモノトス

○民法第四百二十三條ニ於テ債權者ニ付與シタル代位訴權ハ債務者カ其
權利ヲ行ハサル場合ニ限り債權保全ノ爲メ之ヲ行フコトヲ得ルニ過キ
サレハ苟モ債務者ニシテ既ニ其權利ヲ行ヒタルトキハ結果ノ良否如何
ニ拘ハラズ債權者ハ更ニ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス

○甲者カ其所有ニ屬スル土地ヲ乙者ニ賣渡シ乙者ハ更ニ之ヲ丙者ニ賣渡
シタル場合ニ於テ孰レモ其賣買ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ爲ササルト
キハ丙者ハ民法第四百二十三條ニ依リ乙者ニ對スル登記手續ノ請求權
ヲ保全スル爲メ乙者ノ甲者ニ對スル登記手續ノ請求權ヲ行使シ得ルモ
ノトス

○民法第四百二十三條ハ債權者カ保全セントスル債權ニ付キ別ニ制限ヲ
設ケサルヲ以テ同條ノ適用ヲ受クヘキ債權ハ債務者ノ權利行使ニ依リ
テ保全セラルヘキ性質ヲ有スレハ足り其債務者ノ資力ノ有無ニ關係ヲ
有スルト否トハ必スシモ之ヲ問フノ要ナシ

○債權者カ債務者ノ資力ノ有無ニ關係ナキ債權ヲ保全セントスル場合ト
雖モ苟モ債務者ノ權利行使カ其保全ニ適切ニシテ且必要ナル限ハ民法

三九	一五七
四二	一五〇
四三	五三七
四三	五三七

第四百二十三條ノ適用ヲ妨ケサルモノトス從テ債務者ノ無資力ナルコトハ必スシモ同條適用ノ要件ニ非ス

○民法第四百二十三條ハ債權ノ效力ニ關スル規定ニ過キササルヲ以テ抵當權ヲ行使スル場合ニ於テハ其適用ナキモノトス

(參照)

甲カ乙ニ對スル權利ノ爲メ丙ノ乙ニ負フ所ノ義務即チ乙ノ債權ヲ差押フル場合ニ於テ丙ヨリ金圓ヲ受取ル能ハサル事實即チ再ヒ金圓ヲ返辨シタルコトアルニモ拘ハラス甲カ當然乙ヨリ得ヘキ權利ナ有シシ如ク乙ノ權利ヲ行ヒタルモノトシテ判決シタルハ事實ヲ不當ニ確定シ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリ

債務者ノ總財產ハ各債權者ノ共同擔保ニシテ債務者ノ債權ノ如キモ亦其財產ノ一部ナレハ債務者カ自ラ其權利ノ行使ヲ拒ミ若クハ之ヲ怠リ爲メニ其財產ニ減少ヲ來シ各債權者ノ共同擔保權ヲ害セントスル恐アル場合ニ於テハ債權者ハ自己ノ債權保全ノ爲メ債務者ニ代リ代位訴訟ヲ提起シ得ヘキコトハ一般法理ノ認ムル所ナリ

第四百二十四條

『第四百二十四條』

○債務者カ商法上ノ預證券等ニ裏書ヲ爲シ之ヲ讓渡シタルトキハ縱令其讓渡ハ虛偽ナルニモセヨ其裏書ヲ取消スニ非サレハ債權者ニ於テ之ヲ處分スルヲ得サルニ付キ其裏書ハ所謂詐害行爲ニシテ民法第四百二十四條ニ依リ之カ取消ヲ求メ得ヘキモノトス

○立木ノ賣主カ引渡約定ノ期間中買主ノ權利ヲ害スヘキ惡意ヲ以テ自己ノ不動産ヲ賣却シ又ハ抵當權ヲ設定シテ無資力ト爲リ買主ヨリ損害賠償ヲ請求スルモ其效ナキニ至ラシメタルトキハ買主ハ民法第四百二十四條ニ依ルノ外其債權ヲ保全スル方法ナシ故ニ同條ノ規定ハ右等ノ場合ヲモ亦之ヲ包含スルモノニシテ直接ニ金錢上ノ債權關係ニノミ限定シタル精神ニ非ス

○民法第四百二十四條ノ規定ハ債權者ニ於テ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ請求スルモノタル上ハ其債權ニシテ共同擔保ニ過キササル場合ナルト特別擔保タル抵當權ノ設定アル場合ナルトヲ論セス苟モ債務者カ爲シタル法律行爲ニ出テ債權者ヲ害スルモノナレハ一般ニ通シテ之ヲ適用スヘキモノト解釋セサルヘカラス

○債務者以外ノ者ノ爲シタル法律行爲ニ對シテハ縱シヤ債權者カ間接ニ害セラルルモノトスルモ民法第四百二十四條ノ規定ニ基キ其取消ヲ請求シ得ヘキモノニ非ス

○民法第四百二十四條ニ謂フ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル行爲トハ債權者ノ權利ヲ詐害スル行爲ヲ指シタルモノニシテ債

四

五七

二

七三

二五

一

四二

三一

一

三六

三四

九

七六

三五

二

九

三六

一三二

三六

一三二

權ノ成立ニハ毫モ影響ヲ及ホスコトナク單ニ其實效上ニ不利益ナル結果ヲ及ホス行爲ヲ云フ

三六

一三三

○民法第四百二十四條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テ債務者カ債權者ニ對スル辨濟ノ資力ヲ薄弱ナラシメ之カ爲メ債權者ニ現實ノ損害ヲ被ムラシメタル以上ハ縱令受益者又ハ轉得者ヨリ對價ヲ支拂ヒタリトスルモ斯ル事實ハ惡意ヲ以テ爲シタル法律行爲ニ因リ債權者ヲ害シタルヤ否ヤニ消長ナキモノトス

三六

一四九

○詐害行爲取消ノ訴ニ於テ債務者ノ爲シタル行爲ニ因リ利益ヲ受ケタル者カ民法第四百二十四條ノ適用ヲ受クルニハ債權者ヲ害スルノ意思アルコトヲ必要トセス唯債務者ノ行爲ノ債權者ヲ害スル事實ヲ知ルヲ以テ足レリトス

三六

一三〇

○債務者カ抵當權ノ目的タル物件ヲ他ニ賣却セル場合ニ於テ債權者ヨリ之ヲ詐害行爲トシテ其取消ノ請求ヲ爲シ得ルニハ債務者ニ於テ他ニ完全ナル辨濟ヲ爲スヘキ資産ヲ有セサルコトヲ要ス

三七

八二〇

(同主旨)

廢罷訴權ヲ許ス場合ハ債務者カ債權者ニ對シ債務ノ辨濟ヲ爲スヘキ資力ノ足ラサルニ拘ハラズ自己ノ財産ヲ他人ニ讓渡シテ之ヲ減少スルカ若クハ他人ニ對シ債務ヲ承諾シテ債權者ノ得

ヘキ利益ヲ少ナカラシムルカ如キ之ヲ廢罷スルニ非サレハ回復ノ途ナキ場合ニ限ルモノトス

三三

一五二

○民法第四百二十四條ノ訴ノ一要件タル債權者ヲ害スルコトトハ債務者カ財産權ヲ目的トスル法律行爲ヲ爲シ之ニ因リテ其債權者ノ爲メ一般擔保ヲ組成スル自己ノ財産ヲ減少シ辨濟ノ資力ヲ薄弱ナラシメタル場合ヲ云フ

三七

一四七

○債務者カ相當代價ヲ以テ或財産ヲ賣却シタル場合ニ其代金ニシテ債務者ノ手裡ニ現存スルカ又ハ之ヲ有益ニ利用轉換シテ賣却物件ニ代ルヘキ價格現存スルカ若クハ其代金ニテ優先權ヲ有スル他ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ未タ以テ債權者ヲ害スルモノト云フヲ得ス

三七

一三七

○民法第四百二十四條ニ規定シタル債權者ノ取消權ハ債權者カ其債務者ヨリ一般擔保ヲ害セラレタルトキニ於テノミ之ヲ有スルモノナレハ債務者ノ行爲ニシテ債權者カ取消權ヲ有スルハ財産權ヲ目的トスルモノニ限リ又債權者ノ權利モ財産權ニ關スルモノナラサルヘカラス

三六

一五〇

○遺贈ノ不動産ニ付キ遺贈者カ生前債權者ノ爲メニ抵當權ヲ設定シタルトキハ受遺者ニ於テ之ヲ他ニ賣渡スト否トニ拘ハラズ債權者ハ其目的物ニ追隨シテ自己ノ權利ヲ行使シ得ルカ故ニ受遺者カ賣却ヲ爲シタル爲メ抵當權者ニ損害ヲ生スヘキモノニ非ス從テ抵當權者ハ詐害行爲取

消ノ訴權ヲ有セサルモノトス

○民法第四百二十四條ノ規定ハ債務者カ他ニ債權ヲ辨濟スヘキ目的ナクシテ自己ノ財産ヲ賣却スルトキハ其價格ノ相當ナルト否トヲ論セス債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ト推定スヘキ法意ナリ

○民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ有償行爲ノ取消サル場合ハ其對價カ格外ニ低廉ナルトキノミニ限ラス相當ノ對價ヲ以テシタルトキト雖モ亦之ヲ適用スヘキモノナリ

(同主旨)

民法第四百二十四條ハ敢テ法律行爲ノ有償タルト無償タルト將タ又其行爲ノ相手方カ不當ニ利益ヲ受ケタルト否トヲ區別セス故ニ相當ノ代金ヲ以テ爲サレタル賣買ト雖モ苟モ共同擔保ヲ減少シ債權者ヲ害スル以上ハ債權者ハ之カ取消ヲ請求シ得ヘキモノトス

○民法第四百二十四條ノ規定ハ債務者カ債權者ヲ害スルノ故意ヲ以テ一般ノ共同擔保タル自己ノ財産ヲ減少スヘキ法律行爲ヲ爲シタル場合ニ限リ其行爲取消權ヲ債權者ニ付與セルモノトス從テ債務者ノ所有ニ屬スル建物ニ對シ一番抵當權ノ設定ヲ目的トシテ爭フ所ノ債權者ノ如キハ其性質上同條ニ所謂債權者ニ非ス

○民法第四百二十四條ハ債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ法律行爲

ヲ爲シタルトキハ相手方ナル受益者若クハ轉得者モ亦其情ヲ知リタルモノト推定シ此推定ニ反スル但書ノ場合ニ於テハ受益者又ハ轉得者ヲシテ其情ヲ知ラサリシコトノ立證責任ヲ負ハシメタルモノトス

(同主旨)

民法第四百二十四條ハ債務者ニ惡意即チ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル行爲アルコトヲ認ムレハ債權者ハ其行爲ノ廢罷ヲ請求シ得ヘキ規定ナルニ依リ法律ハ債務者ノ行爲ヲ以テ其相手方即チ受益者又ハ轉得者ニ於テモ情ヲ知テ爲シタルモノト一應推定シ得ヘキコトヲ認メタルモノナリ故ニ此推定ニ反スル同條但書ノ場合ニハ受益者又ハ轉得者ニ於テ其情ヲ知ラサリシコトヲ舉證スヘキ責任アリ

民法第四百二十四條ニ於ケル詐害行爲ノ取消ハ債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ法律行爲ヲ爲シタル以上ハ其一事ヲ以テ債權者ヨリ之ヲ請求シ得ヘキ法意ニシテ若シ受益者又ハ轉得者カ債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラサリシトキハ例外トシテ其取消ヲ免レシムルモノトス故ニ轉得者等ニ於テ其取消ヲ免レントスルニハ右事實ノ不知ヲ證明セサルヘカラス

民法第四百二十四條ノ規定ニ該當スル場合ニ在リテハ法律ハ債務者ノ行爲ヲ以テ其相手方即チ受益者又ハ轉得者ニ於テモ情ヲ知リタルモノト一應推定シ得ヘキコトヲ認メタルモノナレハ受益者又ハ轉得者ニ於テ其善意ナルコトヲ立證セサルヘカラス

○債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ト雖モ民法第四百二十四條ノ規定ニ從ヒ之ヲ取消スニ非サレハ固ヨリ其效力ヲ有スルモノナルヲ以テ縱令詐害ノ事實存在シ轉得者ニモ亦惡意アリトスル

三八	七五九
三七	二九六
三六	二四九
三九	八〇〇
三九	三五二
三六	一七〇
三九	一三六
三九	一三三
三七	一五七六

モ債權者ハ轉得者ヲシテ直ニ其買受ケタル物件ヲ返還セシムヘキ原由ナシ故ニ其手裡ニ現存セサル物件ニ付テモ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

三元

二〇六

○債務者カ自己ノ財産ヲ他人ニ賣却スルハ正當ノ法律行為ヲ爲スモノニシテ固ヨリ不法行為ニ非ス唯之カ爲メニ總債權者ノ共同擔保ヲ減少シ債權者ヲ害スルノ虞アルヲ以テ特ニ民法第四百二十四條ノ規定ヲ設ケ之ヲ保護シタルモノトス

三元

二〇六

○債權者ハ民法第四百二十三條同第四百二十四條等ノ場合ヲ除ク外其債權ニ關シ第三者ニ對シテ請求權ヲ有セサルモノトス

三元

一五三七

○第三者カ債務者ヨリ抵當不動産ヲ買受ケ自ラ其債務ヲ辨濟シ抵當權ヲ消滅セシメタル場合ニ於テ裁判所カ普通債權者ノ請求ニ因リ其賣買ノ取消ヲ命スルニハ先ツ抵當權ヲ以テ擔保セラレタル債權額ト其不動産ノ價格トヲ比較審究セサルヘカラス

四〇

一〇八

○民法第四百二十四條ニ所謂債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行為トハ債務者カ之ヲ爲シ若クハ爲ササルヲ得ヘキ自由ヲ有スル時ニ於テ債權者ヲ害スルコトヲ知リ乍ラ任意ニ之ヲ爲シタル場合ノミヲ指稱シ法律上履行スヘキ債務ヲ履行シタル場合ノ如キハ之ヲ

包含セス

四〇

二五三

○債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リ乍ラ自己ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ設定シタル場合ト雖モ爾後隱居ヲ爲シ其旨ヲ債權者ニ通知シ且家督相續人ニ於テ該不動産ヲ債務ト共ニ承繼セル以上ハ債權者ハ隱居者ニ對シテ抵當權設定ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ス

四〇

三七九

○債務者ノ爲シタル法律行為カ債權者ヲ害スルト否トハ其行為當時ノ事情ニ依リ之ヲ定ムヘキモノニシテ爾後時勢ノ變遷ニ從ヒ物價ノ騰貴シタル場合ニ比シ不利益ナリシカ如キ事由ハ未タ以テ債權者ヲ害スルモノト云フヲ得ス

四〇

七四五

○債務者カ一部ノ債權者ノ爲メニ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テ一般擔保減少ノ結果損害ヲ被フルヘキ債權者アルトキハ詐害行為ヲ構成スルモノトス

四〇

八七七

○民法第四百二十四條ハ法律行為カ有效ニ成立シタル場合ニ之ヲ取消スコトヲ得セシムル規定ナレハ法律行為カ假裝ニシテ眞ニ成立セサル爲メ取消ノ必要ナキ場合ニハ同條ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

四一

二七二

(同第三項)

債務者ノ爲シタル法律行為カ假裝ニシテ眞ニ成立セサル場合ニ於テハ縱令其行為ノ爲メ債權

者ノ權利ヲ害スルモ民法第四百二十四條ノ廢罷權ヲ發生スルコトナシ

○民法第四百二十四條ニ所謂法律行為トハ賣買又ハ贈與ノ場合ニ於テハ其賣買若クハ贈與行為ヲ指稱シ質權又ハ抵當權設定ノ場合ニ在テハ其設定行為ヲ指稱スルモノニシテ登記法上ノ行為ハ之ニ包含セス

(同主旨)

民法第四百二十四條第一項ニ所謂法律行為トハ其行為ニシテ賣買若クハ贈與ニ出テタル場合ニハ其賣買若クハ贈與ヲ指稱シ又其行為カ質權若クハ抵當權ノ設定ニ出テタル場合ニハ其質權若クハ抵當權ノ設定ヲ指稱セルモノトス

(反對)

債務者カ他人ト共謀シ抵當權設定ノ行為ヲ假裝シ之ヲ登記シタル場合ニ於テハ債權者ハ民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ取消訴權ヲ行フコトヲ得從テ金錢ヲ以テスル賠償ノ外抵當登記ノ抹消ヲ請求シ得サルモノト爲シタル判決ハ不法ナリ

○債權者カ民法第四百二十四條ニ依リ法律行為ノ取消ヲ求ムル場合ニ於テ其行為ノ取消サルルニ因リ無原因ニ歸スヘキ登記アルトキハ同時ニ其抹消手續ヲ訴求スルコトヲ得

(同主旨)

民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ法律行為ノ取消權ヲ有スル債權者カ後日登記權利者ノ地位ニ立ツヘキコトヲ豫想シ行為ノ取消ト共ニ登記ノ抹消ヲ請求スルハ違法ニ非ス

○民法第四百二十四條ニ依リ詐害行為ノ取消ハ其目的該行為ニ因リテ生

シタル債權者ノ損害ヲ救済スルニ在リ從テ其行為ノ目的カ分割シ得ルモノナルトキハ債權者ノ損害ヲ救済スル程度ニ於テ其一部ヲ取消スコトヲ得

(同主旨)

民法第四百二十四條ニ於テ債權者ニ對シ債務者ノ爲シタル詐害行為ノ取消ヲ許シタルハ債權者ノ受クヘキ損害ヲ救済スルニ在ルチ以テ場合ノ如何ト行為ノ何タルチ間ハス債務者ノ爲シタル行為全部ヲ取消シ全ク行為アラサル最初ノ狀態ニ復セシムルモノニ非ス故ニ其行為ノ目的ニシテ分割シ得ルモノナルトキハ單ニ其一部ヲ取消スコトヲ得ルハ當然ナリ

○債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ法律行為ヲ爲シタルトキハ縱令其結果ノ一部債權者ヲ害スルニ止マルモ單一ナル詐害行為タルコトヲ失ハス

○不動産ノ賃借人カ其賃借權ノ登記ヲ爲ササル爲メ同一ノ不動産ヲ買受ケテ登記ヲ爲シタル者ニ對抗シ得サル場合ニハ縱令其賣買ニ因リ賃借權ヲ害セラレルコトアルモ民法第四百二十四條ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

○詐害行為ノ廢罷ハ民法カ法律行為ノ取消ナル語辭ヲ用キタルニ拘ハラズ一般法律行為ノ取消ト其性質ヲ異ニシ之カ效力ハ相對的ニシテ何人

四二

七五九

四一

二七二

三九

二五四

三七

一〇五七

四二

二七一

三九

二五四

四二

五七九

三六

一三三九

四二

五七九

四三

八七三

ニモ對抗スヘキ絶對的ノモノニ非ス

○債權者カ債務者ノ財産ヲ讓受ケタル受益者又ハ轉得者ニ對シテ訴ヲ提起シ之ニ對スル關係ニ於テ法律行為ヲ取消シタルトキハ該財産ノ回復又ハ之ニ代ルヘキ賠償ヲ得ルコトニ因リ其擔保權ヲ確保スルニ足ルヲ以テ特ニ債務者ニ對シテ訴ヲ提起シ其法律行為ノ取消ヲ求ムルノ要ナキモノトス

○債務者ノ財産カ受益者ノ手ヲ經テ轉得者ノ有ニ歸シタル場合ニ債權者カ受益者ニ對シテ廢罷訴權ヲ行使シ法律行為ヲ取消シテ賠償ヲ求ムルト轉得者ニ對シテ同一訴權ヲ行使シ直接ニ該財産ヲ回復スルトハ全ク其自由ノ權内ニ在ルモノトス

○債務者カ其有スル或不動産ノ外ニ債務ヲ辨濟スヘキ資力ヲ有セサル場合ニ於テ其不動産ヲ賣却シテ費消シ易キ金錢ニ代フルハ債權擔保ノ效力ヲ削減スルモノナルヲ以テ其代價ノ相當ナルト否トヲ問ハス其賣買ハ債權者ヲ害スルノ行為ナリトス

○債權者カ民法第四百二十四條ニ依リ請求シ得ヘキ詐害行為ノ取消ハ絶對的取消ニ非スシテ其取消請求權ハ惡意ノ受益者又ハ惡意ノ轉得者ノミニ對シテ存シ債務者ニ對シテハ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス

四	四	四	四	四
二七	二七	二七	二七	二七
五九三	五八	二七	二七	二七

○詐害行為ノ目的タル不動産上ニ他ノ債權者カ抵當權ヲ有シ取消權ヲ有スル債權者ニ優先スヘキモノナルトキハ詐害行為ノ取消訴權ハ其不動産ノ價額ヨリ抵當債權額ヲ控除シタル殘餘ニ付テノミ成立スルモノトス

○抵當權ハ其目的タル不動産ノ全部ニ及ヒ不可分ナルヲ以テ前項ノ場合ニ於テハ縱令其不動産カ數筆ノ地所ナリトスルモ之ヲ分割シ其一部ニ對シ詐害行為ニ因ル所有權移轉ノ登記抹消ヲ許スヘキモノニ非ス但詐害ノ限度ニ於テ不動産ノ回復ニ代ヘ價額ノ賠償ヲ許スコトヲ妨ケス

(參照)

幼者ノ最近親族ハ幼者ノ財産權上ニ關係ヲ有セサルモノト雖モ後見人ノ幼者ニ對スル詐害行為ニ付テハ資格上之カ救濟ヲ求ムル訴權ヲ有スルモノトス
抵當地ニ對シ他人ト永小作ノ契約ヲ爲ストキハ抵當物ノ價格ニ影響ヲ生スヘキハ必然ニ付キ抵當取主ハ之ヲ詐害行為ナリトシテ取消ヲ求ムルノ權アリ

甲者カ乙者ニ對シ債權アル場合ニ於テ丙者カ乙者ヨリ貸金名義ノ債權ヲ取得シタルモ別ニ乙者ニ十分ノ財産アリテ甲者ノ債權ニ損害ヲ及ボササル以上ハ丙者ト乙者トノ貸借ハ好シ現實金圓ノ授受ナシトスルモ甲者ニ詐害行為取消ノ訴權ヲ發生スヘキモノニ非ス今ヤ丙者ハ乙者ノ財産ニ餘裕アリテ甲者ニ損害ナキコトヲ立證シ甲者ハ乙者ノ負債其實産ニ超過スルコトヲ立證シタル場合ニ方直ニ乙者ノ立證ノミヲ採リ甲者ニ詐害行為取消ノ訴權アルモノト判定セシハ理由ナキ裁判ナリ

四	四	四	四	四
七五	七五	七五	七五	七五
二七	二七	二七	二七	二七
二五八	二七	二七	二七	二七

同一ノ地所ヲ甲乙二者ニ小作セシムルノ契約ヲ爲シタル者カ更ニ之ヲ甲者ノミニ小作セシムル契約ヲ爲シ其目的乙者ヲ詐害スルノ意ニ出ツルモ乙者ハ詐害行爲トシテ之カ廢罷ヲ訴求スルノ要ナシ

詐害行爲廢罷ノ訴權ハ債務者カ債權者ヲ害スル爲メ自己ノ財産ヲ他ニ讓渡シテ之ヲ減少スルカ又ハ他人ニ債務ヲ約シ債權者ノ利益ヲ寡少ナラシムルカ如キ場合ニシテ其行爲ヲ廢罷スルノ外他ニ回復ノ道ナキトキニ限り適用スルコトヲ得ルモノトス

債務者ノ財産讓與カ自然債權者ノ損失ニ歸スルコトアルモ其讓與ノ當時他ニ債務ノ抵償タルヘキ財産ナカリシトノ證據ナキ上ハ讓與ノ所爲ハ詐害行爲ト爲ラストノ裁判ハ相當ナリ債務ノ辨償ニ不足ヲ生スヘキコトヲ知リテ財産ヲ無償ニテ他ニ讓與シタルトキハ意思ノ有無ニ關セズ詐害行爲タルヘキモノトス

債務者唯一ノ財産タル地所買戻權ヲ以テ債權者中一部ノ債權辨濟ニ充當センコトヲ圖リ他ノ債權者ニ辨濟ヲ爲サシメサル爲メ債權者中一人ノ名義ヲ以テ該買戻權ヲ買取り其代金ヲ支拂ハスシテ之ヲ支拂フタルモノノ如ク爲シタル行爲ハ詐害行爲ナリトス

訴訟ニ於テ被告ノ地位ニ立ツ者カ或契約ヲ詐害行爲ナリトシテ廢罷セシメントスルニハ之ニ因リ不當ニ利得シタル者ニ對シ尙ホ債務者ヲ參加セシメ更ニ訴ヲ提起シテ判決ヲ受クルカ又ハ其行爲カ事件ノ裁判ニ影響ヲ及ホス場合ニ於テハ第一審ノ審理中右ト同一ノ訴訟手續ヲ履ミ反訴ヲ提起シテ判決ヲ受クヘキモノトス

第三節 多數當事者ノ債權

第一款 總則

第四百二十七條

二九	二	二二
二九	八	八八
二九	一〇	一〇一
二九	一〇	一四五
三〇	九	五八
三〇	九	五八

○民法第四百二十七條ノ原則ハ數人ノ主タル債務者ノ爲メニ保證ヲ爲シタル者カ債務ノ履行ヲ爲シタルニ因リ主タル債務者ニ對シテ求償權ヲ行フ場合ニ於テモ亦適用セラルヘキモノトス

○數人ノ債務者アル場合ニ於テ別段ノ意思表示ナケレハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ其債務ヲ負擔シタルモノト推定スヘキ法則ハ裁判所カ數人ノ債務者ニ對シ或金額ノ支拂ヲ命シタル場合ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

○數名ノ保證人カ各自主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタル場合ニハ保證人ハ債權者ノ請求ニ應シ一人ニテモ債務全部ノ履行ヲ爲ササルヘカラス從テ民法第四百二十七條ノ規定ハ此場合ニ適用スルコトヲ得ス

(參照)

債務者ノ財産ハ總債權ノ共同擔保ナルヲ以テ其財産カ總債權ニ對スル義務ヲ辨濟スルニ足ラサル場合ニ於テハ其債權額ノ割合ニ應シ平等ニ之ヲ分配スヘキハ法律ノ原則ナリ

第二款 不可分債務

第四百二十八條

○民法施行前ニ在リテモ債務ノ目的不可分ナル以上ハ其各債權者ハ債務

民法 債權 總則 多數當事者ノ債權 不可分債務

三七	三
三六	一三五
三九	一六七
三〇	九
三〇	九
三〇	九

○者ニ對シ債務全部ノ請求ヲ爲スコトヲ得タルモノトス

○數十筆ノ地所ヲ賣買シタル場合ニ於テ當事者カ單ニ之ヲ一括シテ其代價ヲ定ムルモ其目的物ハ元來可分ナルカ故ニ之ヲ以テ直ニ不可分ノ合意ナリト云フコトヲ得ス

○貸借上債權者二名宛ニテ抵當附借金證書ヲ交付スヘキ旨ノ契約ヲ取結ヒタル場合ニ於テハ民法典不可分ノ原則ニ從ヒ二名ノ債權者中其一名ヨリ債務者ニ對シテ二名宛ノ抵當附借金證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

(參照)

商業取引上ノ殘額ハ合意ニ因テ不可分ト爲ササル以上ハ其性質可分ナリ

第四百三十一條

○不可分債務カ變シテ可分債務ト爲リタルトキハ各債務者カ其負擔部分ノ履行ヲ爲スニ付キ何等ノ障礙ナケレハ本來ノ債務ハ此時ヲ以テ連合債務ニ變シ債務者ハ各自其負擔部分ノミニ付キ履行ノ責ニ任スルモノトス

○頼母子講會ノ講員カ數名ノ世話人ニ對シ其義務不履行ヨリ生シタル損害ノ賠償トシテ金額ノ支拂ヲ要求シ裁判所之ヲ正當ト認メテ其支拂ヲ

命シタル場合ハ民法第四百三十一條ノ所謂不可分債務カ可分債務ニ變シタルモノニ該當ス

第三款 連帶債務

○連帶債務ハ當事者ノ意思若クハ法令ノ規定アルニ非サレハ存立スヘキモノニ非ス

○連帶債務ト保證債務トハ各々法律關係ヲ異ニシ前者ニ非サルコトハ後者ニ非サルコトヲ包含セス故ニ被告カ連帶債務者ニ非サル理由ヲ以テ原告ノ請求ヲ却下シタル判決ハ被告ノ保證債務者ニ非サル點ニマテ其確定力ヲ及ホスヘキモノニ非ス

(參照)

連帶義務ハ平等分擔ノ常態ニ反スル變體ナリ故ニ此變體ノ義務ヲ認ムルニハ必ス法文若クハ契約ノ文詞ニ於テ明記アルヲ要ス

連帶義務ハ法律ノ規定又ハ特約ニ依リ發生スルモノトス

第四百三十二條

○主タル債務ニ付キ連帶ノ義務アル者ハ之ニ附隨スル債務ニ付テモ亦連帶ノ義務アリ從テ連帶債務者ハ訴訟費用ニ付キ連帶ノ義務ヲ負フモノトス

三三	三四	三五	三六	三七	三八
二〇	二	九	二一	二二	二九
六五	六二	一七四	一七	一七	六五六
四	七	七	七	七	七

(同主旨)

訴訟費用ハ債權ノ行使ニ因リテ生スル費用ナルヲ以テ當事者間ニ在リテハ利息ト均シク附從ノ債務タルニ外ナラス故ニ連帶債務者ハ債權者ニ對シテ其債務ニ關スル訴訟費用ニ付テモ亦根本ノ債務ト均シク連帶ノ義務ヲ負擔セサルヘカラス

(第四百三十四條)

『第四百三十四條』

○民法施行前ニ在リテモ債權者カ連帶債務者ノ一人ニ對シ債務ノ履行ヲ請求シタル場合ニ其債務者カ債權者ノ承諾ヲ得テ延期證ヲ差入レタルトキハ他ノ債務者ニ對シテモ亦出訴期限ノ進行ヲ中斷スルモノトス

(同主旨)

連帶債務者ノ一人カ債權者ニ對シ延期證書ヲ差入ルルモ他ノ連帶債務者ニ對シテ時效中斷ノ效ヲ生セサルモ連帶債務者ノ一人カ債權者ヨリ債務履行ノ請求ヲ受ケ延期證書ヲ差入レタル場合ニ於テハ他ノ連帶債務者ニ對シ時效中斷ノ效ヲ生スルモノトス

(第四百三十七條)

『第四百三十七條』

○債權者カ連帶債務者中ノ一人ニ對シテ分擔ヲ許シ其餘ノ債務ヲ免除シタルトキハ其債務者ノ負擔部分ニ付テハ他ノ債務者ノ利益ノ爲メニ其效力ヲ生スヘキモ之カ爲メ他ノ債務者カ債務ノ總額ヲ平分シテ一部ツツ負擔スヘキ條理ナシ

○民法第四百三十七條ニ所謂連帶債務者ノ負擔部分ハ債務者間ノ合意又

三六

一六

四〇

一一二

三二

一

三一

三

ハ各債務者カ其債務ニ付キ實際利益ヲ受ケタル割合等債務者ノ間ニ存スル事實ニ依リテ定マルモノトス

(同主旨)

民法第四百三十七條ニ所謂連帶債務者ノ負擔部分ハ債務ニ付キ各債務者ノ利益ヲ受ケタル割合ニ應ジ又ハ債務者間ノ合意ニ依リテ定マルヘキモノトス

○債權者カ連帶債務者ノ一人ニ對シ債務ノ免除ヲ爲スニ當リ其債務者ノ負擔部分ノ割合ヲ知ラサルモ之カ爲メ他ノ債務者ニ及ホスヘキ免除ノ效力ニ何等ノ消長ヲ來スヘキモノニ非ス

(第四百四十條)

『第四百四十條』

(參照)

連帶義務者ノ一人カ時效ニ罹リタル債務ノ追認ヲ爲スモ他ノ連帶義務者ニ其效果ヲ及ホサス

(第四百四十二條)

『第四百四十二條』

○二人ニテ連帶債務ヲ負擔シタル場合ニ於テ孰レモ其負擔ニ因リテ利益スル所ナキトキハ辨濟ヲ爲シタル債務者ハ他ノ一人ニ對シテ半額ヲ求償シ得ルモノトス

(第四百四十三條)

『第四百四十三條』

○民法第四百四十三條ハ數人カ債權者ニ對シテ連帶債務ヲ負擔シタル場

四二

六九七

三七

六五

四三

六九七

二九

八

三〇

三九

一〇七九

(第四百四十四條)

合ニ適用スヘキ規定ニシテ一人ハ債權者ニ對シテ債務ヲ負擔シ他ハ之ニ對シ債務ヲ負擔セサル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

『第四百四十四條』

○連帶債務者ノ一人カ債務ヲ辨濟シタル場合ニハ其内部關係ニ於テ全然同一ノ地位ニ在ル他ノ債務者ハ無資力者ノ不償還部分ニ付キ分擔ノ責ニ任セサルヘカラス而シテ其間別段ノ意思表示ナケレハ雙方平等ノ割合ヲ以テ之ヲ負擔スヘキハ當然ナリ

○民法第四百四十四條ハ連帶債務者中ニ償還ヲ爲ス資力ナキ者ヲ生スルトキハ其償還スヘキ部分ヲ他ノ資力アル者ノ間ニ分割シ負擔部分多キ者ヲシテ多ク分擔シ其少キ者ヲシテ少ク分擔セシメ又負擔部分相等シキ者若クハ共ニ負擔部分ナキ者ノ間ニ於テハ之ヲ平等ニ分擔セシムルノ法意ナリ

(第四百四十五條)

『第四百四十五條』

○民法第四百四十五條ハ連帶ノ免除ヲ得タル者ト無資力ト爲リタル者トノ外向ホ債務ヲ辨濟シテ求償權ヲ有スル者若クハ未タ之ヲ辨濟セサルモ其資力アル者ト少クモ三名以上ノ連帶債務者アリタル場合ニ在ラサレハ之ヲ適用スルコトヲ得ス

三七

四三

三元

三五

四

六九

七〇

一四九

七九二

第四款 保證債務

○主タル債務者ト債權者カ保證人ノ承諾ナクシテ貸借證書ノ成立月日及ヒ年賦期限ヲ改訂スルモ義務ノ更改ヲ爲ササル場合ニ於テハ必スシモ債權者カ其保證契約上ノ權利ヲ拋棄シ若クハ喪失シタルモノト看做スヘキモノニ非ス

三二

九

三六

○保證債務ハ主タル債務ヲ須テ存立シ之ト共ニ消滅スヘキモノナルモ主タル債務ト同一ナルニ非サルヲ以テ保證人カ其債務ノ存立ヲ認めタル行爲ハ當然主タル債務者ニ其效力ヲ及ホスヘキモノト謂フヘカラス

三四

六

七〇

○抵當アル債務ノ保證ハ抵當ト其成立ヲ異ニシ抵當權ト共ニ消滅スヘキモノニ非ス唯抵當權ノ消滅カ債權者ノ懈怠ニ因ルトキハ保證人ハ債權者カ其消滅ノ爲メ辨濟ヲ受ケ能ハサルニ至リタル限度ニ於テ其責ヲ免ルルモノトス

三七

一五九二

○當事者カ保證契約ヲ締結スルニ至リタル緣由ニ錯誤ヲ生シタル場合ト雖モ特ニ其緣由ノ實在ヲ以テ契約ノ要件ト爲ササル以上ハ法律行爲ノ無效ヲ惹起スヘキモノニ非ス

三六

一七六六

○主タル債務ニ付キ辨濟期限ヲ延長スルハ債務ヲ消滅セシムル事由ニ非ス又別ニ新債務ヲ創設スルモノニモ非サレハ縱令保證人ニ於テ自ラ之

ニ關與セサルモ其效力ノ當然保證債務ニ及フヘキコトハ民法施行前後
ニ通スル法理ナリトス

〔同主旨〕

主債務ニ付キ辨濟期限ヲ延長スルハ債務消滅ノ事由ニ非ス又新債務ヲ創設スルモノニモ非サ
レハ縱令保證人ニ於テ自ラ之ニ干與セサルモ其效力ハ當然保證債務ニ及フモノトス

〔反對〕

保證契約ノ後債務ノ辨濟期ニ付キ債權者カ保證人ノ承諾ナク主タル債務者ニ許與シタル期限
ハ保證人ニ對抗スルヲ得ス

○主タル債務ノ利息カ利息制限法ニ依ル制限ニ超過スル場合ニ於テ保證
債務者カ該制限内ノ利息ヲ保證契約ノ主觀的要素ト爲シタリトスルモ
制限超過ノ部分ハ主タル債務ノ内容ヲ成スモノニ非サルヲ以テ保證契
約ハ要素ニ錯誤アリト云フヲ得ス

○凡ソ權利義務ニ關スル證書ニ證人トシテ署名シタル場合ニ於テ普通之
ヲ立會人ノ意味ニ解スヘキ慣習存セサルヲ以テ果シテ立會證人ヲ指ス
モノナルカ或ハ又保證人ヲ謂フモノナルカハ場合ニ依リ裁判所カ自由
ナル心證ヲ以テ認定スヘキ事實問題ナリトス

〔參照〕

債權者ハ抵當物ニ關セス保證義務ノ履行ヲ保證人ニ求ムルノ權アリ

四〇	三七	三四	元	二	二五
六八	一五九	一四六	1010	三九六	四
					五一

債務者カ虛偽ノ抵當及ヒ公證偽造ノ爲メニ刑ニ處セラレルモ民事上ニ屬スル貸借ノ事實ヲ失
却セシメタルモノト做スヲ得サルヲ以テ當事者間ノ保證義務ハ初メヨリ合意ヲ妨ケス依然存
立スルモノトス
人ノ依頼ニ應ジ保證人タルコトヲ承諾シテ白紙ニ調印シタルコトヲ認メ乍ラ保證ノ義務ナシ
ト判決シタルハ違法ノ裁判ナリ
未成年者ノ締結セル保證契約ハ縱令其未成年者カ商業ヲ爲スノ能力アリトスルモ其商業上ノ
必要ニ出テタリトノ證明ナキニ於テハ之ヲ民事上ノ行爲ト爲スヘシ

〔第四百四十六條〕

『第四百四十六條』

- 主タル債務者カ辨濟期日ニ其債務ヲ履行セサルニ於テハ其資力ノ有無
ニ拘ハラズ保證人ヨリ直ニ辨濟スヘシトノ保證契約ハ有效ナリトス
- 賣買契約ノ保證人ハ民法上保證債務ノ當事者ナルヲ以テ保證人ノ一般
ノ相續人ニ至テモ尙ホ其當事者ニシテ之ヲ第三者ト云フヲ得ス
- 元來保證人ハ主債務者カ債務ヲ履行セサル場合ニ於テ始メテ辨濟ヲ爲
スノ責アルモノニシテ隨テ辨濟期日到來シタレハトテ主債務者ノ如ク
直ニ辨濟ヲ爲ササルヘカラサル責アルモノニ非ス
- 金穀以外ノ物ノ消費貸借ニ於ケル普通ノ保證人ハ主タル債務者カ其債
務ヲ履行セサル場合ニ於テ其履行ヲ爲スノ責ニ任スヘキハ民法施行前
ニ於テモ法理トシテ認ムヘキモノナリ

二五	二六	二九	三二	三五	三五
六	二	二	二	九	一〇
一一	五	二九	七	七	七

○民法上ノ保證債務ハ主タル債務ニシテ存在スル以上ハ其債務カ手形ヨリ生セシモノナルト否トニ拘ハラズ有效ニ成立シ得ルモノトス

三六

三三四

○民法上保證人ノ責務ニ關シテハ其第四百四十六條及ヒ第四百四十七條ノ外之カ範圍ヲ定メタル法條ナキヲ以テ保證人ハ保證ノ目的タラサリシ債務並ニ之ニ從屬スル債務ニ付テ履行ノ責ニ任スヘキモノニ非ス

三六

四八四

○賣買契約ノ履行ニ關スル債務ト該契約解除後代金ヲ返還スヘキ債務トハ其發生原因ヲ異ニシ全ク別箇ノ債務ナレハ賣買契約ノ保證ヲ爲シタル者ハ右代金返還ノ債務ニ付テモ亦當然之ヲ保證シタルモノト云フヘカラス

三六

四八四

○賣買ニ付キ賣主ノ保證人ト爲リタル者ハ買主ニ對シ賣主ヲシテ目的物ヲ引渡サシムルノ義務ヲ負フモノナレハ賣主カ契約ノ履行ヲ爲ササル爲メ買主ヨリ保證義務ノ履行ヲ請求セラレタル場合ハ勿論然ラサル場合ニ於テモ買主ニ對シテハ常ニ其權利ヲ尊重スル義務ヲ負フヘキモノトス

三六

八六六

○民法實施以前ニ於テハ債務者カ無資力ナルトキハ直ニ保證人ニ對シテ訴追シ得タルモノトス

三六

二四〇

○保證契約ハ必スシモ結約當時ニ於テ債務ノ存在スルコトヲ要セス未來

ノ債務ト雖モ之ヲ保證シ得ルハ勿論ニシテ此場合ニ在リテハ後日主タル債務成立スルトキハ保證債務モ亦其效力ヲ發生スルモノトス

（同主旨）

保證債務ハ主タル債務存在スルニ非サレハ發生セサルヤ勿論ナレトモ主タル債務ノ將來ニ發生スヘキコトヲ豫期シ其未來ノ債權者ニ對シテ第三者カ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ保證契約ハ成立スヘシ

三七

八二七

○保證債務ハ保證契約ト同時ニ其效力ヲ生スルモノニシテ主タル債務者カ不履行ノ責ヲ負フヘキ時ニ至リ始メテ成立スルモノニ非ス

三九

七三九

（參照）

保證人ニ對シ訴追スルニハ主タル債務者ノ辨濟力ナキコトヲ立證スルヲ以テ足ルモノトス明治八年第百二號布告第一條ノ「本人身代限濟方申付候上不足相立候節ハ其不足ノ分請入證人ハ濟方申渡シ猶不相濟トキハ云云」モ亦此精神ニ外ナラス強制執行ノ方法存在スル今日ニ在テハ之ニ依リ其無資力ヲ證明シ得レハ債權者ハ保證人ニ對シ直ニ請求ヲ爲スヲ得ヘシ

二六

一

（第四百四十七條）

『第四百四十七條』

○民法上保證人ノ責務ニ關シテハ其第四百四十六條及ヒ第四百四十七條ノ外之カ範圍ヲ定メタル法條ナキヲ以テ保證人ハ保證ノ目的タラサリシ債務並ニ之ニ從屬スル債務ニ付テ履行ノ責ニ任スヘキモノニ非ス
○主債務者カ賣買契約ヲ履行セサル場合ニ債權者ニ於テ解除權ヲ行使シ

三六

四八四

主債務者ニ對シ原狀回復及ヒ損害賠償ヲ要メタルモ辨濟ノ資力ナキニ依リ保證人ニ對シテ其辨濟ヲ訴求シタル後更ニ訴訟ヲ提起シ單純ナル損害賠償ヲ求メ保證人ヲシテ其債務ヲ履行セシメントスルハ違法ニ非ス

○契約ニ因ル保證債務ニハ契約ノ解除ニ因リテ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ其給付シタル物ノ返還ヲ請求スル場合ノ保證ヲ包含セス

○保證契約ノ當事者カ契約解除ノ場合ニ於ケル原狀回復ノ義務ヲモ包含セシメテ保證ヲ約スルハ違法ニ非ス

○主タル債務ノ不履行ニ因リ相手方ニ損害ヲ生セシメタルトキハ主債務者ハ既ニ契約ノ解除アリタルト否トニ論ナク其損害ヲ賠償スル責任ニ任セサルヘカラス從テ主タル債務ヲ擔保セル保證債務モ亦特別ノ事情ナキ限ハ其損害賠償ノ責任ヲ包含スルモノトス

(同主旨)

主タル債務者カ契約ヲ履行セサル場合ニ於テハ保證人ハ該契約ノ解除セラレタルト否トヲ論セス其不履行ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ賠償スルノ責任ニ任スヘキモノトス

○訴訟費用ハ主タル債務ニ附從スルモノナルヲ以テ保證人ハ別ニ之ヲ支拂フヘキ約束ヲ爲ササルモ主タル債務ヲ保證スルト同時ニ之ヲ擔保シ

タルモノトス

(同主旨)

債務不履行ニ因ル遅延利子及ヒ訴訟費用ノ如キハ主タル債務ニ附從スルモノニシテ特別ノ事情ナクハ債務者ニ於テ之ヲ負擔スヘキハ當然ナリ從テ主タル債務者カ辨濟ヲ爲ササル場合ニハ債權者ハ保證人ニ對シテ之カ辨濟ヲ請求シ得ルモノトス

(參照)

貸借期限ノ内外ヲ問ハス主タル債務者ノ義務ニ屬スル正當ノ利子ハ特約アル場合ノ外保證人ニ於テモ擔保ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ヌ期限後債權者カ督促ヲ爲ササルノ故ヲ以テ保證義務ニ制限ヲ與ヘタルモノト云フノ理由ヲ見ス
債權者及ヒ債務者間ニ生シタル訴訟費用ノ辨償ヲ其訴訟ニ參加セサル保證人ニ命シタル裁判ハ不法ニ非ス

『第四百五十二條』

(第四百五十二條)

○保證人カ債權者ニ對シテ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ請求セント欲セハ其住所ヲ立證スルヲ以テ足ルモノニ非ス必スヤ其所在ヲ證明スルヲ要ス

○保證人ハ民法第四百五十二條ノ規定ニ於ケル催告ノ請求ヲ爲サスシテ直ニ同法第四百五十三條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シ得ルモノトス

三九	一三三
四一	六六三
四二	五〇四
四三	三三五
四六	一一五〇

四三	三三五
三九	九一四
二六	一四四
三〇	一〇九
三三	三四
三六	一一三

○保證人ニ於テ民法第四百五十二條ノ抗辯權ヲ拋棄シタルトキハ債權者ハ主債務者ニ催告ヲ爲サスシテ直ニ保證債務ノ履行ヲ請求シ得ルモノトス

○民法第四百五十二條及ヒ第四百五十三條ノ規定ハ保證債務ノ效力ニ關スル通則ニ過キサレハ當事者ハ同條ノ抗辯權ヲ拋棄スヘキ特約ヲ締結スルコトヲ得ヘシ

〔第四百五十三條〕

○保證人ハ民法第四百五十二條ノ規定ニ於ケル催告ノ請求ヲ爲サスシテ直ニ同法第四百五十三條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シ得ルモノトス

○民法第四百五十二條及ヒ第四百五十三條ノ規定ハ保證債務ノ效力ニ關スル通則ニ過キサレハ當事者ハ同條ノ抗辯權ヲ拋棄スヘキ特約ヲ締結スルコトヲ得ヘシ

○民法第四百五十三條ニ規定スル保證人ノ抗辯ハ債權者ノ請求ニ對スル本案ノ抗辯ニシテ民事訴訟法第二百六條第七號ノ延期ノ抗辯ニ非ス又其他ノ妨訴抗辯ニモ非サレハ保證人ハ第二審ニ於テ始メテ之ヲ提出スルモ違法ニ非ス

三七	一三九
三六	一三八
三六	一三三
三六	一三六
四〇	一五九

○民法第四百五十三條ニ所謂債務辨濟ノ資力アリトハ主タル債務者カ其債務ノ全部ヲ辨濟スルニ足ルヘキ資産ヲ有スルノ義ナリ〔同一判例四二年二〇頁〕

〔同主旨〕

債權者ハ債務ノ一部辨濟ヲ受ケサルヘカラサルモノニ非ス從テ民法第四百五十三條ノ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリト云ヘルハ債務全部ヲ辨濟スヘキ資力アルノ意ナリトス

〔參照〕

有體動産ニ對シ強制執行ヲ爲スモ債務ヲ完済セシメ能ハサル場合ニ訴追ヲ受ケタル保證人ニ於テ主タル債務者カ他ニ財産ヲ有スル旨ヲ主張セントスルトキハ之ヲ明示セサルヘカラス之ヲ明示シタルコトナケレハ裁判所ハ債務者ヲ無資力ナリト認定スルヲ得ヘシ

〔第四百五十六條〕

〔參照〕

二人以上ノ保證人アル場合ニ於テ債權者カ其一人ニ對シ保證義務ヲ免除シタルトキハ他ノ保證人ハ免除セラレタル者ノ部分ニ付テハ其義務ヲ免ルルヲ普通ノ法理ナリトス
保證人二名以上アル場合ニ於テ連帶ノ特約ナキトキハ保證義務ハ各保證人間ニ均ニ分割セラレヘキモノトス〔同一判例二九年一一卷一一七頁〕

〔第四百五十七條〕

○民法施行以前主債務者カ身代限處分ヲ受ケ其債權出訴期限ナキモノト爲リタル場合ト雖モ保證人ニ於テ該處分ヲ受ケサル間ハ同人ニ對シテ

四	六四
三九	一六五〇
二六	一
二五	四五
三〇	六

ハ出訴期限規則ヲ適用スヘキモノトス

(參照)

債務者ニ對スル時効ノ中斷ハ保證人ニ對シテモ其效力ヲ生ス

(刑) 第四百五十八條

第四百五十八條

○主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔セル保證人ト雖モ一ノ保證人タルコトヲ失ハサルカ故ニ之ヲ連帶債務者ト同視スヘキモノニ非ス

○債權者カ主タル債務者ニ對シ履行期間中任意ニ契約ヲ解除スルニ於テハ該債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタル保證人ノ債務モ亦當然消滅スルモノトス

(同主旨)

保證人カ主債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタル場合ト雖モ主タル契約ニシテ解除セララル以上ハ保證契約モ亦當然解除ニ歸スヘキモノトス

(參照)

保證人カ其擔保ヲ確實ナラシムル爲メ特ニ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔スルハ條理上妨ナク且裁判例ニ於テ是認スル所ナリ

保證人ニ於テ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シテ爲サンコトヲ約諾スルハ是レ唯連帶債務者トシテ債務ヲ負擔スル一種ノ特約ヲ爲シタルニ過キスシテ保證契約本來ノ性質ニ變更ヲ來スヘキモノニ非ス

(第四百六十五條)

第四百六十五條

○共同保證人間ノ求償權ハ未タ主債務者ヨリ辨濟ヲ受ケサル自己ノ出捐額ニ付キ存在スルモノナルヲ以テ辨濟ヲ命スル判決アリタルノミニテ未タ現實ノ辨濟アラサル間ハ求償權ノ範圍ハ縮少セララルコトナシ

第四節 債權ノ讓渡

○權利拋棄ノ場合ニハ獨リ權利者ノ權利消滅スルノミナラス義務者ノ義務モ亦絶對的ニ消滅スル結果ヲ生スト雖モ權利讓渡ノ場合ニハ其有償行爲ナルト無償行爲ナルトヲ問ハス唯權利者ノ變更アルニ過キスシテ義務ハ消滅スルモノニ非ス

○債權ノ移付行爲ハ縱令形式上瑕瑾ナキモ實體上不適法ナル場合ニ利害關係人ヨリ異議ヲ唱フルトキハ法律上何等ノ效ヲモ生セサルモノトス

○債權ノ讓受人カ債務者ヨリ債權全部ノ辨濟ヲ受ケタル後更ニ其債務者ノ爲メ債務ヲ代辨シタル場合ニ於テ其債權讓渡カ假裝ナリシトキハ該讓受人ハ債務者ヨリ受取リタル金圓ヲ返還スヘキ義務アルト同時ニ債務者ニ對シテ立替金ノ辨償ヲ請求スルノ權利ヲ有シ此義務ト權利トハ互ニ兩立シテ特別ノ事由アルニ非サレハ消滅セサルモノトス

○債權者ノ交替ニ因ル更改ト債權ノ讓渡トハ全然其性質ヲ異ニスル別箇ノ法律行爲ナリトス

四	二九	四〇	四	四	二九
四	二	四〇	四	二	二
八	二七	七五	一六二	一六二	三

元	三	三	三	三	元
九三	五	五	五	五	九三
一〇六	一〇六	一〇六	一〇六	一〇六	一〇六
八四	八四	八四	八四	八四	八四
六	六	六	六	六	六
七六	七六	七六	七六	七六	七六

原因タルヤ否ヤ又ハ債權者ノ特別ノ行爲ヲ要スル場合ナルヤ否ヤニ繋ルモノニシテ債權ノ目的カ金錢ノ支拂ナルヤ否ヤハ毫モ之ニ影響スルコトナシ

三九

五四

○株式會社カ其株主ニ對スル株金拂込ノ請求權ハ兩者ノ間ニ於ケル特別ノ關係ニ基クモノニシテ拂込催告ノ前後ニ拘ハラズ獨リ會社ノミ之ヲ保有シ得ヘキモノトス故ニ該請求權ハ讓渡ヲ許ササル性質ヲ有スル債權ナリ

三九

五四

○債權ノ性質カ讓渡ヲ許ササルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ轉付スルモ其效力ヲ生スヘキモノニ非サレハ株金拂込請求權ノ轉付命令ハ無効ナリ

三九

五四

○合資會社カ出資ニ付キ社員ニ對シテ有スル權利ハ一種ノ債權ニ外ナラスト雖モ未タ其辨濟期ニ在ラサルモノハ之ヲ讓渡シ若クハ轉付スルコトヲ得ス

三九

二〇八

○債權及ヒ其擔保タル抵當權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ抵當權設定登記カ形式上何等ノ原因ナクシテ既ニ抹消セラレタルトキハ讓渡人ハ移轉登記ノ義務ヲ履行スル爲メ先ツ抹消登記ノ無効ヲ主張シ登記更正ノ手續ヲ爲ササルヘカラス

四〇

一一三

○如上ノ場合ニ於テ抵當權ノ目的物ヲ取得シタル第三者カ抵當權ノ現存ヲ否認シ抹消登記ノ更正ヲ承諾セサルトキハ債權讓渡人ハ訴ヲ以テ抹消登記ノ無効及ヒ更正ノ承認ヲ求ムルコトヲ得

四〇

一一三

○雙務契約ニ於ケル一方ノ債權者カ其債權ヲ第三者ニ讓渡シタル場合ト雖モ其讓渡サレタル債權ハ依然トシテ雙務契約ヨリ生スル一方ノ債權タル性質ヲ保有シ他ノ一方ノ有スル債權トノ間ニ交互的關聯ヲ存續スルヲ以テ一方ノ債權成立セサルカ又ハ無効ト爲ルトキハ他方ノ債權モ亦不成立若クハ無効ト爲ルヘキモノトス

四二

四九〇

○如上ノ場合ニ於テ雙務契約不成立ト爲リ又ハ解除セラレタルトキハ債權讓受人ハ其債權ヲ履行セシムルコトヲ得ス又既ニ債務者ヨリ辨濟ヲ受ケタルトキハ其受ケタルモノヲ返還スヘキヲ當然トス

四二

四九〇

○當事者カ權利ヲ移轉スルノ意思ヲ以テ債權ヲ讓渡シタルトキハ即チ意思ト表示ト一致スルカ故ニ縱令其内部關係ニ於テハ債權ノ取立ヲ目的トスルモ之ヲ以テ虛偽ノ意思表示ト謂フヲ得ス

四二

八〇三

(同前)

取立ノ爲メニスル債權ノ讓渡ハ其外部ノ關係ニ於テハ純然タル一箇ノ債權讓渡ニシテ讓渡人ハ債權ヲ喪失シ讓受人ハ其取得シタル債權ヲ行使シ得ヘキモノナレハ虛偽ノ行爲ニ非ス

四二

二六八

○債權ノ發生前讓渡契約ヲ締結シタル場合ト雖モ當事者ノ意思カ債權發生シ其移轉ノ可能ト爲ルコトヲ條件トシテ讓渡ノ效力ヲ生セシメントスルニ在ルトキハ結約當時移轉ノ不能ナル一事ヲ以テ其契約ヲ無効トスルヲ得ス

○債權取立ヲ目的トシテ債權ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓受人ハ之ニ因リ債權ヲ取得シ債務者ニ對シ之ヲ行使スルコトヲ得ルモ取立以外ニ債權ノ行使又ハ處分ヲ爲スコトヲ得ス

○債權讓受人カ勝訴ノ結果債務者ヨリ辨濟ヲ受ケタル金額ノ一部ヲ報酬トシテ受クル約束ノ如キハ當事者間ノ内部關係ニ過キスシテ債權讓渡ノ意思ト牴觸スル所ナク債權移轉ノ效力ヲ妨クルコトナシ

○債權ノ取立ヲ目的トスル讓渡行爲ニ在テハ第三者ニ對スル外部關係ニ於テノミ債權讓渡ノ效力ヲ生スルニ止マリ當事者間ノ内部關係ニ於テハ債權ハ依然トシテ讓渡人ニ存スルモノナルヲ以テ右取立ヲ爲ササル以前ニ於テ讓渡人ハ債務者ト和解ヲ爲シ其債權ヲ消滅セシメ得ヘキヤ論ヲ竣タス

○民法第四百六十六條第二項但書ノ規定ハ其明文ノ示スカ如ク性質上讓渡シ得ヘキ債權ハ縱令當事者ニ於テ讓渡ヲ禁スル特約ヲ爲スモ之ヲ以

四

八四

元

八七九

元

八七九

二

二〇九

第四百六十七條

テ善意ノ第三者ニ對抗シ得サル旨ヲ規定シタルモノナレハ第三者自ラ進テ其特約ヲ認メサル限ハ債務者カ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ當ニ其特約ノ存在ヲ證明スルコトヲ要スルノミナラス第三者ノ惡意ナリシコトヲモ證明スヘキハ當然ナリ

第四百六十七條

○民法實施前ニ在テハ買戻權ノ如キ債權ノ讓渡ニ付キ債務者ノ承諾ヲ得若クハ債務者ニ通知スヘキ規定ナキヲ以テ此等ノ手續ヲ履マサル讓渡モ有效ナリトス

○債權ノ讓渡ニ於ケル債務者ノ承諾若クハ通知ナルモノハ權利ノ行使ニ關スル要件ニ外ナラスシテ其成立ニ關スルモノニ非サレハ縱令起訴ノ當時ニ於テハ未タ債務者ノ承諾若クハ通知アラスシテ訴訟進行中讓渡ノ通知アリタリトスルモ裁判所ハ其判決當時ノ情態ニ依リ債務者ニ對シ敗訴ヲ言渡スヘキモノトス

○指名債權ノ債務者カ一旦債權讓渡ノ通知ヲ受ケ若クハ之ヲ承諾スルトキハ確定日附アル證書ノ有無ニ拘ハラズ讓受人ト自己トノ間ニ債務關係存立スルヲ以テ他ニ同一ノ債權ヲ主張スル者アラハ之ヲ排斥スルノ權利ヲ有ス

三六

二七六

三三

一〇

三六

三六

二六八

三六

四五九

○民法施行前ニ生シタル債權ト雖モ其施行後ニ至リ之ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓渡人カ其讓渡ヲ債務者ニ通知スレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗シ得ルモノトス

○民法施行以前ト雖モ債權ノ讓渡ヲシテ契約者以外ノ者ニ對抗セシメンニハ其讓渡人若クハ讓受人ヨリ少クモ債務者ニ對シ之カ通知ヲ爲スコトヲ要ス

○指名債權ノ讓渡人カ其讓渡ヲ債務者ニ通知セスシテ自ラ辨濟ヲ受ケタル場合ニ於テハ其辨濟ハ有效ニシテ讓受人ハ債務者ニ對シ更ニ辨濟ヲ請求スル權利ヲ有セス從テ該讓渡人ハ讓受人ノ財産ニ因リ法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ受ケ之カ爲メ讓受人ニ損失ヲ及ホシタルモノトス

○債務者其他ノ第三者ハ縱令債權讓渡ノ當事者カ民法第四百六十七條ノ手續ヲ履踐セサルトキト雖モ該當事者ニ對シ讓渡ノ事實ヲ主張シテ其效ヲ致サシムルコトヲ得

○債權讓渡ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルニハ讓渡人ヨリ債務者ニ之ヲ通知シ又ハ債務者カ之ヲ承諾スルヲ要スルコトハ債務者其他ノ第三者ノ意思ノ善惡ヲ問ハサルモノトス

○債權讓渡ノ通知ハ讓渡人ヨリ債權ノ讓渡アリタルコトヲ債務者ニ知ラ

シムルコトヲ目的トスル意思表示ニシテ其意思表示カ表意者タル讓渡人ヨリ相手方タル債務者ニ到達スルニ因リテ其效力ヲ生シ相手方タル債務者カ其意思表示ヲ認識シタリヤ否ヤハ意思表示ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非ス

○書面ヲ以テ債權讓渡ノ通知ヲ爲ス場合ニ於テハ其書面カ一般取引上ノ觀念ニ從ヒ相手方ノ爲メニ之ヲ受領スル機關ト爲ルヘキ者ノ手裡ニ歸シタルトキニ於テ相手方ニ到達シタルモノニシテ其發送ノ方法如何ハ之ヲ問フノ必要ナキモノトス

○債權讓渡人カ債權ノ讓渡ヲ債務者ニ通知シ若クハ債務者カ之ヲ承諾シタル以上ハ特ニ保證人ニ對シ確定日附アル證書ヲ以テ通知セサルモ之ヲ以テ保證人ニ對抗シ得ルモノトス

(同主旨)

債權讓渡人カ民法第四百六十七條ノ規定ニ依リ主タル債權ノ讓渡ヲ債務者ニ通知シ若クハ債務者之ヲ承諾シタル以上ハ縱令保證人ニ之カ通知ヲ爲ササルモ主タル債權讓渡ノ效力トシテ當然保證人ニ對シ從タル債權ノ讓渡ヲ主張シ得ルモノトス

債權讓渡人カ民法第四百六十七條ニ依リ主タル債權ノ讓渡ヲ債務者ニ通知シ若クハ債務者之ヲ承諾シタル以上ハ特ニ保證人ニ其通知ヲ爲ササルモ主タル債權讓渡ノ效力トシテ保證人ニ對シ當然從タル債權ノ讓渡ヲ主張シ得ヘキモノトス

四五	四五	三九	四〇
一九三	一九三	二二四	四二二

三七	三七	三六	三五
一三〇	一三〇	七八	五七
八	八	一九	一九

債權讓渡人カ民法第四百六十七條ニ依リ主タル債權ノ讓渡ヲ債務者ニ通知シタル以上ハ特ニ保證人ニ其通知ヲ爲ササルモ主タル債權讓渡ノ效力トシテ保證人ニ對シ當然從タル債權ノ讓渡ヲ主張シ得ルモノトス

○指名債權ノ讓渡ヲ解除シタル場合ニ於テ其債權者ノ轉換スル事實ハ讓渡ノ場合ト異ナラサルヲ以テ債務者ノ承諾アルカ若クハ之ニ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

(同主旨)

指名債權ノ讓渡ニ付キ讓渡人カ之ヲ債務者ニ通知シ若クハ債務者カ之ヲ承諾シタル以上債務者其他ノ第三者ハ讓受人ヲ以テ真正ノ債權者ト認ムヘキコト勿論ナレハ讓渡契約解除ノ場合ニ於テモ亦其實質ヲ債務者ニ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

○如上ノ場合ニ於ケル解除ノ通知ハ一旦債權者ノ地位ニ在リシ債權讓受人之ヲ爲スヘキモノトス

○指名債權ノ讓渡カ解除セラレタル場合ニ於テ其對抗要件タル通知ノ欠缺ヲ主張セント欲スル者ハ必スヤ之ヲ主張スルニ正當ノ利益ヲ有スルコトヲ要ス

○工事請負契約ノ讓渡ハ法律上債權ノ讓渡並ニ債務ノ引受ニ相當ス故ニ請負人ヨリ他ノ者ニ其契約ヲ讓渡シタルトキ請負人ノ權利ニシテ債權

四三	六四二
二	二〇〇
四五	二五
四五	二五
二	二〇〇

ノ讓渡ニ當ル部分ニ付テハ確定日附アル證書ニ依リ注文者ノ承諾ヲ證明スルニ非サレハ讓受人タル他ノ者ニ於テ之ヲ以テ注文者以外ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

○買戻約款ヲ附シ土地ヲ賣買スルニ當リ該特約ヲ登記シタルトキハ爾後買主ヨリ其土地ヲ買受ケタル者ハ特定承繼人トシテ買戻義務者ト爲ルモノトス從テ民法第四百六十七條第二項ニ所謂第三者ニ該當セス

○民法第四百六十七條第二項ハ債權讓受人ハ確定日附アル證書ヲ以テ債務者カ通知ヲ受ケタル日ヲ證明スルニ非サレハ債權讓渡ヲ第三者ニ對抗スルヲ得スト云フノ旨趣ニシテ讓受人ト第三者トノ關係ヲ率スルニ止マル規定ナリ

(同主旨)

民法第四百六十七條第二項ハ確定日附アル證書ヲ送附シテ債務者ニ通知スルニ非サレハ云云ト謂フノ旨趣ニ非スシテ債務者ニ於テ通知ヲ受ケタル日ヲ確定日附アル證書ヲ以テ證明スルニ非サレハ第三者ニ對抗スルヲ得スト云フノ旨趣ニ解釋スヘキモノトス

○民法第三百七十六條ハ抵當權ノ處分ヲ以テ對抗セラルル者ヲ制限的ニ列舉シタル旨趣ナレハ同條ニ主タル債務者ノ外保證人アルヲ援用シテ同第四百六十七條第二項ノ債務者以外ノ第三者中ニ保證人ヲ包含スル

三五	二〇	六三
三六	二一四	三六二
四〇	二一四	三六二
三六	二一四	三六二

モノト論斷スルヲ得ス

(參照)

債權ノ讓渡ヲシテ契約者以外ノ者ニ對シ有效ナラシメンニハ其讓渡人若クハ讓受人ヨリ債務者ニ對シ之方通知ヲ爲スヲ要ス

(第四百六十八條)

『第四百八十六條』

○債權ノ讓渡ハ債務者カ之ヲ承諾シタル場合ノ外讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ヘキモノトス

○民法第九十四條第二項ノ規定ハ虛偽ノ意思表示カ物權ニ關スルト否トニ依リテ其適用ヲ異ニスヘキモノニ非ス從テ債權ヲ生セシムル意思表示示ノ虛偽ナルコトハ同第四百六十八條第二項ノ所謂讓渡ノ通知ヲ受クルマテニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由中ニ包含セス

(反對)

虛偽ノ買賣契約ヲ締結シタル後賣主カ其假裝ノ債權ヲ他人ニ讓渡セル場合ニ於テハ其虛偽ノ意思表示ニ因ル無効ハ民法第四百六十八條ニ所謂讓渡ノ通知ヲ受クルマテニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由ナリトス故ニ買主ハ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得
虛偽ノ寄託契約ヲ締結シタル後寄託者カ其假裝ノ債權ヲ他人ニ讓渡セル場合ニ於テハ其虛偽ノ意思表示ニ因ル無効ハ民法第四百六十八條第二項ニ所謂讓渡ノ通知前讓渡人ニ對シテ生シタル事由ナリトス故ニ受寄者ハ讓受人ノ善意ナルト否トニ拘ハラズ此事由ヲ以テ對抗スルコトヲ得

元	二九	三四	四〇	三七	三八
一一四	一九	二	六九	五七	八二

○民法第四百六十八條第二項ニ從ヒ債務者カ讓渡人ニ對シテ有スル債權ヲ以テ自己ノ債務ト相殺ヲ爲サントスルニハ債權讓渡ノ通知ヲ受クルマテニ雙方ノ債務カ相殺ヲ爲スニ適シタルコトヲ要ス

(同主旨)

民法第四百六十八條第二項ニ所謂讓渡人ニ對シテ生シタル事由トハ讓渡ニ係ル債權ニ關シ讓渡人ニ對シテ生シタル異議ノ原因ヲ指スモノトス從テ債務者カ讓渡人ニ對シテ債權ヲ有スルモ讓渡ノ通知前未タ相殺ニ適セザリシモノノ如キハ之ニ包含セス

民法第四百六十八條第二項ノ場合ニ於テ債務者カ讓渡人ニ對シテ有スル他ノ債權ヲ以テ之ト相殺セントスルニハ債權讓渡ノ通知ノ當時既ニ雙方ノ債務カ相殺ヲ爲スニ適スルモノ即チ執レモ同種ノ目的ヲ有シ且辨濟期ニ在ルコトヲ要ス

債務者カ債權讓渡人ニ對シテ債權ヲ有スルモ讓渡ノ通知前未タ相殺ニ適セザリシトキハ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス

○相殺ノ意思表示ハ既往ニ遡リテ其效力ヲ生スルモ期限ノ利益ノ拋棄ハ斯ノ如キ遡及效ヲ有セサルヲ以テ辨濟期ニ在ラサル債務ハ讓渡ノ通知アルマテニ期限ノ利益拋棄ノ事實アルニ非サレハ未タ相殺ニ適セサルモノト云ハサルヲ得ス

(同主旨)

債權讓渡ノ通知ヲ受ケタル時辨濟期未タ到來セザリシ場合ニ於テハ債務者カ其以前ニ期限ノ利益ヲ拋棄シタル事實アルニ非サレハ民法第四百六十八條第二項ニ所謂生シタル事由ト爲ラ

元	四〇	四一	三六	元
九五二	七六九	六三二	三六七	九五二

(第四百七
十條)

『第四百七十條』

○民法第四百二十三條舊商法第七百六十五條同第四百條及ヒ民法第四百七十條ハ約束手形ノ讓受人カ讓渡人ヲ強迫シ裏書讓渡ヲ爲サシメタルヲ原因トシテ而カモ其手形ノ振出人ヨリ讓渡人ト讓受人トニ對シ讓受渡ノ取消ヲ求ムル場合ニ適用スヘキ法條ニ非ス

(第四百七
十一條)

『第四百七十一條』

○證書ニ債權者ヲ指名シタルモ其證書ノ所持人ニ辨濟スヘキ旨ヲ附記シタル場合ニ於テハ其債權ハ單純ノ指名債權若クハ指圖債權ニ非ス又純然タル無記名債權ニモ非スシテ記名式所持人拂ナル特種ノ證券的權利ニ屬シ證書ノ交付ノミニ因リテ讓渡ノ效力ヲ生スルモノトス

(第四百七
十二條)

『第四百七十二條』

○民法第四百七十二條ニ所謂原債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由トハ相殺若クハ債務ノ免除又ハ其辨濟等ノ如ク債務ノ由テ生シタル法律行為ノ有效無効ニ影響ヲ有セスシテ單ニ其履行ノミニ影響スヘキモノヲ指稱ス

○後見人カ親族會ノ同意ヲ得シテ被後見人ニ代リ約束手形ヲ振出シタル事由ハ手形債務ノ原因タル振出行爲ノ有效無効ニ影響ヲ及ホスヘキモノナルヲ以テ民法第四百七十二條ニ所謂原債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ニ該當セス

第五節 債權ノ消滅

○當事者カ眞實不動產強制競賣ノ手續ニ依リ債權ヲ實行スルノ意思ニ非スシテ唯表面ノミニ之ニ據リテ其實行ヲ爲スモノノ如ク假裝シ後日他ノ方法ヲ以テ債權ノ辨濟ヲ了スル特約ヲ爲シタルトキハ縱令形式上競賣手續ヲ完結セシメタリトスルモ之ニ因リテ債權消滅ノ效ヲ生スルモノニ非ス

第一款 辨濟

○債務關係カ辨濟ニ因リ消滅シタル場合ニ於テハ縱令當事者カ異時舊債務關係ヲ復活セシムヘキ意思表示ヲ爲スモ其行為ハ新ナル債務關係ヲ發生スヘキ效力アルニ止マリ之カ爲メニ一旦消滅シタル債務關係ヲ復活セシムルコトヲ得ス

○債務ノ辨濟又ハ其提供ハ第三者ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ原則トスルモ第三者カ債務者ノ代理人トシテ之ヲ爲ス場合ハ必ス適法ニ代理權ヲ有スルコトヲ要スルモノトス

三五七 一四

三七 二六

四三 九二

三元 七五

三元 七五

四三 八七

三七 一五五

二 九六

(參照)

月賦返濟ノ約定ニシテ辨濟期限ノ到來セサルニ一時ニ辨濟スヘキ義務アリト裁判スルニ付テハ其理由ヲ説示セサルヘカラス
原院ノ判令ハ未丁年者ノ管理人ニ不動産ヲ處分スル權アリト云フニ非スシテ繼承シタル債務ヲ其抵當ヲ以テ辨濟シタルモノ即チ未丁年者ノ利益ノ爲メニ爲シタルモノナレハ之ヲ不法ト云フヲ得ス
町村長ハ區ノ行政事務ヲ管理スル權限ヲ有スト雖モ區ノ出納及ヒ會計ノ事務ニ至テハ自ラ之ヲ處理スルノ權限ナシ故ニ區ニ對スル債務者ヨリ町村長ニ爲シタル金圓ノ交付ハ縱令債務辨濟ノ意思ヲ以テスルモ辨濟ノ效力ヲ生セス

(第四百七十四條)

『第四百七十四條』

○債務ノ引受トハ通常第三者カ辨濟期日ニ至リ主債務者ニ代リテ債務ヲ辨濟スルコトヲ約スルノ謂ナリ故ニ其契約ニ因リ主債務者ハ當然引受額ニ相當スル金品ヲ引受者ニ對シテ直ニ給付スヘキ債務ヲ負フモノニ非ス

○第三者カ債務者ニ對シテ豫メ其債務ヲ辨濟スヘキ旨ヲ約スル契約ハ有效ナルヲ以テ第三者カ其約旨ニ基キ辨濟ヲ爲ササルトキハ債務者ニ對シテ不履行ノ責アルコトヲ免レス

○當事者以外ノ第三者カ債權者ニ對シ債務者ニ代リテ辨濟ヲ爲スヘキ豫

二六	二
二七	二四
三六	六六
三六	一〇六
四〇	三九

約ヲ爲シタル場合ニ於テハ債務者ノ反對ノ意思表示ナキ限り其契約ハ有效ニシテ賣買ノ豫約ノ如ク更ニ當事者ノ一方ヨリ契約ヲ完結スル意思表示ヲ爲ス必要ナシ

(參照)

他人ノ債務ヲ消滅セシムルノ目的ヲ以テ自ラ代テ辨濟ノ義務ヲ約スルコトハ其代位ノ爲メナルト單ニ原債務者ニ満足ナ與フルノ目的タルトニ論ナク苟モ契約ノ能力ヲ有スル以上ハ法理上有效ニ爲シ得ヘシ
凡ソ他人ノ行爲ヨリ生スル損害ヲ引受辨償セントスル身元引受人若クハ引受辨償人ノ如キハ當然保證人ノ位地ニ立ツヘキ者ニ非スシテ寧ロ當初ヨリ第三者ニ代リ自ラ其責ニ任スルヲ通例トス

(第四百七十五條)

『第四百七十五條、第四百七十七條』

○質權者カ質權ノ實行ニ因リテ質物ノ換價代金ヲ受取リタルモノニ非ストスルモ其辨濟受領ノ當時平穩公然善意無過失ニテ之ヲ占有シタルモノトセハ之ヲ交付シタル債務者ニ於テ該金錢ハ自己ノ所有ニ非ストノ理由ヲ以テ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

(第四百七十八條)

『第四百七十八條』

○債權ノ準占有者ニ對スル辨濟ハ辨濟者ノ無過失ナルコトヲ要セサルヲ以テ其辨濟ノ效力ヲ定ムルニ付キ過失ノ有無ヲ決スルノ要ナシ

四五	七〇
二六	二九
二七	五三
元	七二
三六	八九

(刑) ○甲者カ乙者ナリト冒稱シテ發信人ヲ欺罔シ丙銀行ヨリ若干金ヲ受取ルヘキ旨ノ電報送達紙ヲ騙取シタル場合ト雖モ乙者ハ之ニ因テ該金圓ヲ受取ルヘキ債權ヲ取得スルカ故ニ甲者ニシテ現ニ其權利ヲ證明スヘキ送達紙ヲ占有シ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ其債權ヲ行使スルトキハ民法第四百七十八條ニ所謂債權ノ準占有者ニ該當セルモノトス

(刑) ○電報送達紙ヲ銀行ニ持參シテ電報送金ノ支拂ヲ求ムル者アルトキハ取引銀行ノ電報案内ニ對照シ其持參人ヲ真正ノ債權者ト認メ直ニ支拂ヲ爲スハ普通ノ慣例ナルカ故ニ特別ノ事情ナキ限ハ唯甲者カ受信人乙者ナリト冒稱シ來リタルト電報送金受取證書ノ偽造ナリシ故ノミヲ以テ該銀行ノ爲シタル支拂ハ善意ノ辨濟ニ非スト斷定スルヲ得ス

○中央金庫ニ供託シタル金錢ノ返還ヲ受クヘキ債權ニ對シ差押ノ上轉付命令ヲ得テ其供託金ノ返還ヲ受ケタル者ハ該債權ノ準占有者ナリ

○差押又ハ假差押ニ依リ支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者カ自己ノ債權者ニ辨濟ヲ爲スモ差押債權者ニ對シ其債權ノ消滅ヲ主張スルコトヲ得サルモノナレハ債權ノ準占有者ニ對シテ爲シタル辨濟ニ付テハ勿論其效力ヲ有セサルモノトス

(第四百八十一條)

『第四百八十一條』

二	二	四	四
二二四	二二四	一〇三三	一〇三三

○債權差押ノ競合スル場合ニ發シタル轉付命令ハ優先權ヲ有スル債權者カ得タル場合ノ外其效力ヲ生セサルモノナルヲ以テ差押ヲ受ケタル第三債務者カ右轉付命令ニ基キ拂渡ヲ爲シタルトキハ他ノ差押債權者ハ民法第四百八十一條第一項ニ依リ其損害ヲ受ケタル限度ニ於テ更ニ第三債務者ニ對シ辨濟ヲ請求シ得ルモノトス

○差押又ハ假差押ニ依リ支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者カ自己ノ債權者ニ辨濟ヲ爲スモ差押債權者ニ對シ其債權ノ消滅ヲ主張スルコトヲ得サルモノナレハ債權ノ準占有者ニ對シテ爲シタル辨濟ニ付テハ勿論其效力ヲ有セサルモノトス

(第四百八十二條)

『第四百八十二條』

○代物辨濟ノ場合ニ於テ引渡スヘキ物件ノ價額債務額ヨリ多クシテ餘金ヲ生スルトスルモ爲メニ代物辨濟ノ性質ヲ變スルコトナシ

(第四百八十四條)

『第四百八十四條』

○民法施行前ニ成立シタル貸借契約ニ於テ辨濟ヲ爲スヘキ場所ニ付キ別段ノ意思表示アラサルトキハ辨濟ハ債務者現時ノ住所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス

○貸借ノ場合ニ於テ毎辨濟期ニ賃料ノ支拂ヲ受クヘキ箇箇ノ權利ハ契

二	三	二	四
四五	三五	二三四	二五三

約ノ當時直ニ發生スルモノニ非スシテ貸借ノ目的タル物ノ使用ニ應シ順次ニ發生スルモノナルモ其基本タル權利ハ契約ト同時ニ發生スルモノナルヲ以テ之ニ依リテ將來發生スヘキ箇箇ノ權利ノ辨濟ノ場所モ定マルモノトス

〔第四百八十七條〕

○債權證書ハ債權者カ債權證明ノ用ニ供スル爲メ債務者ヲシテ作成交付セシムルモノニ外ナラサレハ其所有權ハ當然債權者ニ存スルモノトス

〔第四百八十八條〕

〔參照〕

二箇以上ノ債權存在スル場合其孰レノ債權ニ對シ辨濟シタルヤハ其辨濟ノ當時債務者ニ於テ之ヲ領收證ニ明記セシムヘク債權者ノ隨意ニ放任スヘカラサル條理ナリ

〔第四百八十九條〕

○債務者カ同一ノ債權者ニ對シテ單純債務ト連帶債務トヲ負擔シ執レモ辨濟期ニ在ル場合ニ於テ當事者カ辨濟ノ充當ヲ爲ササリシトキハ其辨濟ハ之ヲ單純債務ニ充當スヘキモノトス

○債務者カ數箇ノ債務ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタル場合ニ於テ總債務孰レモ辨濟期ニ在リ且同一物件ヲ以テ共ニ擔保ノ目的トシ

二	四五
四三	一七〇
二八	一五三
四〇	二〇〇

其何レヲ先キニ辨濟スルヤニ付テ何等ノ利益ヲ有セサルトキハ民法第四百八十九條第三號ニ從ヒ辨濟期ノ先キニ至リタル債務ノ辨濟ニ充當セサルヘカラス

〔參照〕

二箇ノ債務アリテ其辨濟ノ方法順序ニ付キ爭ナキトキハ入金ハ先ツ其成立ノ最モ舊キ債務ニ充當スルヲ當然トス

〔第四百九十一條〕

○民法第四百九十一條ニ所謂利息ハ遲延利息ヲモ包含セルモノトス
○制限外ノ利息ニ關スル契約ハ無効ナルカ故ニ法律上ノ充當ノ場合ニ於テ制限外ノ利子ニ付キ有效ニ充當シ得ルモノト爲シタル判決ハ不法ナリ

〔參照〕

利息附貸金ニ對スル辨濟ハ先ツ其利子ノ償却ニ充ツルヲ以テ普通ノ條理トス從テ返濟期限前ノ入金ト雖モ既ニ利子ノ生シタルトキハ其支拂ニ充當スルヲ當然トス

〔第四百九十二條〕

○消費貸借ノ場合ニ於テハ借主ハ辨濟ノ提供ヲ爲シタル時ヨリ遲延利子ヲ支拂フヘキ責務等ヲ免ルルモ主タル債務ハ其提供ノミニ依テ之ヲ免ルヘキモノニ非ス

三七	六五
三〇	六三
三七	七〇
四	九二
三〇	一九
三六	一八四

○債權者ノ主張スル債權額カ現實ノ債務額ニ超過スルコトアルモ債務者ハ辨濟ノ提供ノミヲ以テ強制執行ヲ免ルヘキモノニ非ス

『第四百九十三條、第四百九十四條』

(第四百九十三條、第四百九十四條)

○供託ハ辨濟ノ提供ヲ爲セハ足ルヘキ場合ニ於テハ之ヲ爲スヲ要セス
○債務者カ契約ノ本旨ニ從ヒテ辨濟ヲ行フ爲メニ目的物ヲ携ヘ辨濟ノ場所ニ赴キタルモ債權者ノ行爲ニ因リ辨濟ヲ遂ケ能ハサル場合ニ於テハ債務者ハ現實ニ辨濟ノ手續ヲ盡シタルモノトス從テ辨濟ノ提供アリタルモノト爲スヘキハ當然ナリ

○當事者カ郵便爲替券ノ送付ヲ以テ金員辨濟ノ方法ト爲シタル場合ニハ債務者ニ於テ現實ニ爲替券ヲ債權者ニ送付シ債權者之ヲ受領セル以上ハ債務者ハ正シク辨濟ノ提供ヲ爲シタルモノトス

○債權者カ豫メ辨濟ノ受領ヲ拒絕シタル場合ト雖モ辨濟者ハ適法ノ提供ヲ爲シ辨濟ノ受領ヲ拒絕セラレタル時ニ在ラサレハ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得ス

○一部辨濟ノ提供ハ債權者ノ承諾ナキ限り債務ノ本旨ニ從ヒテ爲ス辨濟ノ現實ナル提供ト爲ラサルモノナレハ債權者カ之カ受領ヲ拒ミタル爲メ債務者ニ於テ之ヲ供託スルモ其供託シタル部分ニ相當スル債務ヲ免

三六 一八四二

三五 四八三

三六 三四九

三九 二二三

四〇 五七六

ルルヲ得サルモノトス

○債權者カ債務者ニ對シ債權ノ目的タル給付ノ受領ヲ拒ミタル場合ニ債務者カ目的物ノ供託ニ因リテ其債務ノ免脱ヲ得ルカ爲メニハ給付ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲シ之ヲ債權者ニ通知シ債權者ヲシテ之ヲ受領スルコトヲ得セシムヘキ状態ヲ作爲スルコトヲ要スルヲ通則トス

○如上ノ通知ハ何等特別ノ事情ノ存セサル通常ノ場合ニ於テハ之ヲ必要トスルモ其通知ヲ必要トセス又ハ通知ヲ爲スモ其效ナキコト明確ナル場合ニ於テハ特ニ之ヲ爲スコトヲ要セス直ニ供託ヲ爲シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得ルモノトス

○第三者カ債務者ノ代理人トシテ債權者ニ對シ目的物ノ引渡ヲ爲サントスル場合ニ於テ債權者カ其代理權ヲ否認スルモ之ヲ以テ直ニ目的物ノ引渡ヲ受クルコトヲ拒絕シタルモノト云フコトヲ得ス

(第四百九十九條)

『第四百九十九條』

○租税ノ納付ハ民法上ノ辨濟ニ非サレハ義務者ニ代テ租税ヲ納付シタル者ハ民法ノ規定ニ從ヒテ國庫ニ代位スルコトヲ得ス而シテ其代納者カ義務者ノ財産ニ付キ利害關係ヲ有スルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ

(第五百條)

『第五百條』

四四 八〇八

四五 六八四

四五 六八四

二 九八六

三七 一五六

(參照) 債務者ノ利害關係人カ債務者ニ代リ其債務ヲ辨濟シタルトキハ當然債權者ノ權利ニ代位スルモノトス

保證人カ債務ヲ辨濟シタルトキハ當然其債權者ノ權利ニ代位スヘキハ當然ノ條理ナルニ依リ裁判所カ其代位辨濟ノ事實ヲ認メ且請求者モ事實上代位辨濟ヲ理由トシテ請求セルコト明カナルニ拘ハラス特ニ代位訴權ヲ主張セサリシ理由ヲ以テ債權者ト同一ノ請求ヲ爲スコトヲ不當ナリトスル裁判ハ不法ナリ

〔第五百一〕

〔第五百一條〕

○保證人カ代位スヘキ權利ハ其保證ヲ約シタル當時現在スルモノニ限ラヌシテ其後債權者ノ取得シタル權利ヲモ包含スルモノトス
○自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者カ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テハ其債務ノ保證人ニ對シ當然頭數ニ應シテ債權者ニ代位スルヲ得ルコトハ民法施行前ニ在リテモ行ハレタル法則ナリトス

〔第五百四〕

〔第五百四條〕

○債權者カ擔保物ヲ減少シタル場合ニ於ケル保證人ノ免責ノ限度ハ保證人カ債權者ニ對シ辨濟ヲ爲ササルヘカラサル時期ニ於ケル擔保物ノ價額ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス
○民法第五百四條ハ抵當債權ノ保證人又ハ抵當不動産ノ第三取得者アル

二九	一一	六〇
三〇	一一	五五
三四	二	三五
四三		七五〇
三五	九	七

場合ニ於テ債權者カ故意又ハ懈怠ニ因リ他ノ擔保ヲ喪失又ハ減少シ辨濟ニ因リテ代位スヘキ保證人等ノ權利ヲ害シ償還ヲ受クルコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ保證人等ヲシテ其害ヲ受クヘキ限度ニ於テ責任ヲ免レシメ以テ之ヲ保護セントスルノ趣意ナリトス
○抵當不動産ノ第三取得者ハ辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者ナルヲ以テ民法第五百四條ニ規定スル免責ノ利益ヲ享クヘキモノトス
○民法第五百四條ハ擔保ノ喪失又ハ減少カ無條件ニテ行ハレタルト否トヲ區別セサレハ縱令債權者カ一部辨濟ヲ受ケテ之ヲ行ヒタル場合ト雖モ辨濟ニ因リテ代位ヲ爲スヘキ者ハ喪失又ハ減少シタル擔保ノ價格ニ應シ其責ヲ免ルルモノトス

○民法第五百四條ニ所謂故意トハ擔保ノ喪失又ハ減少ノ故意ヲ指稱スルモノニシテ同條ニ規定セル結果即チ代位ヲ爲スヘキ者ノ免責ヲ豫見シタルヤ否ヤハ問フ所ニ非ス
○民法第五百四條ニ規定スル所ノ擔保ハ法律ノ規定ニ因ルト契約ニ因ルトヲ問ハス物上又ハ對人擔保ヲ謂フモノニシテ所謂一般擔保即チ債務者ノ財産ニシテ一般債權者ノ辨濟ノ資ニ供セラルルモノヲ謂フニ非ス

第二款 相殺

四〇	四〇	五九
四〇		五九
元		八七九

○賦與金下付ノ後之ヲ取回センカ爲メ復祿處分ニ因リテ廢祿者カ得ヘキ
 祿高ト相殺シタル行爲ハ私法上ノ行爲ニシテ行政處分ニ非ス

○相殺スヘキ債務ヲ負擔セサリシコトヲ理由ト爲シ相殺ノ不當ナルコト
 ヲ主張スル如キハ從前ノ債權カ相殺ノ爲メ消滅セサルコトヲ主張スル
 ニ外ナラサルニ付キ其債權ノ辨濟ヲ請求スルハ格別ナルモ相殺ニ因リ
 控除シタル物ヲ不當利得トシテ之カ返還ヲ請求シ得ヘキモノニ非ス

○法律上ノ相殺ニ於テハ無効ノ債權ハ之ヲ相殺ノ用ニ供スルヲ得サルモ
 ノナレハ利息制限法超過部分ノ利息ニ付テハ相殺ヲ爲スコトヲ得ス

〔第五百五條〕

○損害ノ賠償金ハ其損害ノ生シタル時ニ於テ既ニ賠償スヘキ義務ヲ負擔
 スルモノナレハ其辨濟期ハ即チ其損害ヲ生シタル時ニ於テ到來セルモ
 ノナリ

○寺院ノ住職タル者カ在職中自己ノ私財ヲ以テ其寺院ノ爲メニ必要ナル
 費用ヲ立替ヘ置キ後日什金ヲ以テ辨濟ヲ受ケントスル場合ニハ宗規所
 定ノ手續ヲ經ルコトヲ要ス從テ其立替金ノ債權ト什金返還ノ債務トハ
 相殺スルコトヲ許サス

○金錢ノ消費貸借ノ豫約ニ基キ豫約者ニ對シ相手方ノ有スル債權ハ金錢

ノ支拂ニ因リ消費貸借ヲ成立セシムルコトヲ目的トスル債權ニシテ金
 錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ニ非ス從テ豫約者ノ相手方ニ對シテ有スル
 金錢給付ノ反對債權ヲ以テ之ト相殺ヲ爲スコトヲ得ス

〔同主旨〕

消費貸借豫約ノ場合ニ於ケル豫約者ノ債務ハ消費貸借ヲ成立セシムヘキ債務ナルヲ以テ相手
 方カ豫約者ニ對シ有スル請求權ノ實質ハ金錢其他ノ代替物支拂ノ債權ニハ非スシテ消費貸借
 ナ成立セシムルノ債權ナリトス從テ相手方ハ豫約者ニ對シ自己ノ負擔スル金錢其他ノ代替物
 給付ノ債務ト相殺スルヲ得ス

〔參照〕

貸金ト預金トハ互ニ相殺シ得ヘキモノトス

〔第五百六條〕

○相殺ノ抗辨ヲ答辯書ニ記載シテ相手方ニ送達シタルトキハ相殺ノ意思
 表示トシテ有效ナリ

○民法第五百六條第一項ニ所謂相手方トハ意思表示ヲ爲ス債務者カ自己
 ノ債務ヲ履行スヘキ其人ヲ指稱ス從テ同法第四百六十八條第二項ノ場
 合ニ於ケル讓受人ノ如キモ亦之ニ包含セラレルモノトス

○被告カ原告ニ對シ相殺ニ適スル債權ヲ有スルモ口頭辯論終結前相殺ノ
 意思表示ヲ爲ササリシトキハ未タ債務消滅ノ事由發生セサリシモノナ

三	三	二	三	二
六	二	二	二	三
三	七	一七	三	三

二	二	二	二	二
四	九	三	九	六
二	六	五	六	七

レハ敗訴ノ判決確定後ニ至リ相殺ノ意思ヲ表示シ以テ其債務ヲ消滅セシムルコト得

○貸借ノ利息中利息制限法超過部分ノ債權ト將來物品ノ賣却ニ因リ生スヘキ代金ノ債權トヲ相殺スヘキ旨ノ豫約ハ利息制限法ノ禁止規定ニ違反スルヲ以テ無効ナリ從テ右賣却代金ノ發生シタルニ際シ相殺ノ意思表示ヲ爲スモ其意思表示ハ法律上ノ效果ヲ生セス

○相殺ノ意思表示ハ既往ニ遡リテ其效力ヲ生スルモ期限ノ利益ノ拋棄ハ斯ノ如キ遡及效ヲ有セサルヲ以テ辨濟期ニ在ラサル債務ハ讓渡ノ通知アルマテニ期限ノ利益拋棄ノ事實アルニ非サレハ未タ相殺ニ適セサルモノト云ハサルヲ得ス

〔第五百九條〕

○不法行爲ニ因ル債務ノ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得サルモ當事者ノ契約ヲ以テ之ヲ約スルハ法律ノ禁スル所ニ非ス

第三款 更改

○當事者カ前債權ニ擔保ナシト誤信シタル爲メ更改ヲ爲シタル場合ニ於テハ其擔保ナシトノ信念カ更改契約ノ成立要件タリシモノナルヲ以テ該契約ハ要素ニ錯誤アルモノト謂ハサルヲ得ス

〔第五百十三條〕

○債務ノ要素トハ債務ノ成立ニ必須ノ事項ヲ指スモノニシテ利子ノ割合ヲ増加シ又ハ辨濟ヲ怠リタルトキ期日前ノ延滞利子ヲ元金ニ組入ルル如キ追約ハ債務ノ要素ヲ變更シタルモノニ非ス

○代金ハ賣買ヲ組成スル一要素ナルカ故ニ一旦取結ヒタル賣買契約ニ於テ代金ヲ變更シタルトキハ前契約ハ更改セラレタルモノナリトス

○當事者間ニ於テ數多ノ舊債權ヲ一箇ノ債權ニ更改シタルトキハ新舊債權ノ數額同シカラス即チ債權ノ目的同一ナラサルコトハ自明ノ理ナルヲ以テ更改ノ要素ヲ具備セシヤ否ノ點ニ付キ特ニ判斷スルノ要ナシ

○手形ノ當事者ニ於テ手形債務ヲ消費貸借ニ更改スルニ當リ第三者カ特ニ其當事者ト連帶シテ新債務ヲ負擔スヘキコトヲ約諾スルハ違法ニ非ス

○利息ヲ元本ニ組入レ若クハ更ニ返濟期限ヲ約シテ證書ヲ書換フルカ如キハ債務ノ要素ヲ變更セルモノニ非サレハ民法ノ所謂更改ニ該當セス
○手形債務ヲ普通債務ニ更改シタル場合ニ於テ其手形法定ノ要件ヲ具備セサル爲メ無効ナルトキハ手形ヲ相手方ニ返還シタル後ト雖モ更改契約ノ無効ナルコトヲ主張スルコトヲ得サルモノニ非ス

二	四〇	三九	三五	三五	三四
			二〇	二	四
		二二六	二二五	五三	八七
八三三	二六二				

二	元	元	二	四二
				三六〇
		九五一	一七三	
七六四	二〇八			

○普通債務ノ成立ニハ敢テ證書ノ存在ヲ必要トスルモノニ非サルモ手形債務ニ在テハ證書ハ其成立ニ缺クヘカラサル要素ナルヲ以テ手形債務ヲ普通債務ニ變更スル場合ニ於テハ債務ノ要素ヲ變更スルモノニシテ民法第五百十三條ノ更改ニ該當スルモノトス

〔同主旨〕

約束手形ノ債務ヲ變更シテ金錢ノ給付ヲ目的トスル手形以外ノ債務ト爲シタル場合ニハ舊債務ハ更改ニ因リテ消滅スルモノトス
他ノ債務ヲ手形債務ニ變更シ若クハ手形債務ヲ他ノ手形債務ニ變更セル場合ニ於テハ舊債務ハ更改ニ因リテ消滅スルモノトス
手形ハ他ノ證書ノ如ク舊ニ債務ノ存在ヲ證明スルノ具タルニ止マラス債務ノ成立ニ缺クヘカラサル要件ナルヲ以テ手形以外ノ債務ヲ手形債務ニ變更シ又ハ手形債務ヲ他ノ債務ニ變更スルハ民法第五百十三條ノ更改ニ該當ス

〔參照〕

債權ノ移轉單ニ債權者其人ノ變更ニ止マリ原債權者ト債務者トノ權義關係ニ付キ何等ノ利害影響ナキモノハ義務ノ更改ニ非ス

〔第五百十四條〕

○甲者カ債務ヲ負擔セル場合ニ於テ乙者之ニ加ハリ債權者ニ對シテ共ニ連帶債務ヲ約定スルハ債務ノ體様ヲ變シタルニ過キサレハ之ヲ以テ債

二	三	三	三	二五
八三	一一二	一一三	一七九	一七九

〔第五百十五條〕

務者ノ交替ニ因ル更改ナリト云フヲ得ス
○債權者ノ交替ニ因ル更改ト債權ノ讓渡トハ全然其性質ヲ異ニスル別箇ノ法律行為ナリトス

〔第五百十八條〕

〔參照〕
舊義務ニ附著シタル保證其他ノ擔保ハ特約ナクレハ更改ニ因リ消滅ス

第四款 免除

〔第五百十九條〕

○權利ノ拋棄ハ相手方ニ對シ其意思ヲ表示スルニ非サレハ其效ヲ生セス
○權利ノ拋棄ハ權利者カ其意思ヲ表示スルト同時ニ其效力ヲ生シ一旦其意思ヲ表示シタル上ハ隨意ニ之ヲ取消スコトヲ得ス
○債務ノ免除ハ獨リ明示ノ意思表示ヲ以テスルコトヲ得ルノミナラス又默示ノ意思表示ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得而シテ默示ノ意思表示ハ表意者ノ積極若クハ消極ノ行為ヨリ之ヲ推定シ得ルモノトス
○權利ノ拋棄ハ民法施行前ニ於テモ相手方ニ對スル明示又ハ默示ノ意思表示ニ依リテ之ヲ爲スヘキモノトス

四〇	三	三	三	二九	四三	四〇
一一六	一	一	一	一	一	一
一五	二二	二四〇	一	二	六	一

○債權者カ第三者ニ對シテ債權ヲ拋棄スルコトヲ約シ之ニ對シテ第三者カ債務者ノ債務ト同一内容ヲ有スル債務ヲ負擔スルコトヲ約シタルトキハ債權者ハ第三者ニ對シテ債務者ノ爲メニ債權ヲ拋棄スヘキ債務ヲ負擔シ第三者ハ債權者ニ對シテ債務者ノ債務ト同一ノ債務ヲ負擔スル一種ノ雙務契約成立スルニ至ルモノトス

○如上ノ契約ニ於テ債權者カ第三者ニ其履行ヲ求メタルトキハ債權者カ債務者ニ對シテ債權ヲ拋棄スル意思ヲ表示スルカ若クハ債務者カ債權者ニ對シテ利益享受ノ意思ヲ表示スル迄第三者ハ同時履行ノ抗辯ヲ主張スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ債務者ノ交替ニ因ル更改契約又ハ第三者カ債務辨濟ノ豫約ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス

(參照)

權利ノ拋棄ハ法律ノ明文明示ノ合意アルトキノ外拋棄ノ意思ヲ確認シ得ル格段ノ事情アル場合ニ非サレハ之ヲ推定スルコトヲ得ス
權利ノ拋棄ハ法律上推定ヲ許サス

第五款 混同

(第五百二十條)

『第五百二十條』

○債權及ヒ債務カ同一人ニ歸シタル場合ニ於テ其債權ハ混同ニ因リ當然

二	二
二四	二
二五	二
二六	二
二七	二
二八	二
二九	二
三〇	二
三一	二
三二	二
三三	二
三四	二
三五	二
三六	二
三七	二
三八	二
三九	二
四〇	二
四一	二
四二	二
四三	二
四四	二
四五	二
四六	二
四七	二
四八	二
四九	二
五〇	二
五一	二
五二	二
五三	二
五四	二
五五	二
五六	二
五七	二
五八	二
五九	二
六〇	二
六一	二
六二	二
六三	二
六四	二
六五	二
六六	二
六七	二
六八	二
六九	二
七〇	二
七一	二
七二	二
七三	二
七四	二
七五	二
七六	二
七七	二
七八	二
七九	二
八〇	二
八一	二
八二	二
八三	二
八四	二
八五	二
八六	二
八七	二
八八	二
八九	二
九〇	二
九一	二
九二	二
九三	二
九四	二
九五	二
九六	二
九七	二
九八	二
九九	二
一〇〇	二

消滅スヘキコトハ民法實施前ニ在リテモ亦法理トシテ認めラレタル所ナリ

第一章 契約

○一旦適法ニ成立シ後日或事由ニ依リテ消滅シタル契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ其效力ヲ復活スルコトヲ得

○貸座敷營業者ト娼妓トノ間ニ於ケル金錢貸借上ノ契約ト身體ヲ拘束スルヲ目的トスル契約トハ各自獨立ニシテ身體ノ拘束ヲ目的トスル契約ハ無効ナリ

○當事者ニ於テ或債務履行ノ爲メ期間ヲ定メ其期間ノ經過ノミニ依リ直ニ契約ヲ解除シ得ヘキ旨ヲ特約スルコトハ當事者ノ自由ニシテ斯ノ如キ契約ハ民法實施前後ヲ問ハス有効ナリ

○當事者ノ一方ハ其相手人ニ對シ某寺ノ住職ニ推舉スルコトヲ約シ他ノ一方ハ其相手人ニ對シ該寺ノ負債ヲ分擔スルコトヲ約シ右二箇ノ約束相互ニ約因ト爲リテ組成シタル契約ハ民法上無効ニ非ス

○甲者カ乙者ヨリ讓受ケタル營業ニシテ他ノ關係上其營業自體ニ制限アルトキハ甲者ハ前營業者ノ有セサル過大ノ權利ヲ讓受クヘキ理ナキニ

三六	二
三六	二
三七	二
三八	二
三九	二
四〇	二
四一	二
四二	二
四三	二
四四	二
四五	二
四六	二
四七	二
四八	二
四九	二
五〇	二
五一	二
五二	二
五三	二
五四	二
五五	二
五六	二
五七	二
五八	二
五九	二
六〇	二
六一	二
六二	二
六三	二
六四	二
六五	二
六六	二
六七	二
六八	二
六九	二
七〇	二
七一	二
七二	二
七三	二
七四	二
七五	二
七六	二
七七	二
七八	二
七九	二
八〇	二
八一	二
八二	二
八三	二
八四	二
八五	二
八六	二
八七	二
八八	二
八九	二
九〇	二
九一	二
九二	二
九三	二
九四	二
九五	二
九六	二
九七	二
九八	二
九九	二
一〇〇	二

依リ制限ヲ踰越シテ他人ノ權利ヲ害スルコトヲ得サルハ勿論ナルモ是レ前營業者ノ他ニ對スル契約上ノ義務ヲ繼承シタルニ非スシテ制限アル營業ヲ爲スノ權利ヲ繼承シタルニ外ナラサルモノトス

三六

二五八

○手形ニ署名セスシテ内實手形債務ヲ負擔シタル者カ更ニ普通契約ヲ以テ手形面ノ金額ノ支拂ヲ約シタルトキハ諾約者ハ該契約ヨリ生スル債務ヲ履行スヘキ責任ヲ負フモノトス

三七

一九九

○宅地ノ一部ヲ賣渡シタル者カ後日分割ノ上名義書換ノ手續ヲ行フヘキ特約ヲ以テ便宜上其宅地ノ全部ニ付キ賣買登記ヲ了シタル場合ニ於テハ該契約ハ一種ノ無名契約ト云フヲ得ヘキモ敢テ法律ノ禁止セル事項ニ非ス故ニ判決ヲ以テ該契約ノ履行ヲ命セラルルトキハ其判決ハ即チ登記原因ニシテ訴狀中此他ニ登記原因ヲ表示スル必要ナシ

三八

七二七

○當籤若クハ落札ノ前後ニ因リ講員ノ利害著シク懸隔シ早ク當籤又ハ落札シタル者ハ自ラ爲シタル掛込額以上ノ金員ヲ取得スルモ其以上ノ金額ニ對シ債務ヲ負擔スルコトナク又掛込金ハ若干ノ金員ヲ取得シ得ヘキ倅運ヲ有スル抽籤ヲ購フ爲メ講員ニ對シテ之ヲ支拂フモノタルカ如キ場合ニ在リテハ其契約ハ全然射倅ノ性質ヲ有スルモノトス

三九

一五九九

ナリト云フヲ得ス

○如上ノ場合ニ於テ未當籤者又ハ未落札者ハ講會ニ對シ抽籤若クハ入札ノ權利ヲ有スルモ其權利ハ講會ト消長ヲ同ウスヘキハ當然ナリ

四〇

一五九九

○一定ノ人ノ間ニ於テ或契約ヲ爲スニ當リ其責任ノ範圍若クハ態様ヲ定ムル爲メ手形振出人又ハ裏書人ノ責任ヲ以テ之カ標準トスルハ違法ニ非ス

四一

一八一九

○甲者カ乙者ニ對シ第三者ノ建築工事ヲ請負ハシメタル場合ニハ其契約ハ絶對ニ無効ナリト雖モ甲者カ第三者ヲシテ其建築工事ヲ乙者ニ請負ハシムヘキコトヲ乙者ト約定シタル場合ニハ其契約ハ常ニ有效ナリトス故ニ第三者ノ建築工事請負ヲ以テ目的ト爲シタル契約ヲ解釋スルニハ必スヤ其何レノ場合ニ該當スルモノナルヤヲ判定セサルヘカラス

四二

二一五二

○銀行カ金圓預ケ人ニ對シ其印章ヲ押捺セル預金通帳ヲ持參スル者ニ支拂ヲ爲スヘキコト及ヒ該印影ノ盗用ニ係ルモノナルヤ否ヤヲ調査スル義務ナキコトヲ特約スルハ違法ニ非ス

四三

二〇七九

シ能フ限ハ其義務ヲ履行スルニ必要ナル行爲ヲ爲スヘキヲ當然ノ法則ナリトス

○請負人ト注文者トノ間ニ下請負禁止ノ契約アルモ請負人ト第三者間ニ於ケル下請負契約ノ效力ニ何等ノ影響アルモノニ非ス

(同主旨)

契約ハ債權即チ對人關係ナルヲ以テ一般ノ承繼人ノ外當事者以外ノ者ニ其效力チ及ホスコトヲ得サルモノトス

○不法行爲ニ因ル債務ノ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得サルモ當事者ノ契約ヲ以テ之ヲ約スルハ法律ノ禁スル所ニ非ス

(參照)

幼者ノ能力如何ニ從テ契約ノ有效ナルト否トハ裁判所ノ事實ノ判斷ニ由テ定マル未丁年者ノ契約ニ於ケル能力ノ程度ハ本邦未タ一定ノ規定ナキヲ以テ幼者ノ年齢カ普通ノ能力チ有スルニ至リタルヤ否ヤ又其契約カ能力チ有セスシテ爲シタルモノト認ムヘキ事情アルヤ否ヤ等其事實ヲ審査シテ能力ノ有無ヲ判斷スルコソ當然ナレ
契約書ニ錯誤アリテ其書面ノ如ク履行スルコト能ハサル場合ト雖モ當事者ニ於テ他ノ方法ニ由リ履行スルノ意思アルトキハ必スシモ其契約ヲ無効ト爲スチ要セス
契約ハ法律上ノ範圍内ニ於テ自由ニ爲シ得ヘキモノナンハ小作米ノ延滞ニ依リ賣戻契約ヲ當然解除スル旨ノ契約ヲ認メタル判決ハ相當ナリ
單ニ利子ヲ附スルノ契約ハ直ニ契約上ノ利子ヲ支拂フヘキ義務チ生セス

四	四五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三
三七	三九	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八
三七一	二五五	二五八	二〇八	一九八	一	九四	五七		

物件ヲ讓渡スニ付キ其契約當事者カ所有權移轉ノ效力チ或條件ニ繫ラシメ其條件ノ成否未定ノ間貸借ノ效力チ生セシムル合意ハ有效ナリ

幼者ニ後見人設定ナキ場合ニ於テ親戚立會ヒ幼者一家ノ利益ノ爲メニ爲シタル契約ハ幼者ノ爲メ有效ナルモノトス

收益ノ讓渡ハ普通未來ニ於テ收入スヘキモノチ目的ト爲スモノナレハ契約成立以前ノ收入讓渡ニ付テハ特約アルチ要ストノ裁判ハ相當ナリ

部分木仕付ノ權ハ管轄官廳ニ願出テ其許可ヲ得タル上ニ非サレハ他ニ讓渡スコトヲ得ス故ニ之ニ反對ノ合意ハ法律上無効ニシテ何等ノ效果チ生スルコトナシ

將來得ヘキ共有權ノ持分ヲ讓渡スルノ契約ハ一種ノ條件附契約ニシテ法律ノ禁スルモノニ非ス又單ニ希望ノミニ止マルモノニ非ス

期限ニ辨濟チ怠ルトキハ抵當物件チ以テ辨濟ニ充ツヘシトノ契約ハ裁判上有效ノ契約ト認メサル慣例ナリ

第一節 總則

第一款 契約ノ成立

○事實裁判所ハ事情ニ依リ契約ノ眞意ト其契約書ノ明文トカ相符合セサルモノト認ムルトキハ其明文ニ反シテ契約ノ旨趣ヲ解釋スルコトヲ得ヘシ

○行政上ノ漁業取締規則ニ背反スル契約ハ縱令其規則發布以前ノ締結ニ係ルモノト雖モ當然無効ニ歸ス

二九	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二九	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二九	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二九	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二九	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二九	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二九	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二九	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二九	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二九	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇

ニ應スル一部ノ履行ヲ拒ムヲ得ヘキモ他ニ特別ノ理由ナキ限ハ之ヲ以テ全部ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ス

○雙務契約ノ履行ニ付キ相手方ノ行為ヲ要スル場合ニ在テハ現實物件ノ提供ヲ爲ササルモ提供ノ準備ヲ爲シ之ヲ相手方ニ通知シテ辨濟ヲ受クヘキ旨ヲ催告スルトキハ提供アリタルモノト看做スヘキモノトス

○同時履行ノ原則ハ契約當事者ノ一方カ債務ノ履行ヲ爲ササル場合ニ於テ相手方ニ自己ノ債務履行ヲ拒絕シ得ヘキ權利ヲ付與シタルニ過キスシテ當事者雙方ノ義務カ同時ニ履行セラレタリトノ推定ヲ生セシムルモノニ非ス

○雙務契約ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルニ拘ハラス相手方ニ對シテ債務ノ履行ヲ請求スルトキハ相手方ハ契約ヲ解除スルコトナク他ノ一方カ其債務ノ履行ヲ提供スルマテ自己ノ債務ノ履行ヲ拒絕シ得ルモノトス

○雙務契約當事者ノ一方ハ相手方カ前ノ辨濟期ニ屬スル債務ノ履行ヲ提供セサルコトヲ理由トシテ後ノ辨濟期ニ屬スル自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ルモノトス

○雙務契約當事者ノ一方カ相手方ヨリ債務履行ノ請求ヲ受ケタル時同時

三 二 二

三 三 一二

三 一 一四

三 六九三

四 四七

履行ノ抗辯權ヲ行使セスシテ債務ノ不履行ニ因ル損害賠償ノ訴訟提起アリタル後之ヲ行使セントスルハ時期ヲ失シタルモノナリ

○同一ノ雙務契約ヨリ生シタル雙方ノ債務ハ特別ノ意思表示アラサル限り其目的物ノ性質可分タルト不可分タルトヲ問ハス各一箇ノ債務ヲ構成スルニ過キサレハ縱令其履行ハ分割シテ之ヲ爲スヘキ場合ト雖モ依然トシテ一箇ノ債務存在スルニ外ナラス

○買主カ賣主ニ對シテ訴ヲ以テ代金ト引換ニ目的物ノ引渡ヲ爲スヘキコトヲ請求シタルトキハ賣主ハ目的物ヲ引渡スト同時ニ其代金ヲ受領スルコトヲ得ヘク又買主カ代金ヲ支拂ハサルニ於テハ目的物ヲ引渡ササルコトヲ得ヘキヲ以テ其買主ノ請求ハ民法第五百三十三條ノ規定ニ適應セルモノトス

○買主タル原告カ自己ノ債務ハ既ニ之ヲ履行シ了リタルコトヲ主張シ相手方ノ債務履行ノミヲ求ムル場合ニ於テ相手方之ヲ争ヒ裁判所モ亦未タ原告ノ債務ノ履行ナキコトヲ認メタルトキハ原告ニシテ其履行ノ提供ヲ爲スカ又ハ其請求ヲ更メ自己ノ債務ノ履行ト同時ニ相手方ノ債務履行ヲ求ムル旨趣ト爲ササル限ハ之ヲ不當ナリトシテ却下スルヲ相當トス

四 四七

四 四七

四 七三

四 二三四

○雙務契約ニ於ケル當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スニハ自己ノ債務ノ履行ヲ提供スルコトヲ必要トセス從テ提供ト伴ハサル請求ト雖モ請求トシテ效力アルモノトス

四

三九二

○雙務契約當事者ノ一方カ會テ一度履行ノ提供ヲ爲シタルコトアル場合ト雖モ苟モ其提供ニシテ繼續セサル以上ハ相手方ニ於テ同時履行ノ抗辯ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス

四

七三

○雙務契約當事者ノ一方カ訴ヲ以テ單純ニ相手方ノ債務ノ履行ヲ請求シタル場合ニ於テ相手方カ同時履行ノ抗辯ヲ提出シタルトキハ裁判所ハ其請求ヲ全部排斥スルコトヲナク雙方債務ノ履行ヲ引換ニテ相手方ニ其履行ヲ命スヘキモノトス

四

七二

○債權者カ第三者ニ對シテ債權ヲ拋棄スルコトヲ約シ之ニ對シテ第三者カ債務者ノ債務ト同一内容ヲ有スル債務ヲ負擔スルコトヲ約シタルトキハ債權者ハ第三者ニ對シテ債務者ノ爲メニ債權ヲ拋棄スヘキ債務ヲ負擔シ第三者ハ債權者ニ對シテ債務者ノ債務ト同一ノ債務ヲ負擔スル一種ノ雙務契約成立スルニ至ルモノトス

二

六五四

○如上ノ契約ニ於テ債權者カ第三者ニ其履行ヲ求メタルトキハ債權者カ債務者ニ對シテ債權ヲ拋棄スル意思ヲ表示スルカ若クハ債務者カ債權

者ニ對シテ利益享受ノ意思ヲ表示スル迄第三者ハ同時履行ノ抗辯ヲ主張スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ債務者ノ交替ニ因ル更改契約又ハ第三者カ債務辨濟ノ豫約ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス

二

六五四

○賣買ノ當事者雙方カ履行期日ニ提供ヲ爲サスシテ其期日ヲ徒過シタルトキト雖モ各當事者ハ同時履行ノ抗辯權ヲ有シ一方ハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供スル迄ハ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ルヲ以テ當然遲滯ノ責ニ任スルモノニ非ス

二

九三

○賣買ニ於ケル履行期日經過ノ後ハ各當事者ハ何時ニテモ一方ヨリ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シ相手方ニ對シ其債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルモノナルヲ以テ其一方カ相手方ニ對シ履行ヲ請求シ且自己ノ爲スヘキ履行ノ提供ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方カ之ヲ拒ミ履行ヲ爲ササルトキハ遲滯ノ責アルモノトス

二

九三

(參照)

雙務契約一旦成立シテ雙方ノ者既ニ各別ノ義務ヲ負擔シタル以上ハ其義務ハ各自獨立スヘクシテ以後其運命ヲ共ニスヘキモノニ非ス是故ニ義務ノ免脱ヲ得ルニハ各自各別ニ法律上義務消滅ノ原因ニ依ラサルヘカラス乃チ一方(上告人)ノ義務ノ一部タルモノカ契約上ノ引渡期限以前ニ在リテ天災ノ爲メ滅盡シ引渡ノ義務ヲ盡ササルニ非ス之ヲ盡ス能ハサルコトニ至ルトキハ法律上義務消滅ノ原因中所謂履行ノ不能ニ依リ當然其義務ノ免脱ヲ得ヘキモノトス然ル

ニ原院ハ目的物一部ノ滅盡ニ對シ一方(上告人)ニ所有權アルニ執拗シ他ノ一方(被上告人)ニ代金支拂ノ義務ナキモノト判決シタルハ其當ヲ得サルモノナリ
 雙務契約ノ履行ヲ要求スル者ハ先ツ自己ノ義務ヲ履行スルヲ要ス
 雙務契約ハ給付ノ順序ニ付キ特約ナキトキハ當事者雙方ニ於テ同時ニ之ヲ履行スヘキモノトス故ニ未ダ義務ヲ履行セサル一方ハ他ノ一方ニ對シ之ヲ履行ヲ求メ得ヘキモノニ非ス

〔第五百三十四條〕

○民法第五百三十四條物ノ滅失ノ事由カ債務者ノ責ニ歸スヘキトキトハ其滅失カ債務者ノ行爲又ハ過失ト事實上原因結果ノ關係ヲ有シ其行爲又ハ過失ナカリセハ滅失モ亦生セサリシト認メ得ヘキ場合ヲ云フ
 ○請負ニ係ル建築物カ其竣工前天災ニ罹リ破壊シタルトキハ之ニ因テ生シタル損害ハ所有者タル請負人ノ負擔ニ歸スヘキモノナルヲ以テ特別ノ事情ナキ限ハ注文者ニ對シ其工事ニ關スル費用ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

〔第五百三十六條〕

○請負工事ノ履行不能カ注文者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ原因シタルトキハ請負人ハ自己ノ債務ヲ免レタルニ因リテ得タル利益ヲ注文者ニ償還スルコトヲ要スルモ請負ノ報酬ヲ受クル權利ハ之ヲ失フコトナシ

二七	二九	二九	三〇	三五	元
四九四	二	六	一〇	一一	
八	六二		一一	一〇〇	一〇六六

〔第五百三十七條〕

○第三者ノ爲メニスル契約モ亦自己ノ爲メニスル契約ト同シク之ニ因テ生スル債務ニ期限若クハ條件ヲ附著セシメ得ルモノトス
 ○他日成立スヘキ會社ノ爲メニ締結スル契約ハ其會社ノ成立ヲ條件ト爲シタル契約ニ外ナラスシテ斯ル場合ニハ其利益ヲ享受スヘキ第三者ハ其契約當時必スシモ現存スルコトヲ要セス
 ○民法第五百三十七條ハ當事者カ第三者ノ利益ノミノ爲メニスル場合ハ勿論第三者カ契約ヨリ生スル利益ヲ享受セント欲セハ自ら反對給付ヲ爲ササルヘカラサルカ如キ場合ヲ併セテ規定シタル法條ナリトス
 ○民法第五百三十七條ハ契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタル場合ノ規定ニシテ其第三者ハ債務者ニ對シ直接ニ契約ノ目的タル給付ヲ請求スル權利ヲ取得スルニ至ルモノナレハ第三者カ給付ヲ受クヘキ債權關係ハ契約當事者ノ一方ト第三者トノ間ニ於テ未ダ曾テ存在セサルモノナルヲ要ス
 ○民法實施前ニ在リテモ契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタル場合ニ第三者カ債務者ニ對シ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタルトキハ其表意ノ時ヨリ直接ニ該給付ヲ請

三六	三六	三七
二九	二九	四七三

求スルノ權利ヲ取得スルモノトス

(同主旨)

契約當事者ノ一方カ第三者ニ對シ或給付ヲ爲スヘキコトヲ結約シタル場合ニ於テ第三者カ其利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタルトキ債務者ニ對シテ直接ニ其請求ヲ爲シ得ルコトハ民法實施以前ニ於テモ法理トシテ認メラレタルモノトス

契約當事者ノ一方カ第三者ニ對シ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタル場合ニ於テ第三者カ其契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタルトキ債務者ニ對シテ直接ニ給付ヲ請求シ得ルコトハ法理上當然ニシテ特ニ規定ノ存在ヲ要スルモノニ非ス故ニ民法實施前ニ在テモ第三者ヨリ債務者ニ對シ直接ニ給付ヲ請求スルコトヲ得

○民法施行前ニ於テモ第三者ノ利益ノ爲メニスル契約ハ書面ヲ以テ締結セサレハ之ヲ取消スコトヲ得ルトノ規定存在シタルコトナシ

○民法施行前ニ於テモ契約當事者ノ一方カ自己ニ屬スル特定物ニ關スル物權ヲ第三者ニ移轉スヘキコトヲ約シタルトキハ該物權ハ其第三者カ債務者ニ對シ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタル時ニ移轉スルモノニシテ物權移轉ノ爲メニハ第三者ト債務者トノ間ニ於テ更ニ契約ヲ締結スルコトヲ要セサリシモノトス

○契約當事者ノ一方カ第三者ニ對シ既ニ負擔セル債務ヲ相手方ニ引受ケシムヘキコトヲ約シタル場合ノ如キハ民法第五百三十七條ノ規定ニ該

三八

六三

八九

九〇七

九〇七

當セス

○契約ハ當事者ヲ拘束スルニ止マリ第三者ニ其效力ヲ及ホササルヲ原則トスルカ故ニ民法第五百三十七條ノ如キ特別ノ規定アルニ非サレハ第三者ハ其契約ニ基キ直接ニ履行ヲ請求スルコトヲ得ス

○債務者カ他人ヲシテ其債務ヲ引受ケシムヘキコトヲ契約セル場合ニ於テ債權者カ其他人ニ對シ直接ニ債務ノ履行ヲ請求スルニハ自己モ亦契約一般ノ規定ニ從ヒ該契約ノ當事者ニ加入シタル事實ナカルヘカラス

(參照)

合意ハ當事者及ヒ其承繼人ノ間ニ限リ效力ヲ有スルハ普通ノ原則ナリト雖モ變例トシテ第三者ニ效力ヲ及ホスコトアリ

戸主カ家族ノ利益ノ爲メ契約ヲ爲ストキハ家族カ代表セラレタルト同一ノ效力ヲ有シ家族ニ於テ當然其契約ノ利益ヲ享受スルハ我國ノ慣例ナリ

家族ノ利益ノ爲メニ締結シタル戸主ノ契約ニ付テハ家族ニ於テ其權利ヲ訴求スルコトヲ得實家ノ戸主ト他家ニ縁組シタル家族トノ關係ニ付テモ前項ト同様ナリ

契約ノ效力ハ其當事者ニ限ラス第三者ニ及フコトアリ故ニ當事者ノ一方カ第三者ニ對シ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタル場合ニ於テ第三者カ其利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタルトキハ債務者ニ對シ直接ニ其請求ヲ爲スコトヲ得

第三款 契約ノ解除

四二

四二

四二

二九

二九

二九

二九

一〇

一三

○賣主ハ賣買ノ條件ヲ履行セサル買主ニ對シテ賣買ヲ解除スルモ買主ノ轉賣ニ付キ保證人タルトキハ原賣買ノ條件ヲ了知セサル轉得者ニ對シテ轉賣者ノ承繼人ナリトシテ原賣買ノ解除アリタルコトヲ主張スルコトヲ得ス

○違約者ハ違約セサル相手方ニ對シテ契約解除ノ權利ヲ有スルコトナシ
○契約當事者ハ苟モ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル以上ハ相手方ノ不履行ニ因ル解除ノ場合ト約定條件ノ到來ニ因ル解除ノ場合トヲ分タス豫メ有效ニ其解除權ヲ拋棄シ得ルモノトス

○契約ノ解除ハ特別ノ規定若クハ意思表示ナケレハ當然其全部ニ及フモノトス從テ契約ニ因ル債務ヲ一時ニ辨濟スヘキ場合タルト數回ニ分チテ之ヲ辨濟スヘキ場合タルトヲ論セス債權者ハ一部ノ不履行ニ因リテ全部ノ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシ

○契約カ適法ニ解除セラレサル限ハ縱令當事者間ニ解除ノ有無ニ關スル爭アリテ權利拘束ノ存續スル間ト雖モ債權者ハ仍ホ債務者ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

○契約ノ解除ハ契約ノ效力ヲ消滅セシムルモノナルヲ以テ一旦解除シタルトキハ解除以前ノ期間ハ當事者間ニ契約關係存續セシモノト看做ス

ヲ得ス

○賣買契約ノ解除ハ賣買ノ效力ヲ消滅セシムルモノナルヲ以テ縱令買主ニ於テ一旦遲滞ノ責ニ任シタリシニセヨ其後賣買契約ノ解除アリタルトキハ遲滞ノ責ニ因ル損害賠償ヲ爲スノ義務ナキモノトス

○指名債權ノ讓渡ヲ解除シタル場合ニ於テ其債權者ノ轉換スル事實ハ讓渡ノ場合ト異ナラサルヲ以テ債務者ノ承諾アルカ若クハ之ニ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

(同主旨)

指名債權ノ讓渡ニ付キ讓渡人カ之ヲ債務者ニ通知シ若クハ債務者カ之ヲ承諾シタル以上債務者其他ノ第三者ハ讓受人ヲ以テ真正ノ債權者ト認ムヘキコト勿論ナレハ讓渡契約解除ノ場合ニ於テモ亦其實質ヲ債務者ニ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

○如上ノ場合ニ於ケル解除ノ通知ハ一旦債權者ノ地位ニ在リシ債權讓受人之ヲ爲スヘキモノトス

○陸軍兵器本廠ニ對スル銃彈藥拂下ノ契約カ拂下人ノ不履行ニ因リテ解除セラレ保證金全部ノ沒收處分アリタルトキハ其處分ニシテ取消サレ又ハ無効ト爲ラサル限リ拂下人ヨリ他人ニ與ヘタル該金圓取下ノ委任

四四

五六三

四五

一三五

二

二二〇

四五

二五

四五

二五

三五

五

一五二

三七

二二九

三七

一一五

三九

一四七九

四二

四七七

ハ目的物消滅ノ爲メニ終了シタルモノトス

(參照)

契約取消ノ訴訟ハ必スシモ其契約關係者ヲ同時ニ被告ト爲ササルモ成立シヘキモノトス
一旦成立シタル契約ヲ解除セラレタルモノトスルニハ其解約力暗黙ノ合意ニ因ルトキハ其事
實又一方ノ解除權ノ行使ニ因ルトキハ其者ノ意思表示又解除條件ノ到來ニ繫ルトキハ其條件
到來ノ事實アルコトヲ要ス故ニ此等ノ事實又ハ意思表示ノ有無ヲ確メス單ニ當事者カ一年有
餘間契約ノ履行ヲ抛擲シタリト云フ事實ト他ノ事情トヲ以テ暗黙ノ解除アリタルモノト認定
シタル裁判ハ不法ナリ

第五百四
十條

『第五百四十條』

○契約ノ解除權ヲ有スル者カ其權利ヲ實行セントスルニハ相手方ニ向テ
之カ意思表示ヲ爲スヘキコトハ民法施行前ニ於テモ尙ホ今日ト異ナラ
ス

○契約ノ解除ハ意思表示ノミニテ足り訴ヲ以テスルヲ要セサルニ付キ裁
判上契約解除ノ承認ヲ言渡スカ如キハ失當ナリ

○契約解除ノ意思ヲ表示スルニハ明示ノ方法ニテモ又ハ默示ノ方法ニテ
モ之ヲ爲スコトヲ得ヘキニ因リ解除權ヲ有スル者カ契約ノ存續ト相容
レサル請求ノ訴狀ヲ相手方ニ送達シタルトキハ解除ノ效力ヲ生スルモ
ノトス

二	七五
二六	一一
三〇	七
三三	八七
三四	七三
三四	三

○當事者ハ一旦成立シタル契約ヲ解除シ又ハ其契約ヲ變更シ得ルモ一度
解除シタル契約ヲ復活シテ最初ヨリ解除セラレサリシカ如ク爲スコト
ヲ得ス

○契約ニ依リ當事者ノ一方ニ解除權ヲ付與シタル場合ニ於テ相手方カ債
務ヲ履行セサルトキハ敢テ履行ノ催告ヲ爲スコトヲ要セス其相手方ニ
對スル意思表示ヲ以テ直ニ解除權ヲ行使スルコトヲ得ヘシ

○契約解除ノ意思表示ニ付テハ法律上何等ノ方式ヲ要スルモノニ非サレ
ハ訴訟當事者ハ訴狀答辯書若クハ口頭辯論ニ於テ攻撃又ハ防禦ノ方法
トシテ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

(同主旨)

契約解除ノ意思表示ニハ法律上特ニ方式ノ規定ナキニ因リ買戻契約ノ當事者間ニ於テ買戻ヲ
請求スル旨ノ訴狀カ相手方ヘ送達セラレタルトキハ即チ意思表示カ相手方ヘ到達シタルトキ
ナルヲ以テ賣買契約ノ解除ハ此時ニ於テ其效力ヲ生スルモノトス
契約解除ノ意思表示ヲ爲ス方法ニ付テハ法律上一定ノ法式アラサルヲ以テ何等ノ方法ニ依リ
テモ之ヲ爲シ得ヘキモノトス故ニ訴訟提起ト共ニ訴狀ニ依リテ其意思表示ヲ爲ストキハ訴狀
カ相手方ニ送達セラレルト同時ニ其意思表示モ亦相手方ニ到達スルヲ以テ茲ニ解除ノ效力ヲ
發生スヘシ

○月賦辨濟ノ契約ニ於テ債務者カ月賦辨濟ヲ怠リタルトキハ一時ニ殘金

三七	一八三
三七	九四五
三六	一七八
三五	五
三六	五九二

全額ノ辨濟ヲ請求シ得ヘキ旨ノ約定アル場合ニハ縱令債務者カ辨濟ヲ怠ルモ其請求權ヲ行使スルト否トハ債權者ノ自由ナレハ苟モ債權者ニ於テ取消ノ意思ヲ表示セサル限り該契約ハ依然トシテ有效ニ存在スルモノトス

○民法施行前ニ成立シタル買戻契約ニ依リ其施行後解除權ヲ行使スルニハ民法ノ規定ニ據リ相手方ニ對スル意思表示ヲ以テ足ルモノトス
○契約解除ノ意思表示ニ付テハ其原因ヲ明示スルコトヲ要スル旨ノ規定ナキカ故ニ之カ明示ヲ爲ササルモ苟モ解除ノ原因存シ之ニ基キテ解除ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思表示ハ有效ナリトス

(參照)

雙務契約ハ當事者一方ノ義務不履行ノ爲メ當然解除セラレヘキモノニ非ス判決ヲ以テ其解除ヲ認メシムルニ依リ始メテ解除ノ效ヲ生ス
義務ノ懈怠ヲ原因トスル雙務契約ノ解除ハ裁判所ノ判斷ヲ受クルニ非サレハ之ヲ行フ能ハス
解除權ハ當然行ハルヘキモノニ非ス故ニ之ヲ行使セントスルモノハ相手方ニ對シテ其意思ヲ表示セサルヘカラス

(第五百四十一條)

『第五百四十一條』

○手附流ノ契約ト雖モ履行時期ノ徒過ハ契約解除ノ原因タルニ止マリ之カ爲メニ其義務ハ當然消滅スルモノニ非ス

三九	四	元	二九	二九	三二
二五九	二四二	七六	二〇	五二	八七
一〇九					

○民法施行前ヨリ契約上ノ債務ヲ負擔スル者カ其施行ノ後ニ至リテモ尙ホ之ヲ履行セサルトキハ債權者ハ民法施行法第五十三條ノ規定ニ依リ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

○雙務契約ニ於テ當事者ノ一方カ自ラ盡スヘキ債務ノ提供ヲ爲シ相手方ノ債務履行ヲ要求セルニ拘ハラス其相手方カ債務ヲ履行セサルトキハ民法第五百四十一條ノ債務不履行者タルコトヲ免レヌ

○注文者カ民法第五百四十一條ニ依リ請負人ノ債務不履行ヲ理由トシテ解除ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テ請負人ニ債務ノ不履行ヲ責ムヘキ事實ナキトキハ請負契約ハ依然トシテ其效ヲ有スルモノトス又其既ニ無効ニ歸シタル解除ノ意思表示ヲ以テ同第六百四十一條ニ依ル解除ノ效ヲ生シタルモノト爲スヲ得ス

○不動産賣買ノ場合ニ於ケル賣主ノ登記義務ハ所有權移轉ノ義務ニ附隨シテ負ハシメタルモノナレハ賣買ヨリ生シタル債務ナリト云フヘク從テ登記義務ノ不履行ハ民法第五百四十一條ニ當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルトキトアルニ該當スルモノトス

○期間ヲ定メテ契約履行ノ催告ヲ爲スト同時ニ其期間内ニ履行ナキトキハ契約ヲ解除スル旨ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニハ其期間ノ經過ニ因

四三	四二	四	四
四〇三	三六九	五	七〇八

リ契約解除權發生スルト同時ニ契約ハ解除セラレルモノトス

(同主旨)

民法第五百四十一條ニ依ル契約ノ解除ハ必スシモ催告ヲ爲スニ方リ定メタル期間内ニ相手方ノ債務ヲ履行セサルヲ待テ始メテ之ヲ爲シ得ルモノニ非ス其期間内ニ履行セサルコトヲ條件トシテ催告ト共ニ爲シタル解除ノ意思表示モ亦有效ナリ

(參照)

支拂期日ヲ怠リタルトキハ賣戻約定ハ當然無効タルヘシトノ賣戻約定證ヲ所謂條件附ノ契約ト認定シタル上ハ遲滯ニ付スルヲ要セス直ニ解除セラレヘキハ契約ノ性質上當ニ然ルヘキコトナリ

義務不履行ハ損害ノ證明ナキモ契約ノ解除ヲ求ムル理由ト爲ルモノトス

契約者ノ一方カ違約者タル事實確定シ契約ヲ履行スル能ハサル情況アルトキハ他ノ一方ハ契約解除ノ權アルコトハ雙務契約ニ於ケル普通ノ法理ナリトス

雙務契約ハ一方ニ於テ義務ヲ怠リタル事實アルモ他ノ一方ニ於テ何等ノ手續ヲモ盡サス當然其契約ヲ解除シ得ヘキモノニ非ス

賣買契約ニシテ特約ナキ限ハ單ニ其豫定ノ履行期限經過シタル一事ヲ以テ契約ハ當然解除セラレヘキモノニ非ス

債權者カ債務者ニ對シ債務履行ノ猶豫ヲ與ヘタル事跡ナク反テ他ノ事實ニ依リ其反對ノ意思ヲ知り得ラルル場合ニハ必スシモ特ニ其債務者ヲ遲滯ニ付スルヲ要セス直ニ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

賣買契約ハ其債務者ニ對シ履行ノ催告ヲ爲シ之ヲ遲滯ニ付シタル上ニ非サレハ之ヲ解除スル

四五	四三	二七	二六	二六	二九
四六	九二〇	四八二	一五六	三	二
				四	二
				一	二
				七〇	六〇
				七六	三〇

コトヲ得ス

義務ノ不履行ニ因リ契約ノ解除ヲ求ムルニハ相手方ヲ遲滯ニ付スルノ手續ヲ爲スヘキハ裁判上認ムル所ノ慣習ナリト雖モ相手方カ不當ノ主張ヲ爲シ以テ義務ヲ履行セサル事實明確ナル場合ニ於テハ更ニ遲滯ニ付スルノ手續ヲ爲スノ要ナシ

〔第五百四十三條〕

○民法第五百四十三條ハ契約ノ履行カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ絶對ニ不能ト爲リタル場合ヲ規定シタルモノニシテ其履行カ單ニ困難ト爲リタル場合又ハ債務者ニ於テ其債務ヲ履行セサルコトヲ明言シタル場合ヲ規定シタルモノニ非ス

○民法第四百十五條同第五百四十三條ニ所謂履行不能ハ必スシモ物理的不能ヲ意味スルモノニ非ス一般取引ノ觀念ニ從ヒ之ヲ不能視スヘキモノナルトキハ其履行ハ尙ホ不能タルヲ妨ケス

○賣主カ賣買ノ目的物ヲ第三者ニ讓渡シタル場合ニ於テ之ヲ第三者ヨリ回復シ買主ニ移轉スルコトハ取引上ノ通念ニ於テ不能ニ屬スヘキモノトス從テ買主ハ賣主ニ對シ全部賠償ノ請求權及ヒ契約解除權ヲ有スルモノト云ハサルヘカラス

〔第五百四十五條〕

民法 債權 契約 總則 契約ノ解除

二九	二二	三七	二
八	三七	一四五	三七
七			
三			
二六			

○契約ノ解除ハ反對ノ規定若クハ反對ノ意思表示アラサル場合ニ於テハ當事者間ニ未タ曾テ法律關係ノ存セサリシカ如ク看做スヘキモノナレハ當事者ハ互ニ相手方ヲ原狀ニ復セシムルノ義務ヲ負フモノトス

三七

九七

○契約ヲ解除シタルトキハ雙方ノ當事者ハ互ニ其相手方ヲシテ契約締結以前ノ情態ニ復セシムルヲ以テ足ル故ニ特定物ノ買主ハ其原物ヲ返還シ不特定物即チ代替物ノ買主ハ其原物若クハ之ト同種類同品位ノ物ヲ返還スルヲ以テ足ルモノトス

三七

一五三

○買主カ手附金ヲ交付スヘキ債務ヲ負擔セル場合ニ於テ賣主ニ對スル債權ト之ヲ相殺シタルトキハ縱令其買賣契約ハ解除セラレルモ相殺ハ依然其效力ヲ存スヘキモノナレハ買主ハ手附金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得

三六

五五四

○契約當事者ノ一方カ相手方ニ債務不履行ノ責アリトシテ契約ヲ解除シ原狀回復ノ爲メ物ノ返還ヲ訴求シタル場合ニ於テ事實上相手方ニ不履行ノ責ナキカ爲メ解除權發生セサリシトキハ其請求ハ無原因ニ歸スルヲ以テ縱令相手方ノ解除權行使ニ因リ當事者雙方ニ原狀回復ノ權利義務ヲ生シタル場合ト雖モ尙ホ之ヲ棄却セサルヘカラス

四二

二二六

○民法第五百四十五條第一項但書ニ所謂第三者トハ如上ノ場合ニ於テハ特別ナル原因ニ基キ雙務契約ニ於ケル一方ノ債權者ヨリ其受ケタル給

(第五百四十八條)

『第五百四十八條』

付ノ物體ニ付キ或權利ヲ取得シタル者ヲ指稱シ解除セラレタル契約ヲ基礎トシテ生シタル債權ヲ讓受ケタル者ノ如キハ之ニ包含セス(第四百六十六條四二年四九〇頁參照)

四二

四九〇

○權利讓渡ノ契約ヲ履行シタル後ニ至リ當事者カ其讓渡契約ヲ解除スルコトヲ合意スルハ當初ヨリ契約ヲ締結セサリシカ如キ狀態ニ回復セシムルコトヲ目的トスルモノニシテ斯ル法律行為ハ固ヨリ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスルモノニ非サルヲ以テ有效ナリトス

四五

五三九

○契約ノ解除權ヲ有スル者カ自己ノ行為又ハ過失ニ因テ契約ノ目的物ヲ滅失セシメ爲メニ相手方ヲ原狀ニ回復セシムルコトヲ得サルニ至ラシメタルトキハ其解除權ヲ行使スルコトヲ得サルモノトス

三二

二二四

○民法第五百四十八條第一項ノ規定ハ解除權行使ノ結果原狀回復ニ付キ不確實ナル損害賠償ノ方法ニ依ルノ外適當ニ其目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルカ如キ場合ヲ豫想シタルモノナレハ苟モ一般取引ノ觀念ニ於テ原狀回復ノ目的ヲ適當ニ達スルコトヲ得ヘキトキノ如キハ同法條ノ規定ニ依リ解除權ヲ消滅セシムル法意ニ非スト解スヘキモノト

ス

第二節 贈與

○明治三年卒族解放ノ結果廢祿ト爲リタル者ニ對スル賦與金ノ下付ハ畢竟贈與ニ外ナラス

(參照)

忘恩ノ爲メ贈與ヲ廢罷スルハ民法上ノ制裁ニシテ契約上受贈者ノ不履行ニ基キ解除條件ヲ應用スルノ類ニ非ス故ニ法定ノ推定家督相續人ヲモ廢除シ得ヘキ程ノ重大ナル非行カ受贈者ノ身ニ存スルトキニ非サレハ忘恩ノ爲メ其贈與ヲ廢罷スルコトヲ得ス
贈與ノ契約ハ受贈者ノ死亡ニ依リ消滅スヘキモノニ非スシテ之カ相續人ハ其契約履行ヲ要求シ得ヘキ權利ヲ有ス

(第五百四十九條)

『第五百四十九條』

○贈與ハ贈與者ノ財産ヲ無償ニテ相手方ニ與フルモノニシテ其財産ハ現在既ニ存在スルモノナルト將來取得スヘキモノナルトハ問フ所ニ非ス
○當事者カ第三者所有ノ財産ヲ以テ直ニ贈與ノ目的物トスルハ法律ノ認容セサル所ナリ

(第五百五十條)

『第五百五十條』

○民法第五百五十條ハ主トシテ一方ニハ贈與者カ贈與ヲ爲スニ當リテ其意思ノ明確ナルコトヲ期シ他ノ一方ニハ輕忽ニ贈與ヲ爲スコトヲ豫防

セントスルノ旨趣ニ出テタル規定ニシテ當事者雙方ノ意思表示ニ付キ書面ヲ作成スヘキコトヲ命シタルモノニ非ス

○不動産ノ所有權移轉ヲ目的トスル單純贈與ニ付キ民法第五百五十條ノ適用上其履行ノ終リタルヤ否ヤヲ定ムルニハ贈與者ヨリ其目的タル不動産ヲ受贈者ニ引渡シタルヤ否ヤニ著眼スルコトヲ要ス

○如上ノ場合ニ於テ所有權移轉ノ登記ノ如キハ第三者ニ對スル關係上贈與者ハ受贈者ノ請求ニ應シ其手續ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ偶々當事者カ贈與ト同時ニ登記手續ニ付キ約スル所アルモ之カ爲メ登記ハ贈與ノ内容ヲ成シ之ヲ爲スニ非サレハ其履行終ラサルモノト云フヲ得ス

(參照)

贈與ハ其目的物ヲ引渡スニ非サレハ成立セサルモノニ非ス即チ引渡ハ其成立ノ有無ニ毫毛關係ナク唯贈與者ハ引渡前ニ在テハ其贈與ヲ隨意ニ取消シ得ルニ過キササルノミ

(第五百五十三條)

『第五百五十三條』

○負擔附贈與ニ於ケル負擔ノ内容カ永久ニ所有物ノ處分ヲ禁止スルニ在ルトキハ其負擔契約ハ無効ナリト雖モ負擔契約ト贈與契約トハ自ラ別箇ノ法律行爲ニシテ唯彼此主從ノ關係アルニ過キサレハ負擔契約ノ無効ナルカ爲メニ贈與契約ハ無効ト爲ラス

四五	二六	四三	四三	四〇	三六	二六	二六	二元	二元	三三	四五
四七五	五二〇	六七三	六七三	五〇三	一七四二	一七四二	一七四二	一三五	一三五	六三	八三

第三節 賣買

- 或期間中契約者雙方隨意ニ解除ヲ爲シ得ヘキ約款ヲ附シタル賣買契約ヲ其儘存在セシメ其代金支拂期日ヲ該期間終了前ニ短縮スルモ當事者ノ隨意ニシテ不適法ノ契約ニ非ス
- 地所建物ノ所有者カ其物件ヲ各別ニ二人ニ賣渡シタル場合ニ於テ最初ニ之ヲ登記シタル者ハ他ノ者ヨリ優等ノ權利ヲ取得ス
- 係爭山林ノ登記ヲ經サル先買者ハ均シク登記ヲ經サル他ノ買得者ニ對シ其權利ノ確認ヲ求ムルコトヲ得
- 縱令裁判所ノ競賣ニ依リ地所ヲ買受ケタル者ト雖モ實際其被競賣者ニ所有權ナク他ニ第三者ニ對抗スルヲ得ヘキ正當ノ手續ニ依テ之ヲ所有スル者アル場合ニ於テハ其真正ノ所有者ニ對抗スルヲ得ス
- 當事者間ニ於テ債權ヲ擔保シ且抵當權設定ノ便宜上竝ニ差押豫防ノ爲メ不動産ノ賣買ヲ爲シタルトキハ債權擔保ノ爲メニスル所有權移轉ヲ以テ其内容ト爲シタルモノニシテ其他ノモノハ附隨ノ事項トシテ觀察スヘキモノナレハ所謂賣渡抵當即チ信託行爲ノ一種ニ外ナラス
- 賣渡抵當ハ所有權移轉ノ效果ニ制限ヲ加ヘ之ニ依リテ債權擔保ノ目的ヲ達セントスルモノナルカ故ニ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ其所

三三	一	二六
三五	六	五
三五	七	四
四五		六一

有權ハ債權者ニ移轉スルモ當事者間ノ内部關係ニ於テハ移轉スルコトナク債務者ハ依然トシテ所有權ヲ有スルモノトス

○債務者カ其所有財産ノ名義ヲ移轉スルコトニ依リテ之ヲ其債務ノ擔保ニ供シタル事實アリトスルモ其所有權ハ常ニ必スシモ債權者ニ移轉シタルモノト爲スヲ得ス裁判所ハ當事者ノ意思ヲ探究シ職權上該移轉行爲ノ性質ヲ決スルノ責務アルモノトス

○賣買ニ因リ幼者名義ノ不動産ヲ其法定代理人ヨリ取得セントスル場合ニ於テ買主タル者ハ其法定代理權ニ欠缺ナキヤ否其他權原ニ瑕疵ナキヤ否ニ付キ調査ヲ怠ラサルコトハ普通注意ヲ用フル人ノ通常施スヘキ注意ニ屬スルヲ以テ斯ル注意ヲ缺キタル爲メ右法定代理權欠缺ノ事實ヲ知ラサリシハ過失ナリトス

○不動産ノ買主カ登記簿上其賣主カ所有名義ヲ有スルコトヲ認メ登記ヲ經テ其所有權ヲ讓受ケタルトキハ買主ハ一般取引上ノ觀念ニ從ヒテ取引ヲ爲シタルモノニシテ過失ノ責ナキモノトス

(刑)
○甲カ乙ニ辨濟ヲ擔保スル目的ヲ以テ山林ヲ賣渡シ之カ登記ヲ經由シタルトキハ當事者間ニ於ケル内部關係ニ於テハ所有權ノ移轉ナシト雖モ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ所有權ハ受任者タル乙ニ移轉スルヲ

四五	六一
元	八五
二	五九
二	六七

以テ第三者カ右信託ノ事實ヲ了知スルト否トヲ問ハス乙ト第三者トノ
間ノ賣買ハ有效ニシテ之ニ因リ第三者ハ有效ニ所有權ヲ取得スルモノ
トス

(參照)

係爭物ノ賣買ハ法律ノ禁スル所ニ非ス唯其目的物ノ係爭物ナルカ故ニ裁判ノ結局ニ因リテハ
其契約ヲ解除スルニ至ルヘキ條件ヲ含蓄スルモノタルニ過キサルコトハ契約普通ノ法則ナリ
故ニ係爭物タルコトヲ知得シタリト云フヲ以テ其損失ヲ擔當シテ買受ケタリトハ云フコトヲ
得ス

地所假差押ノ登記カ抹消セラレタル後其地所ノ賣買登記ヲ受クルモ假差押登記ノ抹消カ不法
ニ出テ假差押ヲ爲サシメタル債權者之ニ關與セサルトキハ假差押ノ效力ハ依然トシテ失ハス
從テ所有權ハ後ノ賣主ニ移轉スルモノニ非ス

村長カ村會ノ決議ヲ執行スルカ爲メ區有ノ地所ヲ賣却スルトキハ其行爲ハ公務上ニ出ツルト
雖モ其賣買ハ私法上ノ行爲タル性質ヲ失フモノニ非ス村長カ公務ニ依リ一ノ私法上ノ行爲ヲ
爲スモノトス從テ其賣買ノ取消ヲ求ムル訴ハ民事ニ屬シ裁判所構成法第二條ニ依リ司法裁判
所ノ管轄ニ屬スヘキモノトス

凡ソ單純ナル再賣買ノ場合ニハ單ニ期限ヲ空過シタリトテ直ニ權利ヲ失却スルモノニ非スト
雖モ權利ノ失却ニ關シ特約アルモノハ決シテ普通ノ場合ト同一ニ論スルヲ得ス
完全ニ成立シタル不動産讓與ノ如キハ爾後ノ登記手續等ニ不都合アルモノヲ改正セシムルニ
止マリ該讓與ヲ無効トセス

解除條件ヲ附シタル賣買ト單純ノ賣買ニシテ其代金支拂ヲ確實ナラシムル爲メ特約ヲ以テ期
限ニ代金ヲ支拂ハサレハ賣買ヲ解除スル旨ノ制裁ヲ附シタルモノトハ其性質效果共相異ナル
ニ依リ後日其特約ノミヲ合意上取消スハ當事者ノ自由ナリ
鑛業再賣買ノ契約ヲ解除シ先ニ締結セル鑛業賣買契約ニ依リ鑛業特許證ノ名義書換ヲ請求ス
ルニハ特約ナキ限ハ其再賣買ニ付キ受領シタル代金ヲ提供セサルヘカラス

限ニ代金ヲ支拂ハサレハ賣買ヲ解除スル旨ノ制裁ヲ附シタルモノトハ其性質效果共相異ナル
ニ依リ後日其特約ノミヲ合意上取消スハ當事者ノ自由ナリ
鑛業再賣買ノ契約ヲ解除シ先ニ締結セル鑛業賣買契約ニ依リ鑛業特許證ノ名義書換ヲ請求ス
ルニハ特約ナキ限ハ其再賣買ニ付キ受領シタル代金ヲ提供セサルヘカラス

第一款 總則

(第五百五十五條)

『第五百五十五條』

○所有權ヲ有セサル表見相續人ノ爲シタル不動産ノ賣買ハ特ニ法律ノ規
定セル場合ノ外所有權移轉ノ效力ヲ生スルモノニ非ス

○數筆ノ田畑ヲ併合シテ賣買シ其契約證ニ掲ケタル合反別ニ僅ノ過不足
アルモ其目的物カ適合スル以上ハ該契約ヲ有效ト認ムルニ妨ナシ

○代金ハ賣買ヲ組成スル一要素ナルカ故ニ一旦取結ヒタル賣買契約ニ於
テ代金ヲ變更シタルトキハ前契約ハ更改セラレタルモノナリトス

(刑) ○名ハ土地賣買ナルモ其實犯罪ノ手段タルニ於テハ其賣買ハ絕對ニ無効
ニシテ民法上何等ノ效力ヲ生スルモノニ非ス從テ此無効ノ賣買ニ基キ
爲サレタル登記モ亦無効ナリトス

(同主旨)

(刑) 賣買ヲ以テ詐欺取財ノ手段ト爲シタルトキハ其賣買契約ノ成立ナク民法上效力ヲ生スルモノ
ニ非ス

三三	三五	三五	三四	三四	三四	三一
二	五	二	一〇	三	一〇	五
七一	五八	五三	一〇八	六九	三五	二九

二六	二七	二六	二七	二六	二
一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	九

○賣買ニ於テハ賣主及ヒ買主ノ意思ハ通常相手方ノ誰タルヲ問ハス單ニ權利ヲ移轉シ又ハ自己ニ取得シ金錢ヲ與ヘ又ハ之ヲ得ント欲スルニ過キサレハ當事者ノ何人タルヤハ其要素ト爲スニ足ラサルモノトス

○虛偽ノ賣買ハ無効ナルヲ以テ之ニ基ク所有權ノ移轉登記モ亦無効ナリ從テ後日ニ至リ買主カ賣主ニ對シテ所有權ノ移轉登記ヲ爲スカ如キハ不能ノ行爲ヲ目的トスルモノナルヲ以テ斯ル契約ハ何等ノ效力ヲ生セス

(刑) ○未定ノ權利ト雖モ之ヲ賣買ノ目的ト爲スハ法律ノ禁止セサル所ナルヲ以テ鑛物ノ採掘出願中ニ在テ將來之ニ因リ得ヘキ權利ヲ賣買スルモ其賣買ヲ無効ト爲スヘキモノニ非ス

○民法第五百五十五條ハ雷ニ將來ニ財產權ヲ移轉スヘキコトヲ約スル場合ノミナラス當事者ノ一方カ直ニ特定物ノ所有權ヲ相手方ニ移轉スル對價トシテ相手方カ之ニ其代金ヲ支拂フヘキコトヲ約スル場合ノ如キモ廣ク之ニ包含スルモノトス

(參照)

現金ヲ以テ授受スヘキ賣買代價ノ一部ニ對シ授受シタル約束手形ノ支拂期日カ物品授受ノ期日以前ニ係リ受取人ノ他ヘ流通セサル場合ニ在テハ法理上一概ニ現金ヲ授受セシト同視ス

四〇	二	四	二	二
一六七	八五七	二〇五	二	二

ルヲ得サルモノトス

最初ノ賣買ニシテ不正ナル以上ハ縱令幾回轉讓シテ其都度登記ヲ經タリトスルモ其所有權ノ移轉スヘキ道理ナシ

社寺境内ノ立木ハ神官氏子總代ニ於テ自由ニ處分スルヲ得ス必ス相當官廳ノ許可ヲ受ケサルヘカラス若シ其許可ナクシテ之ヲ他ニ賣渡シタル時ハ其賣買ハ無効ナリ

賣買代金ニ代ヘ貸借證書ヲ交付シ後賣買ノ解除ニ因リ賣主カ代金ヲ返済スヘキトキハ其貸借證書ヲ以テ返還スヘキ金圓ニ充當シ得ルモノトス

特定物ヲ目的トスル單純ナル賣買ニシテ特約ナキモノハ契約ノ成立ト同時ニ其所有權ヲ移轉シ代金ノ支拂物件ノ引渡ハ所有權移轉ニ關係ヲ有セス

未必條件附賣買ハ條件ノ成就ト同時ニ賣買契約有效ニ成立シ其物件ノ所有權ヲ移轉ス

賣買代價ハ必スシモ賣買物件ノ實價ト符合スルヲ要セス故ニ其代價カ實價ニ相當セサルモ賣買代價未定ナリト云フヲ得ス

明治十五年八月内務省番外達第一條第二條ハ一丈以上ノ樹木ノ伐採ヲ禁シタルモノニシテ隨テ其樹木ノ處分ヲ禁シタルモノナレハ之ニ適合スル樹木ハ賣買ノ目的物タルヲ得ス

賣買契約ハ合意ノミヲ以テ其目的物ノ所有權ヲ移轉スルノ效力ヲ生ス

賣買目的物ノ引渡ト代金ノ支拂トハ之ヲ異日ニ期スルコトヲ得ヘク而シテ其引渡ノ行爲ハ直ニ代金支拂濟ノ推定ヲ生セス

賣買代價ハ契約ノ際必スシモ之ヲ確定スルヲ要セス故ニ裁判所カ豫定價額ヲ認定シタル上其取引ヲ賣買ナリト判斷シタルハ相當ナリ

差押中ノ物件ヲ目的トシタル二箇ノ賣買存スルトキ其間權利ノ優劣ヲ判スヘキモノニ非スニ

二五	二七	二八	二九	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
五	三	三	四	四	四	四	四	四	四	四
九三	二九八	五〇〇	三〇	三〇	二六	二六	二六	二六	二六	二六

箇ノ賣買共ニ無効ト爲スヘキモノトス
 普通ノ賣買契約ハ單ニ其期日經過ノミヲ以テ契約ヲ無効ニ歸セシムルコトヲ得ス
 賣買契約ハ特約ナキ以上ハ單ニ代金支拂期限ノ經過ノミヲ以テ無効ト爲ルヘキモノニ非ス
 賣買價額ハ賣買當時ノ需用供給ノ程度及ヒ物品ノ新舊等ニ依リ異ナルモノナレハ單ニ其製造
 費ノミヲ以テ標準ト爲スヲ得ス

(刑)

犯罪ニ原因スル地所建物ノ賣買ハ有效ニ成立セス從テ善意ノ買得者ト雖モ其賣買登記ヲ取消
 シ所有名義ヲ眞所有者ニ復歸スヘキモノトス
 賣買ハ當事者ノ一方カ相手方ニ物ノ權利ヲ移轉シ又ハ移轉スルコトヲ約シ相手方ハ賣買代金
 ノ支拂ヲ約シタル事實アルコト要ス故ニ單ニ價額ヲ定メ物ヲ引渡シタル事實アルノミニテハ
 必スシモ之ヲ賣買ナリト云フヲ得ス
 賣主カ一箇ノ物件ヲ時日ヲ隔テテ甲乙二者ニ賣却スルノ契約ヲ爲スモ之カ爲メニ先キニ締結
 セル賣買契約ハ當然消滅スヘキモノニ非ス
 賣買契約ハ代價ノ全部若クハ一部ノ支拂ヲ爲ササル間ハ完成セサルモノトスル慣習若クハ法
 理存セサルモノトス
 不動産ノ賣買ハ其登記ヲ爲ササレハ第三者ニ對抗スルヲ得スト雖モ當事者間ニ在テハ賣買契
 約ノ完結ト同時ニ其目的物ノ所有權ハ買得者ニ移轉ス
 強制競賣ニ付テハ賣主ハ裁判所ノ認ムル最高價格ヲ以テ其目的物ノ所有權ヲ移轉セシムルコ
 トニ付キ豫メ合意シタルモノト看做スヘキハ當然ナリ從テ強制競賣ニ於テモ合意カ所有權移
 轉ノ要素タルコトハ普通賣買ト異ナルコトナシ
 所有權ナキ者ノ爲シタル地所賣買ハ無効ナリ故ニ爾後幾回轉轉シ其都度登記書換テ爲スモ其

二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
九七	九七	九七	九七	九七	九七	九七	九七

(第五百五十六條)

『第五百五十六條』

所有權ハ移轉スルモノニ非ス
 冒認販賣ノ如キ犯罪行為ニ因リテ他人ノ土地ヲ賣買スルモ其賣買ハ固ヨリ無効ニシテ買得者
 ノ意思ノ善惡ト登記ノ有無トハ其效力ニ消長ヲ來サス

- 再賣買ノ豫約ハ法律上之ヲ許スヘキモノトス從テ一旦豫約ヲ爲シタル
 以上ハ法律上時効ニ罹リ若クハ事實上豫約權利者カ明カニ權利ヲ拋棄
 セサル限ハ之ヲ無効視スルコトヲ得ス
- 買戻契約ハ必スヤ賣買契約ト同時ニ爲スコトヲ要ス若シ賣買契約ノ後
 ニ至リテ之ヲ爲ストキハ再賣買ノ豫約ニシテ買戻契約ニ非ス
- 買戻ト再賣買ノ豫約トハ法律上其性質ヲ異ニスルヲ以テ法律上買戻ノ
 條件ヲ具備セサルニ於テハ當事者ノ意思ニ拘ハラズ再賣買ノ豫約ト看
 做スコトヲ得

○賣買ノ一方ノ豫約ニ基キ權利者ヨリ相手方ニ對シテ賣買ノ締結ヲ請求
 スルコトハ所謂方式ニ屬スルモノナレハ其請求當時ノ法律ニ從フヘキ
 モノトス

○期間ヲ定メテ賣渡ノ豫約ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方カ訴ニ依リ賣買
 完結ノ意思ヲ表示スルニハ期間内ニ訴狀ノ送達アリシコトヲ必要トス

三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
四	四	四	四	四	四	四	四
一	一	一	一	一	一	一	一
七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三
九三	九三	九三	九三	九三	九三	九三	九三

(參照)

賣買豫約ヲ爲シタル後賣渡豫約人カ買受豫約ニ對スル負債ヲ以テ代金ニ充當シ賣買ヲ結了シタル以上ハ豫約ト云フコトヲ得ス
單純ノ賣買ヲ遂ケタル後買戻契約ヲ取結フモ再賣買ノ豫約ニ過キス
一旦賣渡シタル地所ニ付キ受戻金額並ニ期日ヲ定メ新ニ成立シタル一ノ和解契約ハ地所ノ再賣買ヲ約シタルモノニシテ未必條件附ノ賣買ニ非ス故ニ其買戻人ヲ遲滯ニ付シタル上ニ非サレハ期限ノ經過ノミヲ以テ直ニ買戻權能ヲ失ヒタルモノト爲スヘカラス
手附金ヲ授受シ賣買ノ條件及ヒ期日ヲ約シタル場合之ヲ賣買ノ豫約ト認ムヘキ一般ノ慣習ナシ故ニ斯ル場合ニ於テ當事者ノ意思何レニ存スルヤヲ認定スルハ事實審官ノ職權ニ屬ス

(第五百五十七條)

『第五百五十七條』

○金錢以外ノ物件ヲ手附トシテ授受シタル場合ニハ必ス遲滯ニ付シタル後ニ非サレハ手附流ヲ認ムルヲ得ストノ規定ナシ

(參照)

手附金ノ性質豫約賣買ノ擔保トシテ交付セシモノニ非スシテ即時ニ完成セシ賣買價額ノ一部ニ充當セシモノナルコト明カナルトキハ明約アルニ非サレハ買主ニ於テ賣買ノ履行ヲ怠ルコトアルモ直ニ過怠ノ損失トシテ其責任ヲ買主ニ歸セシムルコトヲ得ス

第二款 賣買ノ效力

○買主カ既ニ給付ヲ受ケタル契約ノ目的物ヲ返却シ代金ノ返還ヲ求ムルカ如キハ契約ヲ爲ササル以前ノ原狀ニ復セシムルモノナルカ故ニ契約

ノ解除ヲ爲サスシテ損害賠償ニ因ル代金ノ返還及ヒ目的物返却ノ爲メニ要シタル費用ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

○數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ其數量ヲ超過セル場合ニ付テハ民法上特ニ規定スル所ナケレハ契約ノ一般ノ原則ヲ適用シ賣主ニ代金増額ノ請求權アリヤ否ヤノ問題ハ一ニ當事者ノ意思ヲ解釋シテ之ヲ決定スヘキモノトス

(參照)

賣買ニ於テ別ニ契約ナキトキハ買主ハ其目的物ノ引渡ヲ受ケルト同時ニ賣主ニ對シ代金辨濟ノ義務ヲ負擔ス又代金辨濟ノ不可分のナルコトヲ主張スル權利アルモノハ賣主ニシテ買主ニ非ス
土地賣買ニ付キ地圖及ヒ境界取調書ノ交付ハ賣主ニ於テ當然負擔スヘキ義務ニ非ス

(第五百六十條)

『第五百六十條』

○他人ノ物件ヲ自己ノ所有物ナリト信シ若クハ他人ノ物件ナルコトヲ知リテ第三者ニ賣渡シタルトキハ賣渡人ハ其物件ヲ他人ヨリ買受ケテ買受人ニ引渡スノ義務アリ

○町村カ町村會ノ議決ヲ經テ他人ノ所有物ヲ賣買ノ目的ト爲シ之ヲ賣渡スヘキコトヲ結約シタルトキト雖モ契約履行ノ責任ヲ免ルルコトヲ得

二四	一
二四	一
二八	三九
三〇	二五
三四	五二
三五	九〇

三六	一三六
四一	二九五
二九	一六
二九	一九
二〇	一四九
三八	二

ス

○他人ノ所有物ヲ以テ賣買ノ目的物ト爲シタル場合ニ其賣買無効ニ非サルコトハ民法施行前ト雖モ是認セラレタル法理ナリ

○不動産ノ賣買カ當事者一方ノ冒認罪ニ原因シタル場合ト雖モ當事者雙方ノ間ニ財産權ヲ移轉セシムルコトヲ以テ目的トスルトキハ當然其效力ヲ生セサルモノニ非ス

○他人ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ縱令其賣買カ犯罪ノ手段ニ供セラルルモ當事者間ノ權利義務ハ一ニ賣買ナル法律行爲ノ效力ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス

(參照)

他人ノ物ノ賣買ハ無効ナリ
他人ノ權利ヲ目的トスル賣買ニ付テハ賣主ハ其權利ヲ取得シ之ヲ買主ニ移轉セシムルノ義務ヲ負フモノナルニ依リ他人ノ權利ヲ目的ト爲シタル賣買ハ其成立上全然無効ノ契約ナリト認メタル判決ハ不當ナリ

〔第五百六十四條〕

○民法第五百六十四條ハ買主カ代金減額ノ請求又ハ契約ノ解除ヲ爲シ併セテ損害賠償ヲ請求スル場合ハ勿論單獨ニ損害賠償ノ請求ヲ爲ス場合

ヲモ包含セルモノトス

〔第五百六十五條〕

○賣買契約締結ノ後賣主ヨリ送付シタル物件ノ一部カ契約ノ目的物トシテ不適當ナル場合ニハ買主ハ一面ニ於テ更ニ契約ニ適スル物ノ發送ヲ請求シ他ノ一面ニ於テ不適當ナル物ヲ返却シ損害賠償トシテ其返却費用ヲ請求シ得ヘキハ勿論若シ賣主カ更ニ其不足分ヲ發送セサルトキハ買主ハ契約ヲ解除スルコトナク不完全履行トシテ該不足分ノ代金減額即チ其返還ヲ請求シ得ルモノトス

○民法第五百六十五條ハ賣買ノ目的物ニ一部ノ欠缺アル場合ニ於ケル賣主ノ擔保責任ヲ定メタルモノニ過キサレハ數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ其數量ヲ超過スル場合ニハ賣主ニ代金増額ノ請求權アルコトヲ包含スルノ旨趣ニ非ス

〔第五百七十六條〕

○民法第五百七十六條ハ買主カ其買受ケタル財産權ノ全部又ハ一部ヲ追奪セラルヘキ虞アルニ拘ハラス賣主カ相當ノ擔保ヲ供セサル場合ニ買主ヲシテ其危險ノ限度ニ應シ代金ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ拒絕スルコトヲ得セシメタル規定ナレハ買主ノ此權利ハ賣主ノ代金支拂請求ニ對

三三	三八	二
三四	二〇	二八
三六		一三四
四〇		四〇〇
二四	一	二二八
三一		三五

三六		一三一
三六		一三三
四二		二九五

スル抗辯權ニシテ其請求ヲ竣テ始メテ行使シ得ヘキモノトス

○不動産ノ買主カ目的物ニ抵當權ノ設定アルコトヲ了知シテ之ヲ買受ケタル事實ト追奪擔保ノ權利ヲ留保スルコトトハ互ニ相容レサルモノニ非ス

三七
三九
一一三
五二五

(參照)

買主カ買受物ノ追奪セラレントスル訴訟アル場合ニ於テ賣主其訴訟ニ參加シ買主ノ爲メ防禦ノ方法ヲ提出シ賣買代金返還ノ請求ニ應セサルコトヲ得ルナリ廻テ其理由果シテ正當ナレハ代金返還ノ義務ナシ然ラサレハ損害賠償ノ責ニ當ラサルヘカラス抑追奪擔保ノ義務ハ賣渡シタル物カ追奪セラレタルト同時ニ生スト雖モ賣主カ買主ニ賣買代金ニ相當スル金額ヲ支拂フニ依リ賣買ハ解除スルモノニ非ス之カ損害ヲ賠償スルニ過キサルノミ

第三款 買戻

○買戻約款附ノ賣買ニ於テ買主ハ解除條件附ノ所有權ヲ取得シ賣主ハ停止條件附ノ所有權ヲ保有スルモノト看做スヘキ時代ニ在テハ賣主ヨリ其權利ヲ他人ニ讓與スルニ當リ買主ニ之ヲ通知スルニ及ハス又買主カ其權利ヲ他人ニ讓與スルニモ賣主ノ承諾ヲ要セス其讓與ハ孰レモ唯權利移轉ノ登記ヲ爲スノミニテ何人ニ對シテモ有效ニ成立ス

○賣買ノ目的物カ全然消滅シタルカ又ハ其他絶對ニ賣買ノ目的物タルコト能ハサルニ至リタル場合ニハ其物件賣戻ノ約定書ヲ交付スルノ義務

三三
三四
三六

ヲ免ルルト雖モ其物件ヲ他人ニ賣渡シ現時之ヲ所有セザルトノ事ハ未タ以テ其義務ヲ免ルルノ理由トスルニ足ラス

三三
三四
三六

○現行民法ニ於テハ買戻權ハ一種ノ債權ナリ然レトモ買戻權ヲ有スル者ハ不動産ノ轉得者ニ對シ直ニ買戻權ヲ行フコトヲ得

三三
三二
三三

○買戻約款附賣買ハ唯一不可分ナル事實關係ニ非サルヲ以テ事實裁判所ハ賣買契約ト買戻契約トヲ分離シ賣買ノ事實ヲ肯定シ買戻約款附帶ノ事實ヲ否定スルモ當事者ノ主張ニ反シテ事實ヲ確定シタルモノト云フヲ得ス

四五
五四三

(參照)

數筆ノ地所ニ付キ買戻契約履行ノ訴アリタルトキ單ニ一筆ノ土地ニ對スル契約ノミヲ有效トシ他ノ地所ニ對スル契約ヲ無効ナリト判決シタルトキ其有效ナル買戻契約ヲ履行スル爲メ辨濟スヘキ代金額ハ當事者協議ヲ以テ定ムヘキモノニシテ該判決ニ之ヲ指定セザルハ不當ニ非ス

二四
一一
二二八

地所買戻權ヲ賣買スルモ賣戻ノ義務ヲ有スル者ハ何等利害ノ關係ナケレハ買戻權ヲ賣買スルニ際シ特ニ賣戻ノ義務ヲ有スル者ノ承諾ヲ求ムルヲ要セス而シテ「合意ノ效力」ハ第三者ニ及ハスレトノ法則ハ一ノ合意ヲ以テ故ナク其合意ニ關與セサル第三者ニ義務ヲ負擔セシメ又ハ其權利ヲ侵害スルヲ得ストノ趣意ニシテ何等利害ノ關係ナキ場合ニ適用スヘキモノニ非ス

土地買戻ノ約款ハ土地收用法ニ依リ其土地ヲ收用セラレルト同時ニ消滅シ隨テ買戻人ハ收用

二七
五九

代價ノ多寡ニ付キ容喙スルノ權利ナキモノトス
 買戻契約期限内買戻ニ付キ出訴シタルモ形式上不適法トシテ却下セラレタル者ハ買戻期限經過後ト雖モ更ニ出訴スルコトヲ得ヘキモノトス
 買戻契約ノ附シアル地所カ他ニ賣却サレタルトキ買戻權利者ハ之ヲ知ラス其契約期間内賣渡人ニ對シ買戻ヲ出訴シタルトキハ地所買取人ニ對シテモ期間ノ經過ヲ中斷スルノ效アリ
 地所賣戻ノ契約アルヲ認知シ之ヲ買受ケタル者ハ其約務ニ對スル特定承繼人ナルニ依リ其契約ヲ履行スルノ責アリ
 地所ノ賣主ニ於テ其地所ニ付キ第三者ニ對シ買戻權利有スルトキ買主カ其地所ヲ買戻シ自ラ其地所ノ所有主タランコトノ目的ヲ以テ賣主ニ代リ第三者ニ對シ買戻權利主張スル者ハ賣買契約上ノ買主權ニ因リテ動作スルモノニシテ共同擔保權ヲ原因トスル所ノ債權者ノ地位ニ立ツモノニ非ス故ニ法理上代位訴訟ヲ提起スルノ資格ナシ
 買戻條件附賣買ニシテ其條件ノ履行ヲ一定ノ期間ニ繋ラシメタルモノハ其期間相手方ニ對シ履行ヲ求メタルヤ否ニ因リ條件ノ成否ヲ決スヘキモノナリ故ニ期間内ニ履行ヲ求ムル意思アリシモノト認メ得ヘキ場合ニ於テハ期限後ト雖モ相當ノ準備時間内ニ出訴スレハ條件カ成就スルモノノ如ク斷定セル裁判ハ不法ナリ

〔第五百七十九條〕

○買戻ハ解除權ヲ留保シタル一種ノ賣買契約ニ外ナラス從テ買戻契約ニ因ル損害賠償ハ其賣買ノ解除セラレタルニ拘ハラズ買主ノ行爲ニ因リ直接履行ヲ爲スコト能ハサル場合ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

二八	二	四二
二九	五	六七
三〇	四	一〇三
三一	一	三八
三二	二	五一
三三	一	四二

○買戻契約ハ必スヤ賣買契約ト同時ニ爲スコトヲ要ス若シ賣買契約ノ後ニ至リテ之ヲ爲スコトキハ再賣買ノ豫約ニシテ買戻契約ニ非ス

〔同主旨〕

買戻ハ賣買契約ノ解除條件トシテ約スルモノナレハ賣買契約ト同時ニ之ヲ爲ササルヲ得ス故ニ賣買契約後ニ於テハ其性質上買戻ノ豫約ナルモノ存スル理ナシ

○買戻ト再賣買ノ豫約トハ法律上其性質ヲ異ニスルヲ以テ法律上買戻ノ條件ヲ具備セサルニ於テハ當事者ノ意思ニ拘ハラズ再賣買ノ豫約ト看做スコトヲ得

○解除條件ノ成就セラレサル以前豫メ代金ノ提供ヲ爲スハ買戻ナル契約ノ性質上固有ノ必要條件ニ非ス

○買戻ノ契約アル物件ヲ買主ニ於テ第三者ニ轉賣シタル場合ニ買戻權利者カ買主ニ對シ買戻ノ約定履行ヲ請求セスシテ直ニ損害要償ノ請求ヲ爲スハ不法ナリ

○買戻條件附賣買ニ付キ買主カ期限内ニ賣主ヨリ買戻代金ノ内入ヲ異議ナク受領シタルトキハ殘金拂入ノ猶豫ヲ與ヘ買戻ノ意思表示ヲ承諾シタルモノト看做スヘキモノトス

○民法施行前ニ成立セル買戻契約履行ノ場合ニ於テハ特ニ豫メ解除ノ意

三三	九	二六
三三	二	七〇
三四	三	四四
三四	七	四一
三四	一〇	三六

思表示ヲ爲スヲ要セス買戻請求ノ訴狀ヲ相手方ニ送達シタルトキハ此時ニ於テ解除ノ意思ハ表示セラレタルモノト看做スヘキモノトス

○民法第五百七十九條ニ於テ買戻ノ特約ニ基キ賣買契約ノ解除ヲ爲シ得ル者ヲ不動産ノ賣主ニ限リタルハ動産ニ關シテハ買戻ノ約款カ第三者ニ對シ占有ノ效力ニ依リテ不動産ニ關スルモノト同一ノ效果ヲ收メ難キニ由ルモノニシテ動産ノ買戻ヲ全然禁止シ當事者間ニ於テモ其契約ヲ無効ナラシムルノ旨趣ニ非ス

○不動産ノ買戻ハ民法施行以前ニ於テモ賣主カ賣買契約ト同時ニ其解除權ヲ留保セルモノニ外ナラス

(同主旨)

民法施行前ト雖モ不動産ノ買戻ノ特約ハ賣買ノ時之ヲ締結シ且第三者ニ對シテハ賣買ノ登記ト同時ニ其特約ヲ登記シタル場合ニ非サレハ法律上所謂買戻ニ非ス

○民法施行以前ニ於テハ不動産ノ賣主カ買戻權ヲ行使スルニハ賣買代金ヲ返還スルヲ以テ足り契約費用等ヲ返還スルノ義務ナキヲ通例トス

(同主旨)

民法實施前ニ於ケル買戻ニ付テハ特種ノ事情ニ依リ特ニ契約ヲ爲シタルカ又ハ慣習アル場合ノ外賣主ハ賣買代金ヲ返還スルヲ以テ足り契約費用等ヲ返還スルノ義務ナシ

○買戻權ハ一ノ債權ニシテ財産權ナルヲ以テ之ヲ他人ニ讓渡シ得ヘキハ

當然ナリ

(同主旨)

民法第五百七十九條ニ規定セル買戻ハ不動産ノ賣主カ賣買ヲ爲スニ當リ買主ヨリ支拂ヒタル代金及ヒ契約ノ費用ヲ返還スルニ於テハ賣買ヲ解除シ不動産ヲ買戻シ得ヘキコトヲ特約スルモノニシテ此賣主ノ權利ハ債權ニ外ナラサレハ債權讓渡ノ規定ニ從ヒ之ヲ讓渡シ得ヘキハ當然ナリ

○不動産ノ賣主ヨリ其買戻權ヲ讓受ケタル者ハ即チ該賣主ノ承繼人ナルヲ以テ賣主其人ト看做スヘキモノトス故ニ其讓受人ニ於テ買戻權ヲ行使シ賣買契約ヲ解除シタルトキハ其結果トシテ不動産ノ所有權ハ當然讓受人ニ歸屬スルモノトス

○民法施行ノ前後ヲ問ハス買戻契約ニ於テハ賣主ハ買主カ拂ヒタル賣買代金及ヒ契約ノ費用ヲ返還スルコトヲ約スルヲ通例トスレトモ賣買代金ノ外其利子ヲ併セテ返還スルコトヲ特約シ得サルモノニ非ス

(參照)

受戻條件附賣買ハ賣買契約ノ當時其一條件トシテ受戻ヲ約スルニ非サレハ成立セス
賣買契約ニ買戻ノ約款ヲ附スルトキ買戻權能ヲ行使スレハ舊賣買契約ハ廢滅シ賣渡物ハ曾テ賣主ヲ離レサルモノト看做スモノナレハ賣買ニ係ル物ノ價額カ買戻以前ニ減少スルモ買主ノ過失ニ原因セサレハ其損失ハ買戻權能ヲ行フ者ニ於テ之ヲ負擔セサルヘカラス

三五	六	三九
四二	八一	四一
三七	四五	四三
四	四一	四二
三	四二	四五

四二	八五九
三六	三四四
四	八五九
二	七四二
二四	二二八
二六	三八二

地所賣買ト同時ニ買戻ノ契約ヲ併セテ爲スモノハ未條件附ノ賣買ナリ此種ノ契約ハ其期間ヲ過クレハ直ニ買戻ノ機能ヲ失フト雖モ一旦賣買ヲ結了シ爾後更ニ買戻契約ヲ爲スモノハ再賣買ニシテ未條件附ノ賣買ニ非ス而シテ再賣買ニ係ルモノハ買戻人ヲシテ遲滯ニ付シタル上ニ非サレハ期限ノ經過ノミナ以テ買戻機能ヲ失ヘルモノト爲スヲ得ス

買戻契約ハ賣買契約ト同時ニ締結セサルヘカラス
買戻契約ハ賣買證書中ニ記載スルモ又ハ別證書ヲ以テ締結スルモ當事者間ニ在テハ買戻契約タル效力ヲ有ス

地所買戻約款ニ解除條件ヲ附シタル以上ハ其條件成就ニ因リ賣主ハ當然買戻權ヲ喪失スヘシ地所買戻約定ヲ當初期限ヲ定メテ締結シ其期限ニ至リ元ノ賣買代價ニ幾割カノ増金ヲ爲シ之カ延期ヲ爲スカ如キハ從來其事例アリ且法律ノ制限スル所ニ非ス

無期間ノ地所買戻ノ特約ニ對シ後日其買戻期間ヲ定メ若クハ其代金支拂期限ヲ定ムルモ之ヲ以テ再賣買ト看做スヘキモノニ非ス

〔第五百八十一條〕

○期間ヲ定メサル買戻契約ト雖モ公ノ秩序ニ反スルモノニ非ス

○民法施行前ニ於テハ買戻期限ニ付キ法律上何等ノ規定ナク期限後何時ニテモ買戻シ得ヘシトノ條件ヲ以テ自由ニ賣買ヲ爲シ來レル慣習アリテ裁判上ニ於テモ一般ニ之ヲ認許セリ

(同主旨)

民法實施前ノ買戻契約ニ付キテハ買戻期間ニ付キ民法第五百八十一條ノ如キ制限ノ規定ナカリ

二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五
五	五	一五	一〇	一〇	四	一	一	三
二二	二四	一四	六	六	六	五	五	五

シテ以テ當事者カ何時ニテモ買戻シ得ヘキ旨ヲ約シタルトキハ其契約ハ法律上有效ナリト云ハサルヘカラス

○民法實施前ニ於テハ最初定メタル買戻期間ヲ後ニ至リ變更スルハ裁判上認めラレタル慣例ニシテ其變更スル期間ニ付テモ別ニ制限ナシ
○民法第五百八十一條第一項ハ當事者ノ定ムヘキ買戻期間ノ最長期ヲ限定シタルモノニシテ買戻期間ハ法定期間ニ非サレハ民法施行法第三十四條ヲ適用スルヲ得ス

〔第五百八十一條〕

○民法施行前ニ在テハ買戻ノ登記アルカ又ハ轉得者ニ於テ買戻條件附賣買ナルコトヲ知テ之ヲ買受ケタル場合ニハ直ニ轉得者ニ依リ買戻ヲ爲スコトヲ得セシメタルモノトス

(同主旨)

民法施行前ニ在テハ買戻契約ヲ登記シタル者ハ轉得者ニ對シ直ニ買戻權ヲ行フコトヲ得ルヲ以テ一般ノ慣例トセリ

○買戻約款ヲ附シ土地ヲ賣買スルニ當リ該特約ヲ登記シタルトキハ爾後買主ヨリ其土地ヲ買受ケタル者ハ特定承繼人トシテ買戻義務者ト爲ルモノトス從テ民法第四百六十七條第二項ニ所謂第三者ニ該當セス

三四	三五	三六	三三	三五	三六	三三	三五	三六
三七	一六	一六	二	三	二	二	二	二
一九	一九	一九	二	五	二	二	二	二

○買主カ買戻ノ特約ヲ登記セル不動産ヲ第三者ニ轉賣シタル場合ニ於テハ最初ノ不動産賣主カ買戻ヲ爲サント欲セハ其第三者ニ對シテ代金等ヲ提供シ賣買解除ノ意思ヲ表示セサルヘカラス從テ既ニ權利關係ヲ離レタル最初ノ買主ニ對シテ其意思ヲ表示スルモ何等ノ效力ヲ生セス

(參照)

地所買戻ノ約款アルモ之カ登記ノ手續ヲ爲スニ非サレハ第三者タル善意ノ買得者ニ對抗スルヲ得ス

〔第五百八十三條〕

○民法實施前ニ在テハ地所買戻ノ請求ヲ爲スニ現實其買戻代金ヲ提供シ又ハ之ヲ供託セシムヘキ規定ナキヲ以テ當時ノ契約ニ依リ買戻權ヲ有スル者ハ此等ノ手續ヲ爲サスシテ買戻ノ請求ヲ爲スヲ得ヘキモノトス

(同主旨)

民法施行以前ニ締結セラレタル地所建家買戻契約ニ付テハ民法施行法ニ民法ノ規定ヲ適用スヘキ法文ナキヲ以テ同法ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス而シテ民法施行以前ニ在テハ買戻ノ請求ヲ爲スニ當リ代金ノ提供ヲ要ストノ法規ナケレハ其代金ヲ提供セザリントテ買戻權ヲ喪失スルモノニ非ス

民法施行以前ニ於テハ買戻條件附契約ニ付キ其買戻期限内ニ代金ヲ提供スルニ非サレハ買戻權ヲ喪失スル如キ規定ナキヲ以テ其當時ノ契約ニ付テハ民法第五百八十三條ノ規定ヲ適用シ

得ヘカラサルモノトス

○民法施行前ニ於テハ民法第五百八十三條ノ如キ規定ナク單ニ買戻ヲ爲スヘキ意思ヲ表示シ履行ノ場合ニ至リ代金ト引換ニ買戻ヲ遂行スル慣習ニシテ裁判上ニ於テモ之ヲ認許セリ

○不動産ノ賣主ニ於テ代金ヲ提供シ賣買解除ノ意思表示ヲ爲スモ買主ニ於テ之ニ應シ所有名義書換等完全ニ所有權ヲ移轉スルノ手續ヲ履行セサルトキハ賣主ハ其代金等ヲ買主ニ交付スルノ義務ナシ

○不動産ノ賣主カ其賣買解除ノ意思表示ヲ爲スニハ之ト同時ニ其代金及ヒ契約費用ヲ現實ニ提供スルノ義務アリ

○不動産ノ買主カ其物件ニ付キ費用ヲ出タシタル場合ニ於テハ賣主ハ買戻ノ際之ヲ償還スルヲ以テ足り當事者間ニ特約ナキトキハ代金及ヒ契約費用ノ如ク契約期間内ニ之ヲ提供セサルモ其買戻權ヲ失フヘキモノニ非ス

(參照)

買戻契約ノ期限後ニ買戻代金ノ幾部ヲ受領シタル事實アルニ於テハ之ニ依リ買戻期間ヲ延期シタルモノナリトノ推定ヲ下スコトヲ得ヘシ

地所買戻ヲ請求スル者カ其契約ニ基キ期限内ニ和解申請ヲ爲シタルトキハ公然督促ヲ爲スノ地位ニ立チタルモノナレハ必スシモ代金ノ提供ヲ要セス一應ノ推測上對手者ニ違約ノ責ヲ負

三七	四三	三五	三五	三五	三三
		四	四	三	一〇
八四	四一六	八三	八三	五	六

三三	三九	二九	三九
七	一	一	一〇六
一	一	一	一〇六

ハシムヘキモノトス
 地所買戻ノ權利ヲ有スル者カ期間ニ至リ其買戻ヲ請求シ代金ノ收受ヲ拒絶セラレタルトキ即時之カ供託ヲ爲ササルモ失權ノ效力ヲ來スモノニ非ス
 地所買戻ノ請求ヲ爲スニハ買戻權能者ニ於テ現ニ其代金ヲ支拂フヘシト陳述スル上ハ必スシモ代金提供ニ付キ形式上ノ手續ヲ爲ササルモ其權能ヲ喪失スルモノニ非ス
 實物提供ヲ買戻契約ノ條件ト爲シ特約シタル場合ニ於テハ其不履行ニ因リ當然買戻權ノ喪失ヲ來スコトアルモ普通ノ買戻契約ニ付テハ豫定期間内ニ代金ノ提供ヲ要スル法規ナシ故ニ單ニ其代金提供ナキ爲メ買戻權ヲ喪失スヘキ道理ナキモノトス〔同一判例二九年一〇卷一三三頁、三〇年二卷六七頁〕
 受戻權ノ行使ハ約定期間内ニ賣買ノ代金ヲ買主ニ返還シ其賣買ノ地所全部受戻ノ手續ヲ爲ササルヘカラス故ニ無代價讓受又ハ一部受戻ノ申込ヲ爲シタルニ過キサルトキ之ヲ以テ期間内適法ニ受戻權ヲ行使シタルモノナリト斷定シタル裁判ハ不法ナリ

第五節 消費貸借

- 身元保證ニ供スル目的ヲ以テ爲シタル無記名整理公債證書ノ貸借ハ消費貸借ニシテ其所有權ハ公債證書ノ交付ト共ニ貸主ヨリ借主ニ移轉スルモノトス
- 無記名公債證書ヲ貸借シタル場合ニ於テ其法律行爲カ消費貸借ト爲ルヘキヤ否ヤハ當事者ノ意思ニ依リテ定マリ其意思如何ハ裁判所之ヲ認定スヘキモノトス

二八	四	一〇〇
二九	九	二一九
二九	一〇	二四二
三二	二	八
三二	五	一七
三三	三	六九
三四	三	三三

- 頼母子講ニ於テ當籤者カ講金ヲ領收スルヤ異日掛戻ヲ爲ス義務ヲ負フ者ナレハ其辨濟方法ハ普通ノ消費貸借ト異ナルコトハ勿論ナリト雖モ其權利關係ノ性質ハ消費貸借ナルヲ以テ通例トス
- 頼母子講ノ當籤ニ基因スル消費貸借ノ權利關係ハ債務者タル當籤者ト未當籤者タル他ノ講員トノ間ニ直接ニ成立スルヤ或ハ其關係ハ當籤者ト會主若クハ世話人等トノ間ニ成立シ而シテ會主若クハ世話人等ト未當籤者トノ間ニハ別ニ權利關係ノ成立スルヤハ當事者間ノ契約ニ依リテ定マルヘキモノニシテ法理上一定シタルモノアルコトナシ
- 甲者カ乙者ニ若干ノ金圓ヲ貸付シ其元利金ノ辨濟ヲ受クル爲メ乙者ノ藝妓營業ヨリ生スル收入金ノ全部ヲ取得シ之ト同時ニ乙者ノ營業ニ要スル税金其他一切ノ費用ヲ負擔スヘキコトヲ約定シタルトキハ其契約ハ消費貸借ヲ包含セル一種ノ無名契約ナリトス
- 金錢ノ貸借ハ商業ノ爲メニスルカ又ハ其貸借ヲ營業トスル爲メ他ヨリ金錢ノ借入ヲ爲スカ如キ場合ニ在ラサレハ之ヲ民法行爲ト認ムヘキハ當然ナリ
- 競落ノ方法ニ依ル無盡講金ハ普通金融ノ必要上不利益ノ競落ヲ爲シ之ヲ借用スルモノナレハ其性質消費貸借ナリトス從テ其掛戻ハ特別ノ理

三五	六	五八
三五	六	五八
三七		六〇七
三六		一五五六

由アルニアラサレハ之ヲ各箇獨立ノ債務ナリト云フヘカラス

○頼母子講ニ於ケル講員相互ノ權利關係ハ消費貸借ノ性質ヲ具有スルヲ通例トスルモ規約ヲ以テ特ニ講員相互ノ權利關係ヲ定ムルコトヲ得ルモノナルヲ以テ當籤者及ヒ未當籤者間ニ於ケル權利關係ノ如何ナルモノナリヤハ事實裁判所カ各箇ノ場合ニ就キ當事者間ノ規約ニ從ヒ判斷スヘキモノトス

(同主旨)

頼母子講ノ講員カ其規約ヲ以テ特ニ相互ノ關係ヲ定メ之ニ消費貸借以外ノ性質ヲ有セシムルハ固ヨリ隨意ナルヲ以テ各箇ノ場合ニ就キ當籤者ノ義務ハ純然タル消費貸借ニ基ク借用金返還ノ義務ナルヤ否ヤチ規約ノ旨趣ニ從ヒテ判斷スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス

○債券ノ發行行為ハ金錢ノ消費貸借ト異ナリ特定人ヲ對手者トスルモノニ非サルヲ以テ發行者ノ法人タルト自然人タルトヲ問ハス消費貸借ヲ爲ス權能アル者必シモ債券發行ノ權能アル者ト云フヲ得ス

○消費貸借ヲ擔保スル爲メ抵當權ノ設定アリタルトキハ其擔保セントスル消費貸借カ抵當權設定ノ當時ニ於テ成立セルモノナルト將タ後ニ金錢ノ授受アルニ因リ成立スルモノナルトヲ問ハス其抵當權ハ有效ニ之ヲ擔保スルコトヲ得ルモノトス

四二	一〇二
四	七五九
四	一八〇
四	八五
二	三二

○消費貸借ハ縱令其債權ヲ擔保スル爲メノ抵當權設定カ官廳ノ許可ヲ經サリシ爲メ無効ニ歸スルコトアルモ特別ノ事情存セサル限ハ當然無効ニ歸スルモノニ非ス

(参照)

債權者カ保證人ノ眞否債務者ノ財産如何ヲ調査セサリシトテ其人ノミヲ信用シテ其財産ヲ目的トセサル異常ノ貸借ナリト云フヲ得ス

頼母子講ノ世話人若クハ發起人ハ規約又ハ規約ニ明記セル場合ノ外私財ヲ以テ講員ノ怠リタル掛金ヲ返償スルノ責務ナシ

(第五百八十七條)

『第五百八十七條』

○金錢ノ消費貸借ハ當事者ノ一方カ同數量ノ金錢ヲ返還スヘキコトヲ約シテ相手方ヨリ金錢ヲ受取ルヲ以テ其法律行為ノ要素トスルモノニシテ抵當ノ如キハ貸借契約ニ附隨スル一ノ擔保ニ過キササルヲ以テ縱令其順位ニ關シ意思表示ニ錯誤アリトスルモ之カ爲メ貸借契約ヲ無効ナラシムヘキモノニ非ス

○消費貸借ハ借主カ現ニ金錢其他ノ物ヲ受取ルカ若クハ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ場合ニ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキニ非サレハ成立セサルモノトス

二	四二
二五	六
三〇	一〇
三	二五
三六	一〇六

○當事者ノ一方カ一定數量ノ金錢ヲ受取ルヘキ場合ニ代物ヲ領收シ而シテ同一數量ノ金錢ヲ以テ返還ヲ爲スヘキコトヲ約スルトキハ仍ホ消費貸借契約タルコトヲ失ハス

○貸主カ借主ニ交付スヘキ金額中ヨリ借主承諾ノ上利息ノ前拂トシテ相當金額ヲ控除スルモ是レ貸與金額ノ授受ヲ省畧シタルモノニシテ前拂利息ニ相當スル金額ニ付キ消費貸借ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス

(同主旨)

民法第五百八十七條ハ必スシモ現實ニ金錢其他ノ物ノ授受アルコトヲ要スル旨趣ニ非ス故ニ當事者カ簡易ナル手續ニ依リテ其授受ヲ爲スモ借主ニ於テ經濟上現實ノ授受ト同一ノ利益ヲ受クルトキハ消費貸借成立スルモノトス
消費貸借ノ成立ニハ當事者間ニ金錢其他ノ物ヲ現實ニ授受スルノ必要ナク簡易ノ引渡ナ以テ之ニ代フルモ妨ナキモノトス
消費貸借ニ於ケル金錢其他ノ物ノ引渡ハ必スシモ現實ナルヲ要セス簡易ノ引渡方法ニ依ルモ妨ナシ故ニ貸主カ借主ノ意思ニ反セサル第三者ヨリ辨濟トシテ受クヘキ金錢ヲ消費貸借ノ目的物ト爲シ之カ授受ヲ省畧シ以テ第三者トノ間ニ消費貸借ヲ成立セシムルコトヲ得ルモノトス

○消費貸借ニ於ケル目的物ノ授受ハ必スシモ消費貸借ノ意思表示ト同時ナルコトヲ要セス後ニ至リ之ヲ爲スモ妨ナシ唯其授受アル迄ハ消費貸

借成立セサルノミナリトス

(參照)

何人カ出金スルモ證書ヲ授受シ貸借ノ合意アリタル上ハ其合意上ノ債權者ニ訴權ナシト云フヲ得ス
貸借ノ目的物カ代替物ナルトキハ其所有權當然借主ニ移轉シ特定物ナルトキハ反對ノ意思カ表明セラレサル限ハ其所有權借主ニ移轉セス

〔第五百八十八條〕

○舊商法第九百九十條ニ所謂從來負擔シタル債務トアル中ニハ民法第五百八十八條ノ如キ法律ノ擬制ヲ以テ消費貸借ト看做スヘキモノト雖モ事實從來負擔セル債務ナル以上ハ總テ之ニ包含スルモノトス
○民法第五百八十八條ノ法則ハ民法施行前ニ於テモ一ノ條理トシテ是認スヘキモノナリ

○消費貸借ハ借主カ現ニ金錢其他ノ物ヲ受取ルカ若クハ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ場合ニ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキニ非サレハ成立セサルモノトス

○當事者カ利息制限法ノ規定ニ超過セル利息ヲ授受スヘキコトヲ約定スルモ其合意ハ固ヨリ不法ニシテ之ニ基キ有效ナル債務關係ヲ發生セシ

二	二六	二九	三四	三六	三六
三二	五	八	三	三	三
五二	五七	一九	八一	一〇四	一〇六

四	四〇	四二	四	四
三七九	五〇	五九	四	六四八

ムルコトヲ得ス故ニ其債務關係ヲ以テ目的ト爲シタル消費貸借ハ全然無効ナリトス

○買主カ賣主ニ支拂フヘキ代金ヲ以テ消費貸借ノ目的物ト爲シ公正證書ヲ作成シタル場合ニ於テハ縱令其貸借ノ内容ヲ記載セサルモ之カ爲メニ契約ノ成立ニ影響ヲ及ホスコトナキハ勿論該證書ノ記載事項ヲ目シテ實際ノ事實ニ符合セサルモノト云フヲ得ス

○當事者カ現ニ引渡スヘキ物ヲ所持セサルモ既ニ成立シタル消費貸借及ヒ其不履行ニ因リテ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ場合ニ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ成立スルモノトス

○約束手形ノ所持人カ商法第五百二十九條同第四百八十七條ノ手續ヲ履行セサル間ニ於テハ裏書人ハ金員ヲ給付スルノ義務ナケレハ民法第五百八十八條ニ依リ其手形上ノ義務ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約スルヲ得ス

○當事者相互間ニ於テ既ニ金錢其他ノ代替物ノ給付ヲ目的トスル債務カ存在スル場合ニ當事者カ之ヲ消費貸借ノ債務ニ變更スルハ毫モ妨ナク既存ノ債務カ消費貸借ニ基クト其他ノ原因ニ基クトハ之ヲ問フヲ要セ

三七

一六四六

四〇

三六六

四二

五一九

四三

一〇三三

〔第五百八十九條〕

○他ノ原因ニ基キ給付スヘキ金錢ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スニ依リ消費貸借カ成立シタル場合ニ於テ之ヲ證スル爲メ作成セラレタル私署證書又ハ公正證書ニ用キタル貸渡及ヒ受取ノ文字ヲ以テ直ニ現實金錢ヲ授受シタルノ意義ニ於テ用キタルモノト解スルハ實驗法則ニ反スルモノトス

〔第五百八十九條〕

○消費貸借契約カ消費貸借豫約ノ一部履行ニ因リ成立シ同契約ノ期限ヲ以テ其期限ト爲ス場合ニ於テハ消費貸借豫約ニシテ解除セラレ全ク無効ニ屬スルトキハ別段ナル理由ノ存セサル限り之ニ基キ成立シタル消費貸借契約ノ期限モ亦當然無効ニ歸スルモノトス

○金錢ノ消費貸借ノ豫約ニ基キ豫約者ニ對シ相手方ノ有スル債權ハ金錢ノ支拂ニ因リ消費貸借ヲ成立セシムルコトヲ目的トスル債權ニシテ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ニ非ス從テ豫約者ノ相手方ニ對シテ有スル金錢給付ノ反對債權ヲ以テ之ト相殺ヲ爲スコトヲ得ス

(同主旨)

消費貸借豫約ノ場合ニ於ケル豫約者ノ債務ハ消費貸借ヲ成立セシムヘキ債務ナルヲ以テ相手

ス

二

一一

二

九八三

三六

六七二

二

四五八

方カ豫約者ニ對シ有スル請求權ノ實質ハ金錢其他ノ代替物支拂ノ債權ニハ非スシテ消費貸借ヲ成立セシムルノ債權ナリトス從テ相手方ハ豫約者ニ對シ自己ノ負擔スル金錢其他ノ代替物給付ノ債務ト相殺スルヲ得ス

(第五百九十一條)

『第五百九十一條』

○消費貸借ノ當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ貸主ハ如何ナル方法ニ依ルモ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ催告ヲ爲シ得ルモノトス從テ督促手續ニ依リ其催告ヲ爲スモ違法ニ非ス

○無期限ノ消費貸借ニ付キ貸主カ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ請求ヲ爲スコトハ返還請求權行使ノ絶對的必要條件ニ非スシテ借主ニ屬スル一ノ抗辯方法タルニ過キス從テ裁判所ハ借主ノ抗辯アリタル場合ニ限り之ヲ審判スルヲ以テ足り職權ヲ以テ此點ノ調査ヲ爲ス責務ナシ

第七節 貸貸借

○貸貸借ノ目的タル家屋カ徵發令ニ依リ使用ノ爲メ徵發セラレタル場合ニ於テハ貸借人ノ爲メニ貸貸借契約ヲ解除スルノ權利發生スルニ止マリ當然其契約ノ消滅ヲ來スヘキモノニ非ス

○徵發令上ノ賠償金ハ徵發ノ爲メ生スル損害ヲ賠償スル目的ヲ以テ支給セラレルモノナレハ貸借人モ所有者ト同シク徵發ノ爲メニ損害ヲ被ム

リタルトキハ其賠償金ノ分與ヲ受クル權利アルモノトス

○借地權ノ性質ハ民法上ノ用語ヲ了解シテ契約シタルモノト認メラルル場合ハ格別ナレトモ單ニ借地證ニアル貸借ノ文字ノミニ依リテ之ヲ定ムルヲ得ス

○貸貸借契約ノ存立セル地所ノ所有權カ他ニ移轉シタル場合ニ於テ當事者ノ合意ニ因リ地所ノ新所有者カ其借地權ヲ承繼シタルトキハ其結果トシテ之カ債權債務ヲ引受け借地權者トノ間ニ從來ノ法律關係ヲ持續スルコトト爲ルモノニシテ斯ノ如キハ契約自由ノ原則ニ從ヒ法律上有効ナリトス

第一款 總則

(第六百一條)

『第六百一條』

○貸貸借ハ當事者ノ一方カ相手方ニ物ノ使用收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方カ之ニ其賃金ヲ支拂フコトヲ約スルニ因リ成立スルモノニシテ貸貸人カ其物ニ對シ所有權又ハ其他ノ權利ヲ有スルト否トハ契約成立ノ要件ニ何等ノ消長ヲ及ボサス

○賃料ヲ得テ漁業權若クハ其共有持分ヲ他人ニ貸付スル契約ニハ民法貸貸ノ規定ヲ準用スヘキモノトス從テ此契約ニ附スルニ貸貸借ノ名稱

三五	三〇	三三	二五八
三四	二七	二	二五八
三三	二七	二	二五八
三二	二七	二	二五八
三一	二七	二	二五八
三〇	二七	二	二五八
二九	二七	二	二五八
二八	二七	二	二五八
二七	二七	二	二五八
二六	二七	二	二五八
二五	二七	二	二五八
二四	二七	二	二五八
二三	二七	二	二五八
二二	二七	二	二五八
二一	二七	二	二五八
二〇	二七	二	二五八
一九	二七	二	二五八
一八	二七	二	二五八
一七	二七	二	二五八
一六	二七	二	二五八
一五	二七	二	二五八
一四	二七	二	二五八
一三	二七	二	二五八
一二	二七	二	二五八
一一	二七	二	二五八
一〇	二七	二	二五八
〇九	二七	二	二五八
〇八	二七	二	二五八
〇七	二七	二	二五八
〇六	二七	二	二五八
〇五	二七	二	二五八
〇四	二七	二	二五八
〇三	二七	二	二五八
〇二	二七	二	二五八
〇一	二七	二	二五八

ヲ以テスルモ妨ナシ

〔第六百二條〕

○民法第六百二條ノ規定ニ違背セル契約ニ依リ抵當地所ヲ貸借スルモ其貸借權ハ無効ニシテ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ス故ニ其抵當權ノ實行トシテ抵當地所ヲ競賣ニ付スルトキハ競落人ハ完全ナル所有權ヲ取得スルモノニシテ貸借人ハ其競落ノ通知ヲ受クルト同時ニ惡意ノ占有者ト爲ルモノトス

○民法第六百二條ニ定メタル貸借ノ期間ハ同第三百九十五條ノ場合ニ於テモ亦之ヲ更新スルコトヲ妨ケス

第二款 貸借ノ效力

○無期限ニテ宅地ヲ借受ケタル後租税ノ増額其他正當ノ原因生シタル場合ニ於テ地主ヨリ借地料ノ増加ヲ求メ得ヘキコトハ一般ノ慣例ナリ

○土地ノ貸借人カ貸借契約ノ期限中其土地ニ在ル建家ヲ他人ニ賣却スルモ契約ヲ解除セサル以上ハ貸借關係ハ當然消滅スヘキモノニ非ス從テ貸借人ハ自ラ其土地ヲ使用セサルモ貸借人ニ對シテ借地料支拂ノ義務ヲ負フモノトス

(參照)

借地料ニ關シ義務者カ遲滞ニ付セラレタルコトナク唯其義務ノ懈怠ノミチ原因トシテ地所明渡ヲ請求スルヲ得ス

貸借人ニ於テ貸借人カ貸借期限中其場所ニ従前ノ形狀ニ反シタル新工事ヲ施シ以テ貸借人ノ所有權ヲ害シタリトシ之カ復舊ヲ求ムル訴訟ニ付テハ當事者一方カ既ニ其新工事ニ干與セザリシコトヲ判示セラレタル上ハ其貸借人タルト否ノ事實ハ之ヲ審究スルヲ要セス

(刑)

相當ノ借地料ヲ納メテ官有地ヲ借受ケタルトキハ其地上ニ生立スル樹木ハ反對ノ事實ナキ以上ハ借地者ノ所有ト認ムヘキモノナリ

當事者カ無期限ノ貸借契約ヲ爲スニ當リ反對ノ意思ヲ表示セサルトキハ明示ノ約束ノ外一般ノ慣例ニ依ルヘシトノコトヲ默示ニ約束シタルモノト看做ス

宅地ノ無期限貸借契約ヲ締結シタル後租税ノ負擔比隣借地料ノ増加等ノ事由發生シタル場合ニ於テ其借地料ノ増加ヲ求メ得ルコトハ一般ノ慣習法ナリ

〔第六百五條〕

○貸借ハ債權債務ノ關係ニシテ民法第六百五條及ヒ第三百九十五條ノ規定ニ該當スル場合ノ外其效力ハ當事者間ニノミ生シ第三者ニ及ハサルヲ原則トス〔同一判例三六年七一九頁〕

(參照)

地所ノ貸借契約ハ法律上物權タル性質ヲ有セスト雖モ一種ノ權利トシテ地所ノ所有主ニ追隨スルハ我邦古來ノ慣習ナリ

〔第六百十二條〕

民法 債權 契約 貸借 貸借ノ效力

四〇 二九六

三六 四一

四〇 九二七

三五 六六

三七 一一六

二七 一五九

二八 一五二

三〇 九九

三二 八三

三三 八三

三六 二九七

三〇 四一

○質借人カ質貸人ノ承諾ナクシテ質借物ヲ更ニ第三者ニ質貸シタルトキハ其法律行為ハ轉貸借トシテハ成立セサルモ質借人ト第三者トノ間ニハ質貸借トシテ成立シ當然無効ナルモノニ非スシテ唯質貸人ヨリ質借人ニ對スル契約解除ノ原因タルニ止マルモノトス

(同主旨)

質借人カ擅ニ質借物ヲ轉貸スルモ其行為ハ當然無効ニ非スシテ唯契約解除ノ原因タルニ止マルモノトス

○他人ノ所有物ヲ質借セル者カ其質借權ヲ他ニ讓渡ス契約ハ他人ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲ス場合ト同シク有效ナル行為ニシテ其讓渡主カ讓渡ニ付キ質貸主ノ承諾ヲ得タルト否トハ問フ所ニ非ス

○質借人カ其權利ヲ他人ニ讓渡スニハ特約ナキ限り質貸人ノ承諾ヲ要スルモノトス故ニ其承諾ナキ質借權ノ讓渡ハ之ヲ以テ質貸人ニ對抗スルコトヲ得ス

(同主旨)

質借人ハ質貸人ノ承諾ヲ經サレハ其質借權ヲ第三者ニ讓渡シ又ハ轉貸スルヲ得ス

〔第六百十四條〕

○民法施行前ニ成立シタル質貸契約ニ於テ辨濟ヲ爲スヘキ場所ニ付キ別

四〇	五八
四〇	二四
四三	九八
四四	二七
三三	八

〔第六百十六條〕

段ノ意思表示アラサルトキハ辨濟ハ債務者現時ノ住所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス
○質貸借ノ場合ニ於テ每辨濟期ニ賃料ノ支拂ヲ受クヘキ箇箇ノ權利ハ契約ノ當時直ニ發生スルモノニ非スシテ質貸借ノ目的タル物ノ使用ニ應シ順次ニ發生スルモノナルモ其基本タル權利ハ契約ト同時ニ發生スルモノナルヲ以テ之ニ依リテ將來發生スヘキ箇箇ノ權利ノ辨濟ノ場所モ定マルモノトス

〔第六百十六條〕

○土地ノ質貸借カ契約ニ定メタル期間ノ滿限ニ因リテ終了シタルトキハ質借人ハ質借地ヲ返還スルノ義務アリ而シテ此義務ハ土地ノ引渡ノ外尙ホ之ニ附屬セシメタル工作物ヲ取拂ヒテ契約當時ノ原狀ニ復スル義務ヲ包含シ其工作物カ法律ノ規定若クハ當事者ノ契約ニ因リ質貸人又ハ地主ノ所有ニ歸スル場合ヲ除ク外質借人ニ於テ之カ履行ノ責ニ任セサルヘカラス

○質借人カ質借物ヲ改良シタル儘之ヲ質貸人ニ返還シタル場合ニ於テハ質貸人ハ條理上不當ニ利得シタルモノナルヲ以テ改良ニ因リテ受ケタル利益ノ限度ニ於テ之ヲ質借人ニ返還スルノ義務ヲ有スルモノトス

四五	一
四	七
二	四五
二	四五

第三款 貸貸借ノ終了

〔第六百十七條〕

○土地ノ明渡ニ一ヶ年ノ猶豫期間ヲ要スル民法第六百十七條ノ規定ハ當事者間ニ貸貸借關係存在シテ其期間ヲ定メサリシトキ當事者ノ一方ヨリ解約ノ申入ヲ爲シタル場合ニ限り適用スヘキモノトス

〔第六百十八條〕

○民法第六百十八條ノ規定ハ單純ナル貸貸借ニシテ期間ノ定アルモ當事者ノ一方ニ於テ解約ヲ爲スノ權利ヲ留保シ特ニ其條件ヲ設ケサルカ爲メ殆ト期間ノ定ナキト同一ナル場合ニ適用スヘキモノナリトス

〔第六百十九條〕

○貸貸借ノ當事者カ契約ノ當時ニ於テモ其期間滿了ノ際ニ於テモ契約ヲ更新スル意思ナキトキハ縱令其期間滿了ノ後貸借人カ貸借物ノ使用ヲ繼續シ貸借人カ之ニ異議ヲ述ヘサリシトテ民法第六百十九條ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

〔第六百二十條〕

○貸貸借契約解除ノ場合ニ於テ貸借人ヨリ貸借人ニ返還スヘキ敷金ニ對シテハ其解除ノ時ヨリ當然利息ヲ附スヘキモノトス

第八節 雇傭

〔第六百二十四條〕

○民法第六百二十四條第二項ノ規定ハ勞務者カ約旨ニ基キ勞務ニ服シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ其債務ヲ履行セサルニ拘ハラヌ期間中ノ報酬ノ請求權ヲ有ストノ法意ニ非ス

第九節 請負

○請負人ノ材料ヲ以テ注文者ノ地上權ヲ有スル土地ノ上ニ建物其他工作物ヲ設クヘキ請負ヲ爲シタル場合ニ於テハ仕事ノ結果其材料ヲ土地ニ附著セシムルヤ否ヤ當然其所有權カ注文者ニ移轉スルモノニ非スシテ請負人ヨリ注文者ニ對シ建物又ハ工作物ヲ引渡スニ因リテ始メテ移轉スルモノトス

○請負人ニ對シテ工事全部ノ下請負ヲ爲シ内金ヲ受取リタル者カ不當ニ其工事ヲ完成セサル爲メ更ニ他人ヲシテ殘工事ヲ爲サシメタル場合ニハ其完成ニ必要ナル費用ニシテ請負人ノ損害ニ歸シタル金額ハ下請負人ニ於テ之ヲ補償スヘキ責務ヲ負フモノトス從テ請負人ハ過渡金ノ取戻ヲ請求スルノ外損害要償ノ權利ナシト斷定シタル判決ハ不法ナリ
○政府ノ工事ヲ請負フ者ニ特別ノ資格ヲ要スルコトハ諸法令ノ定ムル所

三五	四二	三七	三三
四			一〇
六三	一〇一	二六四	一〇

三九	三七	三六	三九
			六三
三九七	八六一		

ナレトモ其請負人ヨリ更ニ下請負ヲ爲ス者ノ資格ヲ定メタル法令ナケレハ下請負人ニ於テ契約ノ當時政府ニ對シ直接ニ工事ノ請負ヲ爲ス資格ヲ有セサルモ之カ爲メニ其下請負ニ關スル契約ヲ目シテ當然無効ナリト謂フヲ得ス

○請負人ト注文者トノ間ニ下請負禁止ノ契約アルモ請負人ト第三者間ニ於ケル下請負契約ノ效力ニ何等ノ影響アルモノニ非ス

〔第六百三十三條〕

○請負者カ報酬ヲ受クルノ債權ハ請負契約ノ成立ト同時ニ發生スルモノニシテ唯其行使ノ時期カ仕事ノ完成後ニ在ルノミナレハ仕事ノ完成前ナルノ故ヲ以テ其債權ノ成立不確定ナリト云フヲ得ス

〔第六百三十四條〕

○仕事ニ瑕疵アリタル場合ニ於テ注文者カ請負人ニ對シ其修補ヲ請求スルトキハ相當ノ期間ヲ與フヘキモノナルモ仕事ノ修補ニ代ヘテ損害賠償ヲ要ムルトキハ相當ノ猶豫ヲ與フルコトナク直ニ之カ請求ヲ爲シ得ルモノトス

○請負人カ既ニ爲シタル工事ニ瑕疵アリタルトキハ注文者ハ其瑕疵ニ付キ損害賠償ヲ請求シ又同時履行ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ルモ其抗辯ニ因

四	四五	四	五
四	二五	四	五
四	二五	四	五
四	二五	四	五

〔第六百四十一條〕

○民法第六百四十一條ハ請負人カ仕事ヲ完成セサル間ハ注文者ハ何時ニテモ請負契約ヲ解除シ得ルモ其解除ヨリ生スル損害ハ之カ賠償ノ責ニ任スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ注文者カ契約ノ解除ヲ爲スノ條件トシテ先ツ其損害賠償ノ提供ヲ爲ササレハ解除ノ意思ヲ表示シ得サルコトヲ規定シタルモノニ非ス

○注文者カ民法第五百四十一條ニ依リ請負人ノ債務不履行ヲ理由トシテ解除ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テ請負人ニ債務ノ不履行ヲ責ムヘキ事實ナキトキハ請負契約ハ依然トシテ其效ヲ有スルモノトス又其既ニ無効ニ歸シタル解除ノ意思表示ヲ以テ同第六百四十一條ニ依ル解除ノ效ヲ生シタルモノト爲スヲ得ス

第十節 委任

○仲買人カ委任ヲ受ケテ賣買ヲ爲ストキハ仲買人ト委任者トノ間ニハ委任關係ヲ生スルモノトス

○執達吏カ有體動産ヲ差押ヘ之ヲ保管スルハ債權者ノ委任ニ基クモノナリト雖モ固ト是レ法律ノ規定ニ從ヒ其職務上當然爲スヘキ義務ニ屬ス

三	四	三	元
三	四	三	元
三	四	三	元
三	四	三	元

ル事柄ニシテ普通ノ代理關係ヲ以テ論スヘキモノニ非サルノミナラス
犯罪行為ハ委任事項ノ範圍以外ナルカ故ニ執達吏ノ犯罪行為ニ付テハ
債權者其責ニ任セス

(刑)

○代理委任ハ必スシモ書面ニ依ルヲ要セス訴訟記録中委任ノ事實ヲ認ム
ヘキモノアルヲ以テ足レリトス

○無盡講又ハ頼母子講ニ於ケル講元又ハ世話方ナルモノハ唯其講元又ハ
世話方トシテ自己ノ責任ヲ以テ其事務ヲ處理スルニ過キサルモノナル
カ故ニ各講員トノ間ニ於ケル權利關係ニ就テ講會ノ代表者トシテハ訴
訟行為ヲ爲シ得ヘカラサルモ一個人ノ資格ニ於テハ之ヲ爲シ得ヘキモ
ノトス

○無盡講員等カ契約ヲ以テ其講ノ會長又ハ世話人ノ如キ役員ヲ定メ之ニ
其一己ノ債權トシテ無盡講掛金ヲ裁判上取立ツルノ權能ヲ付與シタル
場合ニ於テハ會長又ハ世話人ハ自己ノ債權トシテ自己ノ名義ヲ以テ講
員ニ對シ掛金拂込ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノトス

○頼母子講ノ會主カ講員ノ委任ニ依リ特ニ掛金取立ノ事務ヲ管理スル場
合ニ在テハ其管理者タル資格ニ於テ掛金ノ取立ヲ爲シ若シ任意ノ辨濟
ヲ得サルトキハ其延滞者ニ對シ同一ノ資格ヲ以テ裁判上ノ請求ヲ爲シ

得ルモノトス

○無盡講又ハ頼母子講ノ會主若クハ世話人ハ講會ノ契約ニ依リ其講會ノ
事務ヲ管理シ自己ノ名義ヲ以テ講金ヲ取立ツルノ權能ヲ付與セラレタ
ル場合ニ於テハ講員ニ對シ講金拂込又ハ掛戻ノ請求ヲ爲シ得ルモノト
ス

○委任者カ他人ノ取次ヲ以テ法律行為ヲ爲スコトヲ受任者ニ委任シタル
場合ト雖モ其委任ニシテ他人ノ專恣ニ因ラサル限ハ委任者カ直接ニ委
任シタルト同一ニシテ中間ニ立人リタル他人カ委任者ノ代理ヲ任設シ
タリトノ口實ヲ籍リ委任者ニ於テ其關係ヲ脱シ得ヘキモノニ非ス
○陸軍兵器本廠ニ對スル銃彈藥拂下ノ契約カ拂下人ノ不履行ニ因リテ解
除セラレ保證金全部ノ沒收處分アリタルトキハ其處分ニシテ取消サレ
又ハ無効ト爲ラサル限リ拂下人ヨリ他人ニ與ヘタル該金圓取下ノ委任
ハ目的物消滅ノ爲メニ終了シタルモノトス

(參照)

委任狀ハ他人ニ或權限ヲ與ヘテ或行為ヲ委任スルモノニシテ直ニ之ヲ以テ賣買若クハ抵當貸
借ノ證ト認ムルヲ得ス
委任狀其モノヲ以テ直ニ代理以外ノ權利關係ヲ成立セサルコト明白ナリ但委任狀ニ依テ所有

二五	二	三七	三七	三七
二				
五	七五	三五	三〇三	一

三四	三四	三四	三三
六	五	四	六
八	六	六	六

權移轉ノ爲メニ株券等ノ名義ノ書換ヲ行フノ能力ヲ付與スルニ過キサルノミ
 故ニ無記名委任狀ヲ添ヘタル株券ノ所持人ヲ認メテ直ニ其所有者ナリト斷定スルヲ得ス何ト
 ナレハ其株券及ヒ其委任狀ノ記名ハ所持人ノ名義ニ非サレハナリ然リト雖モ所持人ハ該株券
 ナ抵當ト爲スノ權力若クハ自ラ所有主タルコトヲ得ルノ機能ヲ有セサルニ非ス
 差配委任ハ或行政事務ノ一部ニ止マラス差配人カ其借地料ヲ取立ツル如キハ當然ノ職務ニシ
 テ差配委任中ニ包含スルモノト云ハサルヘカラス僱シ訴人ニ於テ差配人ノ權限ハ或行政ノ一
 部ニ止マルハ地方慣習アリト云ハハ民事訴訟法第二百十九條ノ規定ニ據リテ之ヲ證明スルノ
 責アリ而シテ其慣習ノ有無ヲ審査スルト否トハ裁判官ノ職權内ニ屬スルモノトス且法律(明
 治八年第四百八號布告第二條)ニ於テ地主ノ貸地證明ニ就キ他人ノ代理ヲ禁シタルコトナ
 ケレハ其代理委任ハ差配管理内ニ包含スト認定スルモ決シテ違法ニ非ス

委任狀ノ文詞ニ「拙者固有特有ニ論ナク總テ保存スヘキ權利及ヒ義務ノ執行ニ關シ公私百般
 ノ事ヲ辨理スルコト」トアルトキハ總代理人ナルモ委任者ノ義務ニ付テハ既ニ負擔スルモノ
 ノ履行ヲ爲スヘキ權限ヲ有スルノミニテ新ナル義務ヲ生セシムル契約ヲ爲ス權限ヲ有セス故
 ニ總代理人カ新ナル契約ヲ爲スニハ必ス本人ノ承諾ヲ要ス書入登記ヲ爲ス際ニ用井タル委任
 狀ニ本人ノ實印ニ非サルモノヲ押捺シアルニ於テハ本人ノ認諾ナキモノナルヲ以テ總代理人
 ノ所爲ハ委任權外ナリトス

總代理人ハ本人ニ代リ其名義ヲ以テ一般ノ事務ヲ管理スルニ止マリ固ヨリ處分ヲ委任スルモ
 ノニ非サルヲ以テ一切ノ權利ヲ無効ナラシムルト云フ如キ契約ハ特ニ其委任ヲ受クルニ非サ
 ルヨリハ之ヲ爲スノ權能ヲ有セス
 賴母子講ノ世話人ハ其講會ニ關シテ行フタル行爲ニ付キ法律上責任ヲ免ルルコトヲ得ス

二五	二	五
二五	二	五
二六	二	四五
二七	二	三三
二七	二	五九
二九	二	三五

第六百四十四條

契約ヲ締結スルニ付キ二名以上ノ者ニ其代理ヲ委任シタル場合其委任行爲ハ數人共同ニテ爲
 スヘキモノナリヤ又ハ一人ニテモ爲シ得ヘキモノナリヤハ委任當時ニ於ケル委任者ノ意思ヲ
 推究シテ決スヘキモノトス

第六百四十四條

○取引所仲買人カ取引所ニ於ケル賣買ノ委任ヲ受ケ賣建又ハ買附ヲ爲シ
 タル以上ハ其轉賣買等取引ノ變更ニ關シテハ一ニ委任者ノ意思ニ從フ
 ヘク自己ノ意思ヲ以テ委任者ノ意思ヲ阻碍シ得ヘカラサルハ委任ニ關
 スル一般ノ法理ナリトス

第六百四十六條

第六百四十六條

○多數委任者カ受任者ニ對シ委任事務執行中收得シタル金錢ノ引渡ヲ請
 求スル場合ニ於テ別ニ反對ノ意思表示アラサル限り多數委任者ノ權利
 ハ之ヲ平等ノ割合ナリト看做スヘキモノトス

○受任者カ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル物ヲ委任者ニ引渡ス
 義務ノ目的物ハ其性質得替物ノ種類ニ屬スル場合ト雖モ當事者間ニ在
 リテハ既ニ特定シタルモノト同視スヘキヲ以テ通例トス

(刑) ○委任者ト受任者トノ間ニ於テ初ヨリ委任者ヲシテ直ニ權利ヲ取得セシ
 ムルノ特約アルトキハ受任者カ自己ノ名ヲ以テ權利取得ヲ爲スト同時

二九	二	七
三三	六	四三
三三	六	四七
三四	三	三

ニ其權利ハ當然委任者ノ所有ニ歸シ之カ爲メ特別ノ意思表示ヲ爲スノ必要ナキモノトス

〔同主旨〕

〔刑〕 受任者カ自己ノ名ヲ以テ權利ヲ取得シタル場合ト雖モ當初ヨリ委任者ノ爲メニスルノ契約ナルトキハ其取得ト同時ニ該權利ハ當然委任者ニ歸屬シ毫モ特別ノ意思表示ヲ爲スノ要ナキモノトス

〔第六百四十七條〕

○甲者カ乙者ヲ欺罔シテ債權取立ノ委任ヲ爲サシメ債務者ヨリ取立テタル金銭ヲ費消シタル場合ニ於テハ乙者ハ民法第六百四十七條ニ依リ其引渡ノ請求ノ外尙ホ利息及ヒ損害賠償ノ請求權ヲ有スレトモ甲者ノ取立テタル金額ヲ損害賠償トシテ請求スル權利ナシ
○受任者カ委任者ノ爲メニ受取リタル金銭ノ所有權ハ委任者ニ屬スルヲ以テ原則トス故ニ受任者ヨリ如上金銭ノ交付ヲ受ケタル者ハ委任者ノ財産ニ因リテ利益ヲ得タルモノト云ハサルヲ得ス

〔第六百四十八條〕

○依頼者カ委任事務ノ半途ニシテ辯護士ヲ解任シタル場合ニ於テ反對ノ契約ナキ限ハ辯護士ハ依頼者ノ爲メニ既ニ費シタル勞力ノ割合ニ應ス

ル報酬ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マリ委任事務完了ノ場合ニ對シテ豫定シタル報酬全部ヲ請求スルコトヲ得ス

○民法第六百四十八條第二項ノ規定ハ受任者カ其委任セラレタル法律行為ヲ爲シタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求シ得サルノ旨趣ニシテ委任者ニ對スル一切ノ義務ヲ履行シタル後ニ非サレハ其請求ヲ爲シ得サルノ旨趣ニ非ス

〔第六百五十一條〕

○辯護士ト依頼者トノ關係ハ委任ニ因ル代理關係タルニ外ナラサルヲ以テ依頼者ハ何等ノ理由ヲ明示スルヲ要セス辯護士ヲ解任スルコトヲ得ヘシ

○民法上委任ノ規定ハ公ノ秩序ニ關スルモノト認ムヘカラサルヲ以テ委任契約ニ付テハ民法ノ規定ニ異ナリタル特約ヲ爲スコトヲ得ルモ或期間内委任ヲ解除セスト云フカ如キ約定ハ委任者ニ於テ解除ノ意思表示ヲ爲シタル以上受任者ヨリ其特約ヲ強要スルコトヲ得ス

〔第六百五十二條〕

○受任者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ委任關係終了スルカ故ニ受任者ノ破産管財人ハ委託物件ヲ保管シ且賣却スルニ付キ法律上何等ノ原因

四

二二九

三六

四九七

三九

三三三

四五

三一

三二

六四

三六

一一〇四

三二

六四

三六

五三

ヲ有セス從テ其賣却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ不當利得ニ該當ス

第十一節 寄託

○契約上ノ債務者ハ契約ノ本旨ニ從ヒ之ヲ履行スル義務アルヲ以テ共有物ノ受寄者カ契約ニ關係セサル共有者ノ一人ニ其物ヲ引渡シタリトテ其債權者ニ對シテ負擔シタル債務ヲ消滅セシムル效力ヲ生セス

○受寄者カ破産宣告ヲ受ケタル場合ト雖モ寄託物ヲ保管スル權利ノ如キハ當然之ヲ喪失スヘキモノニ非サレハ受寄者ノ破産管財人ハ該物件ヲ保管シ且賣却スル權利ヲ有セス從テ其賣却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ法律上何等ノ原因ナキモノトス

(參照)

他人ヨリ委託セラレタル物品ヲ運搬スルニ當リ運搬人ノ選擇宜キヲ失シ爲メニ物品ヲ紛失シタルトキハ受託者ハ所有主ニ對シ賠償ノ責任ヲ負フヘキモノトス

(第六百五十七條)

『第六百五十七條』

○民法施行前ニ在リテハ金錢其他ノ物ヲ給付スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ其債務者ト債權者トカ之ヲ以テ寄託ノ目的ト爲スコトヲ契約スルトキハ寄託契約ハ成立シタリ

(第六百五十九條)

『第六百五十九條』

○無償ニテ寄託ヲ受ケタルモノハ其寄託物ノ保管ニ關シ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲スノ義務アルコトハ法理ノ當然ナリ

(第六百六十二條)

『第六百六十二條』

○寄託者カ寄託シタル特定物ノ返還ヲ請求スル場合ニ於テハ受寄者ハ中等ノ物質ヲ有スル物ヲ以テ返還スヘキモノナリトノ法則又ハ寄託物ハ寄託物ノ品質ヲ證明スルノ責任ヲ免ルルコト能ハス

○有償寄託ノ場合ニ於テハ寄託者カ報酬ヲ提供スルマテ受寄者ハ寄託物ノ返還ヲ拒ミ得ルモノトス

○不動産ノ受寄者カ擅ニ其目的物ヲ他人ニ賣渡シテ登記ヲ爲シ買戻其他ノ方法ニ依リテ之ヲ自己ノ手裡ニ回復シ得サル場合ニ於テハ既ニ寄託者ニ對シテ返還ノ義務ヲ履行スルコト能ハサルモノナレハ理論上其不動産ヲ買戻シ得ルノ一事ニ依リ寄託者ハ先ツ物ノ返還ヲ要求シ其不履行アリタルトキ始メテ損害賠償ヲ請求セサルヘカラサルモノニ非ス

(第六百六十五條)

『第六百六十五條』

○受寄ノ金錢ヲ費消シタル者ハ其金錢カ何人ノ所有ニ屬セシヤヲ問ハス

民法 債權 契約 寄託

三六	二九	三六	三七	三六
一〇	九	一〇	一〇	一〇
一七一	九三	一七三〇	五〇七	一七三〇

三三	三五	三六	三三
二	二	二	二
二〇六	二〇六	二〇六	二〇六

寄託者ニ對シ損害賠償ノ責任ヲ負フニ過キス從テ其眞所有者ハ被告ニ對シテ賠償ヲ要求スルノ權ナシ

(第六百六十六條)

『第六百六十六條』

○民法第六百六十六條ハ既ニ成立シタル消費寄託ニノミ適用スヘキモノニ非スシテ消費寄託ノ成立ニ關シテモ亦之ヲ適用スヘキモノナリ
○民法第六百六十六條ハ其但書ノ規定ニ牴觸スルモノヲ除ク外凡テ消費貸借ニ關スル民法第五百八十八條ノ規定モ亦消費寄託ニ準用セラルヘキハ當然ナリ

(同主旨)

民法第六百六十六條ハ但書ノ事項ヲ除キ他ノ事項ニ關シテハ其契約ノ成立ニ關スルモノト否トチ問ハス總テ消費貸借ニ關スル規定ヲ準用スルノ法意ナリト解釋セサルヘカラス

第十二節 組合

○株式會社ハ第三者ニ對シ其定款ニ羈束セラルヘキモ組合ノ規約ハ組合員カ相互ニ遵守スヘキコトヲ定メタルニ止マルヲ以テ組合員ハ第三者ニ對シ其規約ニ羈束セラルヘキモノニ非ス
○組合ニ於テ其契約事項ヲ變更シ又ハ組合員ノ脱退加入アリタル場合ト

雖モ最初ノ契約ハ依然存立シ唯其一部分ノミ變更セラレタルニ過キサ
ルモノトス

○組合契約ニ於テ或組合員カ利益ノ分配ヲ受ケサルコトヲ定ムルカ如キハ無効ナリト雖モ之ニ反シテ或組合員カ損失ヲ分擔セサルコトヲ約スルハ組合契約ノ性質ニ反スルモノニ非ス

○民法組合ノ規定中組合員ノ除名脱退解散請求等ノ規定ハ契約解除ニ關スル特別規定ニ外ナラサルカ故ニ組合ニハ其解除ニ關シ當事者カ特別ナル意思表示ヲ爲シタル場合及ヒ法律カ特ニ規定セル場合ノ外ハ契約解除ニ關スル總則及ヒ其他ノ規定ヲ適用セサルモノト解セサルヘカラ
ス

○數人共同シテ鑛業權ヲ有スル場合ニ於テハ其事業ノ經營ニ關スル契約カ民法ニ規定スル組合ニ適合セサルトキト雖モ尙ホ組合契約ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノトス

(參照)

組合組織ノ商會ハ無形人ニ非サルカ故ニ其組合員全體ハ即チ商會ナルヲ以テ其商會ノ債務及ヒ債權ニ付テハ組合員相互ノ間ニ於テ相殺スルコトヲ得ルモノトス
組合員カ其組合ノ財産ヲ抵當トシ貸金ヲ爲スハ妨ナシト雖モ尙モ組合ニ同盟スル以上ハ必ス

四三	四	二	二六
九二	九二六	一七	一〇三

三七	三六	三六	三二
六四	一四六七	五七	二

其規約ヲ遵守スルノ義務アリ故ニ其規約ニ於テ組合ノ營業物件ヲ一定ノ時期マテ賣買スルヲ得サルトキハ其間ハ縱令貸金ノ辨濟ヲ受クル時期到來スルモ抵當權ヲ執行スルカ爲メ物件ヲ競賣セシムルコトヲ得ス

組合員カ各自ニ立替金又ハ預リ金ヲ爲スニ付キ利子ニ關スル申合又ハ契約ノ證左ナキトキハ總テ債務ニ對シ利子ヲ附スルコト能ハストノ判斷ハ條理上相當ナリ

『第六百六十七條』

○町村大字ノ住民間ニ於テ往時ヨリ土地水利租稅等ニ付キ共同ノ利益ヲ圖ル爲メ一種ノ組合會議體ヲ組織シ總代ヲシテ關係書類ヲ保管セシメ其交迭シタル場合ニハ舊總代ヨリ新總代ニ保管書類ヲ引渡スコトトシ且團體員ノ收容及ヒ脫退ヲ住民タル資格ノ得喪ニ伴ハシムル慣習アルトキハ其團體組織ハ縱令當初住民相互間ノ契約關係ニ基キ又各自共同ノ出捐ヲ爲ス事實アリトスルモ之ヲ以テ純然タル組合契約ト爲スヲ得ス

『第六百六十八條』

(參照)

法人タラサル會社社團ノ財産ハ之ヲ組織スル各個人ノ共有物ト看做ス

『第六百七十條』

○組合員ノ一人ト第三者トノ間ニ成立シタル法律行爲ヲシテ他ノ組合員

(第六百六十八條)

(第六百七十條)

二

四

三

三

七

七

二

七

三

三

七

七

(第六百七十四條)

(參照)

ニ對抗スル效力ヲ生セシメンニハ組合員間ニ特別ノ意思表示アラサル限り必スヤ民法第六百七十條ノ規定ニ依ルヘキモノトス
○或組合ニ於テ特ニ業務執行者ヲ定メ之ニ業務執行ノ權限ヲ授與シタルトキハ其執行者ハ事苟モ組合ノ業務ニ關シ組合事業ノ範圍ヲ超越セサル限り第三者ニ對シテ組合總員ヲ代表スルノ權限ヲ有シ其組合ノ名ヲ以テ爲シタル法律行爲ハ組合總員ニ對シテ效力ヲ生スルモノトス

『第六百七十四條』

共同事業ハ損益ヲ共通スルモノナルヲ以テ特約ナキ以上ハ各自平等ニ利益ヲ分配シ損失ヲ分擔スヘキモノナレハ第三者ニ對スル請求權ノ有無ニ關セス何時ニテモ共同者ノ一人ヨリ他ノ共同者ニ係リ該分配又ハ分擔ノ請求ヲ爲シ得ルモノトス

『第六百七十六條』

○民法第六百七十六條第二項ノ規定ハ組合ノ一員カ組合ニ對シテ清算前ニ組合財産ノ分割ヲ求ムルコトヲ得サラシムルニ止マリ組合ノ全員カ合意ノ上爲ス所ノ分割ヲ許ササル法意ニ非ス

『第六百八十八條』

○民法第六百八十八條ノ規定ハ私權ニ關スルモノナルニ依リ組合清算人

二

六

四

四

五七三

二

七五

一〇四

六四八

(第六百八十八條)

(刑)

ノ權限ヲ制限スルコトハ毫モ法ノ禁止セサル所ナルヲ以テ總組合員過半數ノ決議ニ依リ清算人中ノ或者ノミニ對シ訴訟行爲ヲ擔任セシムルモ違法ニ非ス

(參照)

私立銀行ハ一ノ組合ニシテ組合解散後ハ組合員全體ノ外訴訟ヲ爲スノ資格ナシト論告スルモ殘務委員ナルモノハ殘務ニ關スル事柄ヲ處理スヘキ責任ヲ有スルモノナレハ殘務ニ關係アル訴訟ニ付キ解散シタル銀行ヲ代表スヘキ權アルハ論ヲ俟タス

第十四節 和解

○損害要償事件ハ人事訴訟ニ於ケル婚姻事件ノ如キ和解ヲ許シ得サル性質ノモノニ非サルヲ以テ縱令其事件カ如何ニ錯雜ヲ極ムルモ和解ヲ許ササルノ限ニ在ラス

○和解ハ當事者ノ能力ニ欠缺アルカ又ハ其目的カ法令ニ違背スル等ノ場合ニ於テハ何等ノ效力ヲモ生スルコトナシ

○和解契約ニシテ苟モ有效ニ成立シタル以上ハ縱令後日ニ至リ其和解ニ關スル事實ニ錯誤アルコトヲ發見スルモ之カ爲メニ和解ノ效力ヲ失フコトナシ

(第六百九十五條)

『第六百九十五條』

○債權者及ヒ債務者カ互ニ讓歩スルコトナク唯債務者ハ既ニ負擔セル債務ノ殘存ヲ承認シ債權者ハ其辨濟延期ノ承諾ヲ爲シタル場合ハ民法上ノ和解ニ該當セス

○株式讓渡人カ株式競賣ノ違法タルコトヲ知ラスシテ其競賣不足額ハ當然支拂義務アルモノト信シ債務ニ付キ毫モ爭フ所ナク會社ニ對シ專ラ減額ノ懇談ヲ試ミ其承諾ヲ得タル場合ハ民法ノ所謂和解ニ該當セス

○普通使用スル示談ナル語辭ニハ和解ノ如ク當事者雙方カ其主張スル所ヲ互ニ讓歩シテ爭ヲ止ムルコトノ外當事者ノ一方ノミニ其主張ヲ拋棄又ハ減殺シ裁判ニ依ラスシテ事件ヲ完結スル意義ヲモ包含セルモノトス

第二章 事務管理

○民法上事務管理ニ關スル規定ハ公法人ニ適用スヘカラサル旨ノ規定ナキノミナラス町村制ニ於テモ亦之ヲ除外シタリト認ムヘキモノナシ
○事務管理ニ關スル債務ハ其事務ノ本人ノ意思ニ拘ハラス事務管理ナル事實ニ因リ法律ノ規定上當然發生スヘキモノナルヲ以テ本人ハ行爲能力者タルコトヲ要セス若シ町村カ本人ナルトキハ其町村長ノ同意ヲ要セサルハ勿論町村會ノ決議ヲ俟テ發生スヘキ債務ニ非ス

二
1014

二六
244

三七
461

三七
106

三七
133

三九
937

四〇
1059

四二
9

三六
127

三六
127

(第六百九十七條)

『第六百九十七條』

○事務管理人ハ管理行為ノ外必要ノ場合ニ於テ本人ノ意思ニ反セサルトキハ處分行爲モ亦之ヲ爲スコトヲ得

三一 二 二八

(第七百一)

『第七百一』

○事務管理者カ自己ノ名ヲ以テ其相手方ト爲シタル法律行為ノ直接ノ效力ハ常ニ兩者間ニ止マリ相手方ト本人トノ間ニ及フコトナシ

三七 六六

第四章 不當利得

(第七百三)

『第七百三』

○債權者カ債務者ノ債權轉付ヲ得タルハ法律上ノ原因アリテ利益ヲ取得シタルモノトス故ニ若シ債權轉付ノ手續ニ違法ノ廉アリシ爲メ損害ヲ被ムリタル者アレハ不法行為ト云フヲ得ヘキモ不當利得ト云フヲ得ス

三三 三九 二五

○不當利得ノ返還ハ請求ノ當時現存スル利益ノ限度ニ依ルヘキモノニ非スシテ其得タル時ノ利益ノ存スル限度ニ依ルヘキモノトス

三三 一 一

得ルモノニ非ス

○相殺スヘキ債務ヲ負擔セサリシコトヲ理由ト爲シ相殺ノ不當ナルコトヲ主張スル如キハ從前ノ債權カ相殺ノ爲メ消滅セサルコトヲ主張スルニ外ナラサルニ付キ其債權ノ辨濟ヲ請求スルハ格別ナルモ相殺ニ因リ控除シタル物ヲ不當利得トシテ之カ返還ヲ請求シ得ヘキモノニ非ス

三五 二 六二

○法律上ノ原因ナクシテ他人ヨリ金錢ヲ取得シタルトキハ其取得シタル金錢ハ之ヲ消費スルト否ト其消費ノ方法ハ生産的ナルト否トニ關セス其取得シタル利益ハ直接又ハ間接ニ存スルモノト看做スヘキモノトス

三五 九 七三

○民法第七百三條ニ謂フ法律上ノ原因トハ權利ノ得喪變更ノ原因タルヘキ法律行為若クハ相續占有時効等ノ如キモノヲ指シタルモノニシテ支拂命令又ハ之ニ基ク假執行命令ノ如キハ之ニ包含スルコトナシ

三五 九 一六二

○支拂命令ニ基キ給付ヲ受ケタル者ト雖モ異議ノ申立ニ依リ其命令カ效力ヲ失ヒ且命令ノ基因タリシ事由存在セサル以上ハ其給付ハ法律上ノ原因ナクシテ受ケタル利益ナルヲ以テ之ヲ返還スヘキモノナルヤ勿論ナリ

三五 九 一六二

○他人ノ土地ヲ冒認シテ之ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テハ抵當權設定ノ無効ナルハ勿論縱令抵當權者カ抵當物件ヲ競賣ニ付シ競落代金ヲ受領

三五 九 一六二

スルモ其競賣ニ因リテ所有權移轉ノ效力ヲ生スヘキ筋合ナク從テ眞ノ所有者ニ損失ナケレハ眞ノ所有者ト抵當權者トノ關係ハ不當利得ノ規定ニ該當セス

○地上權者カ土地所有者ニ對シ地代ヲ支拂フヘキ義務ヲ負擔セル場合ニ其支拂ヲ爲サスシテ土地ヲ使用スルモ之ヲ以テ法律上ノ原因ナクシテ不當ニ利得シタルモノト謂フヲ得ス從テ此場合ニハ不當利得ノ法則ヲ適用スヘキモノニ非ス

○指名債權ノ讓渡人カ其讓渡ヲ債務者ニ通知セスシテ自ラ辨濟ヲ受ケタル場合ニ於テハ其辨濟ハ有效ニシテ讓受人ハ債務者ニ對シ更ニ辨濟ヲ請求スル權利ヲ有セス從テ該讓渡人ハ讓受人ノ財産ニ因リ法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ受ケケカ爲メ讓受人ニ損失ヲ及ホシタルモノトス

○確定判決ハ確定ノ債務名義ニシテ其強制執行上金錢ヲ支拂フモ法律上ノ原因ナクシテ支拂ヲ爲シタルモノニ非サレハ不當利得ヲ原因トシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

○受任者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ委任關係終了スルカ故ニ受任者ノ破産管財人ハ委託物件ヲ保管シ且賣却スルニ付キ法律上何等ノ原因ヲ有セス從テ其賣却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ不當利得ニ該

當ス

○受寄者カ破産宣告ヲ受ケタル場合ト雖モ寄託物ヲ保管スル權利ノ如キハ當然之ヲ喪失スヘキモノニ非サレハ受寄者ノ破産管財人ハ該物件ヲ保管シ且賣却スル權利ヲ有セス從テ其賣却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ法律上何等ノ原因ナキモノトス

○法律上ノ原因ナクシテ現ニ受ケタル金錢上ノ利益ハ後日減少シタル事實ナケレハ依然存在スルモノト推定スヘキモノトス

○第二順位ノ抵當權者カ其權利ヲ實行シテ抵當不動産ヲ競賣シ第二ノ順位ニ於テ競落代金ノ配當ヲ受ケタル場合ニハ其所得ハ法律上正當ナル理由ニ基キタルモノトス故ニ第一順位ノ抵當權者ハ不當利得ヲ原因トシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

○抵當不動産ノ第三取得者ハ各不動産ノ價格ニ應シ他ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位スヘキモノトス從テ債權者カ他ノ第三取得者ノ不動産ニ對スル抵當權ヲ拋棄シタル後尙ホ債權全額ニ付キ抵當權ヲ實行スルニ於テハ該不動産ノ價格ニ相當スル金額ハ法律上ノ原因ナクシテ不當ニ之ヲ利得シタルモノナリ

○共有者ノ一人カ共有物ノ上ニ權利ヲ行使スルニ當リ故意若クハ過失ニ

三六	一七三〇
三六	一七三〇
三六	一七三〇
三九	一四九九
四〇	一五〇〇

三六	九三
三六	一四六〇
三七	七八
三八	一〇二

因リテ他ノ共有者ノ權利ヲ侵害スルトキハ其所爲ハ不法行爲ヲ構成シ又法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他ノ共有者ニ損失ヲ及ホシタルトキハ不當利得ト爲ルモノトス

四

九三七

○他人カ法令ニ違背シテ擅ニ水利組合ノ爲メニ工事ヲ爲シ其費用ヲ支辨シタル場合ト雖モ該組合ニ於テ之カ爲メ現ニ利益ヲ受ケタルトキハ其利益ノ多少ヲ論セス民法ノ規定ニ從ヒ不當利得ノ責任ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

四

一一五

○法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其損失ヲ及ホシタル時期カ利益ヲ受ケタル時期ノ後ナルト否トヲ問ハス其利益ノ現存スル限り之ヲ返還スル義務アルモノトス

四

一一五

○國稅徵收法第十四條ハ收稅官吏カ國稅滯納處分トシテ差押ヘタル財産ト雖モ第三者ノ所有ニ屬スルトキハ國ハ之ニ因テ不當ニ利得スヘカラサルニ依リ所有者タル第三者ヲシテ其取戻ヲ得セシムル法意ナリトス故ニ收稅官吏ニ於テ之カ賣却ヲ決行シタルトキハ國ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ不當利得返還ノ責ニ任セサルヘカラス

四

一五三

○債務者カ支金庫ニ供託シタル公債證書ニ付キ二箇ノ差押アル場合ニ於

テ取立命令ヲ得タル債權者カ他ノ一名ノ配當要求ヲ無視シ其命令ノ旨趣ニ違背シテ直接ニ該證書ヲ受取り一人ニテ之ヲ領得シタルトキハ即チ法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メ他人ニ損失ヲ及ホシタルモノニ外ナラス

四

七六四

○競賣法第三十三條ニ依リ競賣代金ヲ交付スル行爲ハ實體上ノ權利ヲ確定スルモノニ非サレハ其代金ノ配當ヲ受クル權利ナキ者カ誤テ配當ヲ受ケ之カ爲メ當ニ配當ヲ受クヘカリシ者カ配當ヲ受ケサリシ場合ニ於テハ前者ハ民法第七百三條ニ依リ後者ニ對シテ不當利得ノ責ニ任セサルヘカラス

四

七九五

○正當ナル法律上ノ原因ヲ缺ク甲者ノ利益享受ト乙者ノ利益喪失トノ間ニ因果關係ヲ生シ而シテ此關係カ取引上ノ觀念ニ從ヒ確認シ得ラルル限ハ兩者間ニ不當利得ノ關係アリト云フヲ得ヘシ

四

三三〇

○貸借人カ貸借物ヲ改良シタル儘之ヲ貸借人ニ返還シタル場合ニ於テハ貸借人ハ條理上不當ニ利得シタルモノナルヲ以テ改良ニ因リテ受ケタル利益ノ限度ニ於テ之ヲ貸借人ニ返還スルノ義務ヲ有スルモノトス
○受任者カ委任者ノ爲メニ受取りタル金錢ノ所有權ハ委任者ニ屬スルヲ以テ原則トス故ニ受任者ヨリ如上金錢ノ交付ヲ受ケタル者ハ委任者ノ

四五

一

財産ニ因リテ利益ヲ得タルモノト云ハサルヲ得ス

○法律行為ノ取消ハ初ヨリ無効ナリシモノト看做スモノナルヲ以テ取消シ得ヘキ法律行為ニ因リテ財産上ノ給付ヲ爲シタル者ハ其行為ヲ取消シタル後自己ノ選擇ニ從ヒ取消ノ效力トシテ利益ノ返還ヲ請求シ又ハ不當利得ノ原則ニ基キテ利益ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

(參照)

府縣知事ニ於テ國庫ノ棄捐シタルモノヲ徵收シ其金額ヲ國庫ニ納入セサルトキハ不當ノ徵收不當ノ利得ト云フヘシ

〔第七百四條〕

○如上無効ノ株式申込ニ基キ拂込ミタル證據金ハ發起人カ法律上ノ原因ナクシテ受ケタル利益ナリト云フヲ得ヘシト雖モ其虛無ノ名ノ記載ナルコトヲ知ラサル場合ニ在テハ其受ケタル利益ノ利息ヲ償還スルヲ要セス(商法第二百二十六條四四年六八五頁參照)

〔第七百五條〕

○債務ノ存在セサル事實ヲ知リ乍ラ債務ノ辨濟トシテ或給付ヲ爲シタル者カ其給付シタルモノヲ取戻シ得サルコトハ民法施行以前ニ於テ既ニ存在シタル法則ナリ

四五 三

四五 五

二五 九

四五 六五

三五 六三

〔第七百七條〕

○債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其債務ノ存在ヲ知ラサリシ故ヲ以テ給付シタルモノノ返還ヲ請求スル場合ニハ唯其債務ノ存在セサリシコトヲ證明スルヲ以テ足り更ニ其存在ヲ知ラサリシ旨ヲ證明スルノ要ナキモノトス

○民法第七百五條ニ債務ノ存在セサルコトヲ知リタルトキトアルハ債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其當時法律ノ規定上債務ノ存在セサルコトヲ知ラサリシ場合ト單ニ事實上之ヲ知ラサリシ場合トヲ包含スルモノトス

○民法第七百七條ニ所謂證書ノ毀滅ハ獨リ有形的ニ證書ヲ破棄シテ全然其證據力ヲ失却セシメタル場合ニ止マラス債權者ニ於テ其證書ニ橫線ヲ施シ或ハ債務者名下ノ印影ヲ塗抹シタルカ如キ場合ハ勿論其他證書ヲ債務者又ハ辨濟者ニ返還スル等債權者カ自由ニ之ヲ立證方法ニ供スルコト能ハサルニ至リタル場合ヲモ包含ス

四〇 五七

四三 五六

三四 六八

三七 二八一

○民法第七百七條ハ單ニ返還請求拒絕ノ權ヲ債權者ニ與ヘタルニ止マラス恰モ辨濟者カ債務者ノ爲メニ辨濟ヲ爲シタルト同一ノ結果ヲ生セシムル旨趣ヲ以テ其辨濟ヲ有效ト看做シタルモノト解スヘキモノトス

第七百八條

第七百八條

○賭博ノ爲メ給付ヲ爲シタルニ因リ發生シタル債權ノ如キハ不法ノ原因ニ基ク權利ナルヲ以テ裁判上請求スルコトヲ得ス

○不法ノ原因ヲ憑據トスル請求ハ法律ノ保護スヘキモノニ非ス

○債務者カ債權者ヲ詐害スル目的ヲ以テ所有地ノ保管ヲ他人ニ託シ名ヲ賣買ニ假リ之ヲ隱匿スルカ如キハ不法行爲ナルヲ以テ其地所ヲ取戻ス爲メ法律ノ保護ヲ受クルコトヲ得ス

○不法ノ原因ニ基ク權利ハ債權者カ訴ヲ起シテ債權ノ履行ヲ請求スル場合タルト債務者カ訴ヲ起シ其債權者ノ請求權ヲ無效タラシメントスル場合タルト問ハス均シク裁判所ニ向テ救濟ヲ仰クコト能ハサルモノトス

○選舉ニ關スル運動費ト稱スルモノノ給付ナレハ即チ不法ノ原因ニ出テタル給付ナリトハ概言スルコトヲ得サルヲ以テ其金錢給付ノ目的不法ナリシコトヲ主張スル者ニ證明ノ責任アリ

四	三	三	三	三
七九	九	四	二	二
七九	五	八	九	七

○民法第七百八條ノ規定ニ違反シ不法ノ原因ノ爲メニ給付シタルモノノ返還ヲ約スルカ如キハ公益規定ニ反スル法律行爲ニシテ無効ナリト雖モ給付ヲ受ケタルモノヲ賣買贈與等ノ法律行爲ニ基キ其給付ヲ爲シタル者ニ對シ更ニ給付スルハ毫モ不法ニ非ス

○詐欺取財ノ被害者ト雖モ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタルモノハ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

○民法第七百八條ノ規定ハ單ニ不當利得ノ返還請求權ニノミ之ヲ適用スヘキモノニ非スシテ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者カ其給付ニ因リテ受ケタル損害ニ付キ相手方ノ不法行爲ヲ原因トシテ賠償ヲ請求スル場合ニモ亦適用セラレヘキモノトス

同主旨

○民法第七百八條ノ規定ハ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者カ其給付ニ因リテ受ケタル損害ニ付キ相手方ノ不法行爲ヲ原因トシテ賠償ヲ請求スル場合ニモ適用セラレヘキモノナリ

○不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ストハ不當利得ノ場合ニノミ適用スヘキ法則ナリ從テ之ヲ以テ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ場合ニ適用スルコトヲ得ス

○利息制限法ニ違背シタル利息ニシテ既ニ當事者ノ間ニ授受セラレタル

民法 債權 不當利得

三	三	三	三	三
六	六	六	六	六
五	五	五	五	五
五	三	三	三	三
七	三	三	三	三

モノハ債務者ニ於テ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

(同主旨)

債務者カ任意ニ制限超過ノ利息ヲ債権者ニ支拂ヒタル場合ニ於テハ民法第七百八條ニ所謂不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタルモノニシテ其返還ヲ請求スルコトヲ得ス

○不動産ノ賣買及ヒ抵當權ノ設定カ虚偽ノ意思表示ニ出テタル場合ト雖モ登記簿上賣主ヨリ買主ニ其所有名義ヲ移シ又ハ所有者ヨリ抵當權ノ登記ヲ爲スハ民法第七百八條ノ所謂給付ニシテ不動産ノ眞所有者カ之ヲ舊態ニ復スル爲メ所有名義ノ書換及ヒ抵當權登記ノ抹消ヲ要ムルハ其給付ノ返還ヲ請求スルモノニ外ナラス

○土地所有者カ他人ニ實印ヲ濫用セラレ不知ノ債權成立シタル場合ニ於テ強制執行ヲ避クル爲メ該土地ニ付キ假裝ノ賣買及ヒ抵當權ノ設定ヲ爲スニ當リ其債務ハ自己ノ負擔ニ屬スルモノト信セサリシ以上ハ之ヲ以テ不法ノ原因ノ爲メニ給付ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス

(刑) ○甲者カ犯罪ニ因ル損害賠償ノ債務ヲ不正ニ免レント企テ自己ノ不動産ヲ賣買ニ假裝シテ乙者ノ所有名義ニ移轉シ且賣買證書ヲ交付シタルトキハ民法第七百八條ノ所謂不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタルモノニ該當スルヲ以テ乙者ニ對シ其取戻ヲ請求スルコトヲ得ス

三九

六六六

三五

九 一三四

三九

一七〇八

三九

一七〇八

四二

二八九

(刑)

○賣買ニ託シテ人ヲ欺罔シ金錢ヲ騙取シタル詐欺取財ノ場合ニ於テ被害者カ取消ノ意思表示ヲ爲シタル以上ハ欺罔者ニ對シ不法行爲ニ因ル損害賠償ヲ請求シ得ルモ欺罔者カ欺罔手段トシテ被害者ニ引渡シタル物件ハ不法ノ原因ノ爲メ給付セラレタルモノニ外ナラサレハ被害者ニ對シ不當利得ヲ理由トシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

○法律ノ規定ニ反スル行爲ハ必スシモ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルモノノミニ限ラサルヲ以テ不合法ノ行爲ハ常ニ不法ノ原因ナリト論スルヲ得ス

○不動産ノ賣買行爲カ虚偽ノ意思表示ナリシ事實ヲ主張シテ其所有權移轉登記ノ抹消ヲ請求シタル場合ニ於テ裁判所カ民法第七百八條ヲ適用シテ之ヲ排斥シタルハ不法ナリ

○債務者カ債務ノ履行ヲ免レンカ爲メニ其不動産ヲ賣買ニ假裝シテ所有權移轉ノ外觀ヲ裝ヒタル行爲ハ家資分散ノ際ニ在ラサル限り之ヲ目スルニ不法ノ原因ヲ以テスルヲ得ス

○法律ノ禁制ニ違反シタル行爲ニ因リテ爲シタル給付ハ常ニ必スシモ取戻シ得ヘカラサルモノニ非ス而シテ其取戻シ得ヘカラサル給付ハ其行爲カ公ノ秩序若クハ善良ノ風俗ヲ害スル場合ニ限ルモノトス

四二

四五三

四二

五四六

四三

一七一

四三

一七一

四三

五〇一

(同主旨)

法律ノ禁制ニ違反シタル行爲ハ無効ナリト雖モ法律ノ禁制ニ違反シタル行爲ニ因リテ爲シタル給付ハ必スシモ取戻シ得ヘカラサルモノニ非ス其給付ノ取戻シ得ヘカラサルハ其行爲ノ性質上當然醜惡ナル場合ナラサルヘカラス

民法實施前ニ於テハ法律ノ禁制ニ違反シタル行爲ニ基ク給付ハ常ニ必スシモ之ヲ取戻シ得ヘカラサルモノニ非ス而シテ其取戻シ得ヘカラサル給付ハ行爲ノ性質上當然醜惡ナル場合ニ限ルモノトス

(刑)

○被告カ不法ノ原因ノ爲メ物ノ給付ヲ受ケタル場合ニ於テ給付者ハ民法ニ依リ物ノ返還ヲ請求シ能ハサルトキト雖モ之カ爲メニ其所有權ヲ喪失スヘキモノニ非サレハ被告ノ占有セル物ハ依然他人ノ所有物トシテ存續スヘキモノトス

(同主旨)

公務員ニ贈賄スル目的ヲ以テ他人ニ金錢ヲ委託シタル者ハ民法第七百八條ニ依リ其取戻ヲ爲スコトヲ得サルモ之カ爲メニ該金圓ノ所有權ヲ喪失スヘキモノニ非ス

○民法第七百八條ニ所謂不法ノ原因トハ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル場合ニ限ルモノナルヲ以テ如上ノ分家契約ノ如キハ同條項ノ不法原因ニ該當セス從テ之ニ基キ爲シタル土地ノ讓與ハ返還ヲ請求シ得ヘカラサル給付ニ非ス(第九十條四四年五八〇頁參照)

三三	三五	三九	四三	四三	四四
七四	二八二	一五三二	一三六一	五八〇	

(同主旨)

民法第七百八條ニ所謂不法ノ原因トハ其原因タル行爲カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル場合ノ謂ナリ

(參照)

自己ノ犯罪行爲ヲ口實トシテ自己ノ權利ヲ回復セントスルモノハ法律之ヲ保護セス自己ノ犯罪ヲ原由トスル訴求ハ裁判上保護ヲ與ヘス
妾ナルモノハ男女間ニ於ケル内輪ノ關係ニシテ一夫一婦タル善良ノ風俗ニ反スルモノナレハ法律ハ其關係ヲ認メス從テ妾ナル人格ハ正當ノ身分トシテ之ヲ認ムルヲ得ス故ニ妾タル身分ノ關係ニ基キ取結ヒタル契約ハ不法ノ原因ニ基クモノナレハ裁判上之方履行ヲ許容スヘキモノニ非ス

第五章 不法行爲

○或物品ノ販賣ヲ委託セラレタル者カ契約ノ解除アリタルニ拘ハラズ不法ニ之ヲ賣却スルニ於テハ其損害賠償ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ辨濟ノ日マテノ遅延利息ヲ支拂フヘキハ當然ナルモ該物品ヲ賣却シタル日以後ノ利子ヲ支拂フヘキ法理ナシ

○不法行爲トハ損害ノ原因タル權利侵害ノ行爲ヲ指稱ス故ニ結果タル損害自體ヲ權利ノ侵害ナリトシテ不法行爲ト謂フヲ得ス

四一	四二	四四	二七	二九	三〇	三二	三三	三五	三六	三九	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

原因トシテ損害賠償ノ訴ヲ爲シ得ヘキモノトス

○債權者カ誤テ第三者ノ所有ニ係ル石炭ノ差押ヲ爲シ探炭ノ貯蓄ヲ妨ケ之ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害ハ不法ノ差押ヨリ直接ニ發生シタルモノナレハ縱令執達吏カ故ラニ注意ヲ爲シ適當ノ場所ニ石炭ヲ移積セサルモ之ヲ以テ其賠償責任ヲ免ルルノ理由ト爲スコトヲ得ス

○故意又ハ過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害スルハ即チ不法行爲ニシテ其他人ノ權利ハ必スシモ法令ノ明文ヲ以テ認許セラレタルコトヲ要セス

○田地ノ所有者カ田養ノ爲メ各自ノ反別ニ應シテ河川ノ流水ヲ平等ニ使用シ得ヘキ慣習上ノ權利ヲ有スル場合ニ於テ其一人カ他ノ所有者等ノ分水權ヲ侵害シタルトキハ民法第七百九條ノ不法行爲ヲ以テ論斷セサルヘカラス

○故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ其身分ノ官吏タルト否トヲ論セス民法第七百九條ニ依リ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス

○債權者カ債務者ノ營業用有體動産ヲ不法ニ差押ヘ其營業ヲ爲スコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ之ニ因リテ生スル損害ヲ賠償スヘキ責アルモノトス

(同主旨)

故意又ハ過失ニ因リ營業上必要ナル物品ヲ差押ヘ爲メニ休業スルノ止ムヲ得サルニ至ラシメタル者ハ營業者ニ於テ該物品ハ他ヨリ買受ケ又ハ借受ケテ營業ヲ繼續シ得ヘキ性質ノモノナリトノ理由ヲ以テ休業ニ對スル損害賠償ノ責任ヲ免レ得ヘキモノニ非ス

○有體動産ノ差押ヲ受ケタル者カ之ヲ使用シテ營業ヲ爲スコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ更ニ同種ノ他品ヲ買入レ營業ヲ繼續シテ損害ノ減少ヲ圖ルト否トハ一ニ其者ノ自由ニ屬ス故ニ其差押ノ爲メ休業シタル場合ト雖モ營業ヲ繼續シテ減少スルコトヲ得ヘカリシ金額ハ之ヲ損害額ヨリ控除計量スヘキモノニ非ス

○株式會社ノ理事カ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル場合ニハ民法第七百九條ニ則リ被害者ニ對シテ賠償ノ責ニ任セサルヘカラス

○電氣事業者カ電線ヲ架設スルニ付キ電氣事業取締規則ニ違背シ他人ニ損害ヲ加ヘタル以上ハ其工事ノ施行ニ關シ當該官廳ノ認可ヲ受ケタル場合ト雖モ民法上賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

(同主旨)

電線架設ノ如キ危險ノ工事ヲ施設スル者ハ其危險豫防ノ設備充分ナラサルカ爲メニ損害ヲ蒙ルリタル者ニ對シ賠償ノ責ニ任セサルヲ得ス

(刑) ○詐欺取財ノ被害者カ契約取消ノ意思表示ヲ爲シタル以上ハ犯人ノ不法

三八

三六

三九

三九

三九

三九

八七三

一五四

四四五

四四五

八七

九七九

三三九

七二

三九

九七九

三九

二六七

三九

二八二

三三

三

行爲ニ因ル賠償責任ハ其行爲ノ時ヨリ發生スルモノトス

○甲者カ土地ヲ買受クルニ當リ其名義書換方ヲ乙者ニ委任シタルモ乙者ハ擅ニ自己ノ所有名義ニ公證ヲ經テ之ヲ丙者ニ賣却シタルトキハ甲者ハ丙者ニ對シ其所有權ヲ主張シテ之ヲ自己ノ名義ト爲サシムルコトヲ得ス從テ乙者ハ甲者ニ對シテ其損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス

○實際上或權利ヲ有セサル債權者カ法律ノ規定ヲ知ラス若クハ之ヲ誤解シテ其權利アリト確信シ債務者ニ對シテ財産ノ假差押ヲ爲シ之ニ損害ヲ生セシメタルトキハ一應ハ債權者ニ過失アルモノト見ルヲ當然トス然レトモ債權者ノ茲ニ出テタル相當ノ理由存スルトキハ過失アリト云フヲ得ス

(同主旨)

假差押ヲ爲シタル者カ債權ヲ有スルコトヲ確信シ而カモ之ヲ信スヘキ相當ノ理由アル場合ニハ縱令裁判上其債權ナキニ歸スルモ他ニ特別ノ事由ナケレハ其假差押ヲ以テ故意若クハ過失ニ出テタルモノト爲スコトヲ得ス

○共有者ノ一人カ共有物ノ上ニ權利ヲ行使スルニ當リ故意若クハ過失ニ因リテ他ノ共有者ノ權利ヲ侵害スルトキハ其所爲ハ不法行爲ヲ構成シ又法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他ノ共有者ニ損失ヲ及

四 二九

四 三五

四 八四七

三九 二八九

ホシタルトキハ不當利得ト爲ルヘキモノトス

○債務者ハ假差押命令ノ執行ニ對シテ之ヲ拒ムコトヲ得サルト同時ニ縱令債務者ヨリ其差押物ヲ選擇指示スルモ執達吏ハ之ニ從フヘキ責任ヲ有セス故ニ差押自體ノ不法ナル場合ニ在テハ執達吏カ債務者ノ指示セラル物品ヲ差押ヘタリトモ之カ爲メニ債權者ノ責任ニ異同ヲ生スルコトナシ

(刑)

○他人ノ不法行爲ヲ原因トシテ損害ノ賠償ヲ請求スルニハ其不法行爲ト損害トノ間ニ因果ノ連絡アルコトヲ要ス故ニ被害者ノ蒙ムリタル損害カ事物ノ通常ノ經過ニ於テ其不法行爲ヨリ生スヘキモノニ非サルトキハ該行爲ハ唯其損害ノ發生ニ機會ヲ與ヘタルモノニ過キササルヲ以テ被害者ハ賠償ヲ請求スルノ權利ナシ

○破産事件ノ裁判費用等ヲ負擔スル責任ハ不法行爲ノ有無ニ關セス申立若クハ抗告ノ當否ニ因リテ定マルヘキモノナレハ不法行爲ヲ原因トシテ之ヲ請求スルハ失當ナリ

○河川ノ官有堤防ニ接續スル土地ノ所有者カ特別ノ法令又ハ慣習ニ依ルニ非スシテ其堤防ニ官ノ許可セル範圍ヲ越ヘテ増築工事ヲ爲シタルカ爲メ對岸ニ接續スル他人ノ田地ニ水害ヲ及ホシ又ハ其危險ヲ加フルニ

四 九三七

四 一〇九七

四 二四四

四 三九六

至リタルトキハ被害者ニ對シテ損害ヲ賠償スルノ外尙ホ水害ノ排除又ハ豫防ニ必要ナル行為ノ責ニ任セサルヘカラス

○不法行為ニ因リテ生シタル損害額ハ行為當時ノ價額ニ依リ之ヲ算定スルコトヲ得ルモ其算定ノ標準時期ハ如上ノ時期ニ限ラレタルモノニ非ス

○他人ノ不法行為ニ因リテ損害ヲ受ケタル者ハ行為當時ノ價格ヲ標準トシテ之カ賠償ヲ請求シ得ルハ勿論尙ホ其後ニ於テモ受クヘカリシ利益ニシテ不法行為ノ爲メニ受クルコト能ハサルニ至リタルモノアラハ判決ヲ受クル迄ノ間ニ於テ其利益額ヲ請求スルコトヲ得

○破産管財人カ破産財團ニ組入ラレタル破産者所有ノ金錢ニ付キ有益ナル管理方法ヲ講セサリシ爲メ損害賠償ノ責ニ任スヘキ場合ト雖モ不法ノ破産申請ヲ爲シタル者ハ債務者カ破産處分上差押ヘラレタル金錢ヲ利用シ能ハサルニ因リテ被フリタル損害ヲ賠償スルノ責ナキヲ得ス

○不法行為ノ損害カ權利ノ侵害ニ對シ因果ノ關係上必然ノ結果ナルトキハ其直接ナルト間接ナルトヲ問ハス加害者ニ於テ之ヲ賠償スルノ責ニ任スヘキモノトス

○假執行ノ宣言ニ基キ未確定ノ判決ヲ假ニ執行シタル後其判決カ上級審

四三	四三	四三	四三	四三
二七三	二七三	四五	四五	四六三

ニ至リ變更セラレタリトスルモ其假執行ニシテ故意若クハ過失ニ出テタルモノニ非サル以上ハ右假執行文ニ基キ爲シタル差押ヲ以テ不法行為ナリト云フヲ得ス

○湯屋營業ハ普通一般ノ營業ト同シク唯法令ノ制限條件ニ從ヒ營業ヲ爲スコトヲ得ルニ止マリ一ノ權利トシテ法律ノ保護ヲ受クルモノニ非ス從テ之カ侵害ヲ理由トシテ賠償ヲ求ムルノ權利ナキモノトス

○債務者ノ債務不履行ハ民法第七百九條以下ニ所謂不法行為ナリト云フヲ得サルヲ以テ縱令之ニ因リ損害ヲ生スルモ苟モ債權者ノ享有スル他ノ權利ヲ侵害セサル限り不法行為ニ因ル損害ノ賠償トシテ之カ救済ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス

(刑) ○殺害ニ基因シタル葬式費用ハ殺人行爲ニ因リ生シタル損害ニ外ナラサレハ其費用カ早晚何人ニモ免レ得サルモノナルコトヲ理由トシテ之カ賠償ヲ辭スルコトヲ得ス

○民法不法行為ノ規定ニ於テ過失ノ有無ヲ定ムヘキ注意ノ程度ハ普通注意ヲ用フル人カ事物ノ狀況ニ應シテ通常爲スヘキ注意ヲ以テ標準ト爲スヘキモノナレハ苟モ其程度ニ相當スル注意ヲ怠ラサル場合ニ於テハ縱令其程度ヲ超エ一層周到ナル注意ヲ盡セハ損害ノ發生ヲ防止スルコ

四四	四四	四四	四四
五六九	五二九	五一九	四二四